

【表紙】	
【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和元年8月16日
【事業年度】	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
【会社名】	トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービー (Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V.)
【代表者の役職氏名】	執行取締役 (Managing Director) 伊 藤 裕 康 (Hiroyasu Ito)
【本店の所在の場所】	オランダ王国 1077 XV アムステルダム市 ザイドプライン 90、ワールド・トレード・センター・ アムステルダム タワーH レベル10 (World Trade Center Amsterdam, Tower H, Level 10 Zuidplein 90, 1077 XV Amsterdam, The Netherlands)
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 広 瀬 卓 生 弁護士 吉 井 一 浩
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング アンダーソン・毛利・友常法律事務所
【電話番号】	03-6775-1000
【事務連絡者氏名】	弁護士 西 村 綱 木 弁護士 山 本 真 裕 弁護士 森 佳 苗
【連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング アンダーソン・毛利・友常法律事務所
【電話番号】	03-6775-1482 03-6775-1306 03-6775-1467
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

- (注1) 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「ユーロ」は欧州経済通貨同盟に参加している欧州連合の加盟国の統一通貨を、「円」は日本国の法定通貨を指すものとする。本書において、別段の記載がある場合を除き、便宜上記載されている日本円への換算は、1ユーロ＝120.56円の換算率（2019年8月1日現在の株式会社三菱ＵＦＪ銀行の対顧客電信直物売買相場仲値）により計算されている。
- (注2) 本書において、文脈上別段の記載又は解釈がなされる場合を除き、「当社」又は「TMF」はトヨタ モーター ファイナンス（ネザーランズ）ビービーを、「トヨタ自動車」はトヨタ自動車株式会社を、「TFS」又は「親会社」はトヨタファイナンシャルサービス株式会社を指す。
- (注3) 当社の事業年度は、4月1日に開始し翌年の3月31日に終了する。特定の「事業年度」に言及する場合、当該年度の3月31日に終了する事業年度を指す。例えば、「2019年度」は2018年4月1日に開始し2019年3月31日に終了する事業年度を指す。
- (注4) 本書中の表で計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

第一部 【企業情報】

第1 【本国における法制等の概要】

1 【会社制度等の概要】

(1) 【提出会社の属する国・州等における会社制度】

オランダにおける会社設立の方法

オランダ法の下に設立された会社はその所在地をオランダ国内に置く必要がある。オランダ法においては、会社の国籍決定につき設立地主義を採用しており、会社がその主たる事業を国外で行うことによってその国籍を失うことはない。

オランダの会社は、有限責任株式公開会社（Naamloze Vennootschap）又は有限責任株式非公開会社（Besloten Vennootschap若しくはB.V.）のいずれかの形態をとる。この二つの会社形態はその性質及び構造が非常に類似している。当社はB.V.であるため、本概要の残りの部分ではB.V.のみに関するオランダ会社法について述べるものとする。

B.V.は記名株式のみを発行することができ、無記名式の株式を発行することはできない。また、記名株券（aandelenbewijzen）を発行することができる。例外が適用されない限り、B.V.は年次計算書類を公表する義務がある。

B.V.は、原則として、「大会社制（Large Company Regime）」が適用されない限り、執行取締役会による経営構造になっている。「大会社制」の場合、監督取締役会という追加的機関が、法により義務付けられている（ただし、会社が「一層型取締役会」を有する場合はこの限りではない。詳細については、下記を参照のこと。）。その他の場合においては、B.V.は監督取締役会という追加的機関の設置を選択することができる。いくつかのB.V.は、その選択又は「大会社制」の適用のいずれかにより、監督取締役会（raad van commissarissen）及び執行取締役会（bestuur）により構成される二層型取締役会制度を有している。

監督取締役会は自然人のみで構成されるが、執行取締役会は自然人、法人のいずれも構成員となることができる。監督取締役会は、定款又は法律によりその他の権限が付与されている場合を除き、監督・助言機能を有する。しかし、執行機能を有することはできない。特定の状況においては、（執行取締役会の）取締役1名が就くことのできる非執行役員としての役職の数には法定の制限が課されている。

「大会社制」が適用されない場合（及び「大会社制」が当社に適用されない場合）、定款において、執行取締役会のみを設置するかどうかを株主が自由に決められる旨を定めることができる。すべての株式が1人の株主に所有されている場合には、このような形態をとるのが通例である。

この他にも、取締役会の義務が1名以上の執行取締役及び1名以上の非執行取締役の間で割り当てられる旨を定款において規定することにより、B.V.は執行取締役及び非執行取締役の両者により構成される「一層型取締役会」を有することができる(この規定は、直近では2007年11月19日に修正されたTMFの定款(以下「TMFの定款」という。)に従い、現在当社には適用されていない。)。自然人のみを非執行取締役に任命することができる。義務及び任務の割当ての詳細については、定款において、又は、例えば、一連の取締役会規則を採用することにより、定款に従い規定することができる。義務及び任務の内部的な割当てにかかわらず、原則として、非執行取締役及び執行取締役の両者は、B.V.の一般的な業務及び事業に関して、引き続き共同で責任を負う。これは「二層型取締役会」制度における監督取締役とは異なる点である。「二層型取締役会」においては、執行取締役会から切り離された機関である監督取締役は、原則として執行取締役会の監督についてのみ責任を負っている。

B.V.は定款(Statuten)を含む設立の公正証書(Akte van Oprichting)を作成することにより設立される。

設立によってB.V.は法人となる。

B.V.は、オランダ民法典第2編に含まれるオランダ会社法及び定款の規定に従って解釈される。オランダ会社法は定款と付属定款との間に区別を設けていない。定款は法律の強行規定に反してはならない。

オランダ会社法は、定款中において少なくとも以下の項目を記載していなければならないとされる。

- () 名称
- () 所在地
- () 会社の目的
- () 授權株式資本(ただし、定款により授權株式資本がある旨が定められている場合に限る。)並びに株式の数、種類(定款により複数の株式の種類がある旨が定められている場合。)及び額面金額
- () 執行取締役会の構成員(及び監督取締役会が代理を務める場合はその構成員)が不在か又はその義務の履行を妨げられた場合の規定

B.V.の公式な所在地はオランダ国内でなくてはならない。定款には公式所在地のある地方自治体の名称を記載すれば足りる。これは必ずしも主に業務の行われる場所と同じである必要はない。法に従って、すべてのB.V.は商業登記簿に法定事項を届け出る必要がある。B.V.の商業登記簿ナンバーは、外部に向けたすべての手紙、注文書、請求書、申込書及びその他の告知(広告を除く。)の中に示されなければならない。さらに、B.V.の公式所在地及び正式名称は、B.V.の定期刊行物並びにB.V.のすべての他の発行物(電報及び広告を除く。)の中に示されなければならない。

B.V.の目的はB.V.の主たる事業の簡潔な記述で足りる。目的の項は定款の変更によって変更することができる。B.V.が当該目的の実現に資する行為を行わない場合には、B.V.(又は破産管財人)は、他の当事者が当該取引は会社の目的とは異なるものであるということを現に知っていたこと又はかかる他の当事者が認識すべきであったことを証明した場合に取引を無効とする越権行為の原則(*ultra vires doctrine*)を主張できるにすぎない。しかし、契約の他の当事者は、たとえB.V.の悪意を証明できた場合でもかかる原則を主張することはできない。したがって、彼らはかかる取引がB.V.の目的の範囲内にあるかどうかにかかわらず取引に拘束される。

B.V.は期限の定めなく存続する。

株式資本

株式資本と負債の比率については、法令上の規定はない。定款はこの比率を定めないのである。B.V.の定款において、定款を修正することなく発行できる株式数の制限を定める授權資本(*maatschappelijk kapitaal*)の額を規定する必要はない。それにもかかわらず、授權資本の額が定款に記載される可能性がある。この場合、発行済資本は、定款及び法律の所定の手続によれば、授權資本の限度を超えて増加させることができる。法は授權資本について金額上の制限は特に設けていない。

株式の各発行に関して定められた条件として、()払込みの繰延べ、()株式の額面金額以外の通貨建てでの払込み及び()現物出資を定めることができる。株式が公募される場合、これらの条件は目論見書に記載される。株主は、未払いの残額に対して責任があるが、その額を超えて責任を負担しない。

株式は額面株式でなくてはならない。定款は異なる額面の株式を定めることができる。無額面株式は認められない。株式はその額面金額を下回っては発行できないが、額面金額を超えて発行することができる。株式資本及び各株式の額面金額はユーロ(又は2002年1月1日のユーロの導入後、定款が変更されていない場合にはオランダギルダー)又は外貨建てで表示することができる。B.V.の株式については、一定の期間又はB.V.がかかる支払を要求しない限りは、額面金額の全部又は一部が全額払込済である必要はないと決定することが可能である。

資本増加

定款により授權資本の額が定められている場合、授權資本は、定款の変更により増加させることができる。

発行済株式資本は、発行の公正証書に従い、株式の発行によって増加させることができる。株式の発行を決議するための権限が、取締役会の権限内又は株主総会の権限内のいずれにあるかは、定款により定められる。発行済株式資本は、定款が授權資本を規定している場合には、授權資本を超えることはできない。原則として、B.V.の既存の株主は、定款に別段の定めのない限り新規発行株式に関して先買権がある。

資本の減額

執行取締役会は、B.V.による（全額払込済みの）自己株式の取得を、（ ）いつでも対価なしで、又は（ ）自己株式の取得価格を差し引いたB.V.の持分が法律又は定款に従って保持しなければならない準備金を上回る限り、決議することができる。B.V.がかかる取得の後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなった場合、B.V.がかかる取得の後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなることを執行取締役会の構成員が知っていた場合又はそれを合理的に知ることができた場合には、執行取締役会の構成員がかかる取得により発生する不足額（及び取得日以降の法定利息相当額）につき責任を負う可能性がある。B.V.がかかる取得の後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなることを知っていた又はそれを合理的に知ることができた自己株式の譲渡人は、B.V.に対して、処分された自己株式の取得価格に取得日以降の法定利息を加えた金額を上限として、自己株式の取得に起因する不足額を補償する責任を負う。B.V.又はその子会社以外の主体が少なくとも1株を所有している限り、B.V.が購入することのできる自己株式の金額に法定の上限はない。

株主総会は、（ ）株式の消却又は（ ）定款を変更し株式の額面金額を減額することによりいつでもB.V.の資本を減額することを決議することができる。しかしながら、資本がその払戻しにより減額する場合、かかる決議には執行取締役会の承認を要する。

執行取締役会の構成員は、B.V.が資本の払戻しによる減額の後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなった場合に、その責任を負う可能性がある。資本の減額の結果として支払を受け、かつその時点で、B.V.がかかる減額の結果、B.V.の債権者に対する支払がその後できなくなることを知っていた株主もまたその責任を負う可能性があり、又はかかる支払額を返金することになる。

利益分配

定款に別段の定めのない限り、利益の分配は株主総会によって決定することができる。この場合、株主総会は、利益を準備金に組み入れ、その結果として分配される配当金額を決定する権限を有する。利益は、B.V.の持分が法定準備金及び定款により規定された準備金を上回る限り、株主に対して分配することができる。利益の分配に関する株主総会決議には、執行取締役会の承認を要する。執行取締役会は、B.V.がかかる分配の結果、支払期限が到来した債務の支払ができなくなることを知っている場合又はそれを合理的に知るべき場合にのみ、かかる承認を拒絶することができる。執行取締役会の構成員は、（ ）B.V.が利益分配後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなった場合、又は（ ）B.V.がかかる分配後にB.V.の債権者に対する支払ができなくなることを知っていた若しくはそれを合理的に知ることができた場合、その責任を負う可能性がある。分配金を受け取ったが、その時点でB.V.がB.V.の債権者に対する支払をその後行うことができないと知っていた株主は、その責任を負う可能性があり、又は受け取った分配金を返金しなければならない可能性がある。

また、定款により、利益の準備金への組入れを行う権限を、執行取締役会又は監督取締役会などの他の機関に付与することができる。

配当は、株主に対しその所有株式の額面金額の比率に応じて支払われる。ただし、定款に別段の定めがある場合、又はすべての株主の同意を得てかかる配当が株主の意に沿わない場合にはこの限りではない。定款により、特定の種類の株式については、会社の利益又は準備金における割当てに対して限定的な権利のみ付与されるか、又は権利が付与されない旨を規定することができる。また、会社は、上記記載の要件及びオランダ民法典の規定に従い、中間配当を行うことができる。

株主及びその権限

普通株式の所持人は、()定款に記載された方法により配当の支払を受け、()株主総会に出席し、審議に参加し、()株主総会において投票する権利を有する。ただし、株主総会に出席し、審議に参加する権利を所持人に対して付与する株式については、(a)その所持人がB.V.の利益及び/又は準備金並びに清算剰余を分配する権利は付与されるが、株主総会において投票する権利は付与されないか、又は(b)その所持人が株主総会において投票する権利を付与されるが、B.V.の利益及び/又は準備金並びに清算剰余を分配する権利は付与されない旨を、定款により規定することもできる。

オランダ会社法は、オランダの株主と外国の株主とで区別を設けていない。株主は、場合により、法律上の権利を、()個別に、()最低1%の株式保有要件(いずれの株式の種類も含む。)に基づき、()(定款において異なる種類の株式が割り当てられる場合)同じ種類の株式を保有するその他の株主と共に、又は()株主総会のような会社の機関として集合的に行使できる。

あらゆる状況の下で、法は株主に他の株主及び会社の機関に対して合理的にかつ公正に行為することを要求する。これは株主がB.V.の利益に留意しなければならないこと又は他の株主に対して義務を負うということの意味しない。しかし、かかる法律の規定は、例えば不誠実を理由に法廷において株主の決定を無効とすることを意図した少数株主の努力に資するものである。発行済資本の最低1%又は10%(場合により、適用のある最低基準に従う。)を表章する株主は(共同して、又は単独で)商工会議所(Ondernemingskamer)の賛助に基づき、事業の管理又は運営にかかる調査を申請することができる。

オランダ法の下では、株式の譲渡に関して、定款の中に譲渡制限の手続について記載する必要はなくなったが、(現在TMFの定款において記載されているように)定款において譲渡制限の手続について、引き続き(自主的に)記載することはできる。また定款により、株式の譲渡を一時的に禁止することもできる。

株主総会は会社の機関である。法により特定の権限を付与されており、多くの場合、当該権限は定款により補足される。法又は定款により会社の他の機関に対して付与されていない権限は、株主総会によって行使される。しかし、株主総会はB.V.の最高機関ではない。したがって、株主総会は、以下の事項を行うことはできない。

() B.V.の執行機関として行為すること(これは執行取締役会の固有の権能である。)。

() 法又は定款が監督取締役会に決定権を授権した場合に、監督取締役会の決定を却下すること。

定款において、株主総会は執行取締役会に対して特定の指示を与える権限を付与されている。執行取締役会は、これらの指示を執行する義務を負う。しかしながら、執行取締役会が、かかる指示がB.V.の利益にかなっていないと考慮したことにより、これらに対して強い反対を示した場合、執行取締役会はかかる指示の実施を拒絶することができる。

「大会社制」が適用される会社は、適用されない場合であれば株主総会が行使することのできる特定の権限（執行取締役会の構成員を指名及び解任する権利、並びに執行取締役会の特定の決議を事前承認する権利を含む。）が法律によって付与された監督取締役会を置いている。したがって、B.V.に「大会社制」の適用がある場合は、株主総会は、法律上、執行取締役会の構成員の指名及び解任に関して決定権を有しない。

株主総会

株主総会は、原則として、定款に定められたオランダ国内の場所においてのみ開催される。株主総会は、定款において規定された場合には、オランダ国外においても招集することができる。

株主総会の招集の通知期間は、定款に別段の定めのない限り、少なくともかかる総会の開催日前の8日間とする。執行取締役会をして株主総会を招集させるために、1名の株主により保有される株式の最少割合は、1%である。

株主総会は、年一回以上開催されなければならない、あるいは（集会権（vergaderrechten）を保有するすべての者の同意を得て）株主総会を開催しなくとも年一回以上決議が行われなければならない。この株主総会は年次株主総会と呼ばれる。その他の株主総会は、臨時株主総会と呼ばれる。株主総会は、通常、執行取締役会又は監督取締役会（適用ある場合）により招集される。

株主総会が適正な方法により招集されない場合、有効な決議はすべての株主及び集会権を保有するその他の者が意思決定に同意し、執行取締役及び監督取締役会の構成員（適用ある場合）に株主総会に対して助言を行う十分な機会が付与された後にのみ採択することができる。議案は、株主総会を招集した者が決定するが、発行済資本の1%以上を保有する株主及び／又は集会権を保有するその他の者（共同であるか単独であるかを問わない。）は、株主総会の30日前までに書面により要請した場合、株主総会の議案を提案する権利を有する。議案にない事項に関する決議は、集会権を保有するすべての者が意思決定の方法に同意した上で採択され、また執行取締役及び監督取締役会の構成員（適用ある場合）に株主総会に対して助言を行う十分な機会が付与された後にのみ有効となる。

実務上、監督取締役会（もしあれば）の会長又は執行取締役会の会長が株主総会の議長となる。議長は議事録の保管及び出席者名簿の作成のために秘書役を指名することができる。

法は特定の決議の場合を除き、通常、決議の採択のための定足数を規定していない。定款においては、株主総会において特定の議題（例えば定款の変更及びB.V.の解散）を決する場合に出席すべき株式の一定比率以上の定足数を規定している場合がある。

(2) 【提出会社の定款等に規定する制度】

当社の株式資本

2019年3月31日現在、当社の授權資本は、1株当たり454ユーロである普通株式（以下「普通株式」という。）10,000株、合計4,540,000ユーロである。当社の発行済払込株式資本は908,000ユーロである。

株式発行

普通株式は、株主総会の決議に従って発行することができる。

普通株式を発行するための決議を行う権限を与えられた機関（すなわち、株主総会）は、発行価額及びその他の発行要項を決定する。

株主総会

年次株主総会は、当社の事業年度の終了から5ヶ月以内に開催されなければならない。臨時株主総会は、執行取締役会が必要と判断したとき、又は当社の発行済株式の100分の1以上を有する株主が、単独で又は共同して、裁判所による授權を得て、開催を要求したときに開催される。株主総会の招集の通知期間は、少なくともかかる総会の開催日前の15日間とする。株主総会は、オランダ王国アムステルダム市内で開催される。

株主本人又はその代理人は、株主総会に出席することができる。株主総会の決議は、一般に、行使された議決権の過半数により採択される。株主総会について定足数の定めはない。

株主総会は、TMFの定款に基づき特定の事項について権限を与えられている。このうちの一部の事項については、既述のとおりである。株主総会は、とりわけ以下の事項について権限を有する。

- () 執行取締役の報酬の決定。
- () 当社の年次財務書類の承認。
- () 当社の新株発行決議及びその要項の決定。
- () 当社の解散又はTMFの定款変更の決議。

年次株主総会の議題は、年次計算書類の承認、当該事業年度における執行取締役会の構成員の解任、及び株主総会の処分に委ねられている利益分配を含む特定の議題を含んでいなければならない。

議決権

当社の株式資本の各株式には、1議決権が付与されている。オランダ法又はTMFの定款により規定される一定の例外を除き、株主総会の決議は議決権の過半数の投票によって可決される。

株主総会において、当社又はその子会社により所有される普通株式については、議決権を行使することができない。当社及びその子会社のいずれも、自身が所有する用益権及び質権に関する普通株式につき、議決権を行使できない。前述の結果として議決権が付与されていない普通株式については、投票しかつ出席若しくは代理された株主数の決定、又は株主総会で提供され若しくは示された株式資本額の決定にあたって考慮されない。

一定数の普通株式を所有する株主は、普通株式の他の所有者の保有する議決権以外のいかなる議決権も有しない。

配当受領権

オランダ民法典第2編第216条に従い、株主総会は、普通株式についての年間配当金の支払の有無及び利益の分配方法について決議するものとする。利益は、B.V.の持分が、払込済及び払込請求済の株式資本に法定準備金及びTMFの定款により規定された準備金を加えた額を上回る限り、株主に対して分配することができる。利益の分配に関する株主総会決議には、執行取締役会の承認を要する（詳細については、上記「(1) 提出会社の属する国・州等における会社制度」を参照のこと。）。上記は、中間配当の支払にも適用される。

株式の形式及び譲渡

普通株式は、無記名式ではなく、記名式株式であるものとする。

記名式株式の譲渡は、TMFの定款の第9条の規定（記名式株式の譲渡は株主総会の事前承認を必要とする。）及び（当社が譲渡の当事者でない場合）当社による譲渡の承認書に従い、公正証書により実行されるものとする。

取締役会

執行取締役会は、当社の業務及び経営について責任を負っている。執行取締役会は、2名以上の取締役により構成され、常に2種類の取締役（L執行取締役及びS/R執行取締役）からそれぞれ1名が含まれている。執行取締役会のすべての構成員は株主総会により選任及び解任される。執行取締役は全員が当社の常勤役員である。TMFの定款には執行取締役の任期にかかる定めはない。執行取締役の報酬は、株主総会により決定される。

株主総会によって任命された執行取締役会会長が執行取締役会の議長を務める。TMFの定款には執行取締役会の正式な会合の数、定足数又は決議手続についての定めはない。ただし、執行取締役会の決議は多数決並びに少なくともL執行取締役及びS/R執行取締役各1名の承認をもって採択される。

なお、当社においては監督取締役会は設置されていない。

会計

当社の事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までである。

執行取締役会は、株主及び預託証券の所有者の閲覧のために、毎事業年度末から5ヶ月以内に、年次決算書を作成し、当社の事務所に提出するものとする。ただし、特別な事態に応じて、かかる期間が株主総会により最長5ヶ月延長された場合を除く。また、執行取締役会は、同期間内に年次報告書を作成するものとする。

2 【外国為替管理制度】

現在、オランダ国内で効力を有する法令上の規定又はTMFの定款上の規定の中に、オランダの居住者でない当社株主への送金を制限するものはない。当社の株式に関するユーロによる現金配当は適法にオランダから送金でき、いかなる交換可能通貨にも交換することができる。

3 【課税上の取扱い】

以下は、当社により発行される社債（以下「本社債」という。）の取得、所有及び処分に関する一定のオランダにおける課税上の取扱いの概要である。この概要は、特別な課税上の取扱いを受ける可能性がある本社債の所有者（取得予定者）（以下「本社債権者」という。）による本社債の取得、所有及び処分に関連するオランダの税制のすべての側面の包括的又は完全な概観を示すことを目的としたものではない。

この概要は、本有価証券報告書の日付現在において有効なオランダの税法及び税慣行に基づくものであるため、変更される可能性があり、かかる変更が将来及び過去の課税上の取扱いに影響を与える場合がある。

本社債の取得予定者は、個々の状況における本社債の取得、所有及び処分に係る課税上の取扱いに関し、専門家に相談する必要がある。

源泉徴収税

本社債に係る一切の支払は、オランダ又はオランダ国内における下部行政主体若しくは税務当局により課税、徴収、源泉徴収又は賦課されるあらゆる租税（性質の如何を問わない。）の源泉徴収又は控除を受けない。

所得税及びキャピタル・ゲイン税

本社債権者は、本社債に関し、オランダの所得税又はキャピタル・ゲイン税（本社債に基づく支払又は本社債の処分、みなし処分又は交換において実現された利益に関し課される税を含む。）を課されない。ただし、下記の条件を満たす場合に限る。

- （ ）かかる本社債権者が、オランダ、ボネール島、シント・ユースタティウス島又はサバ島の居住者ではなく、若しくはオランダ、ボネール島、シント・ユースタティウス島又はサバ島の居住者であるとみなされていないこと。
- （ ）かかる本社債権者が、全部又は一部を問わず、オランダ、ボネール島、シント・ユースタティウス島又はサバ島の恒久的施設又は恒久的代理人を通じて事業が営まれており、かつ本社債がその企業又は企業の一部（場合による。）に帰属する企業又は企業の持分を保有していないこと。

- () かかる本社債権者が個人の場合、本社債権者又はその配偶者、そのパートナー、そのパートナーとみなされる者、若しくはかかる者と家族若しくは所帯を共にする他の者、若しくはかかる者の他の親類（里子を含む。）のいずれも、（みなし）委託者、譲渡者若しくは類似の原資産所有者（以下「委託者」という。）として、又は委託者が死亡した場合は信託、基金若しくは類似の仕組み（以下「分離私有財産」という。）における委託者の資産に対する権利の割合に応じてその受益者（以下「受益者」という。）として、直接的か間接的であるかを問わず、(a)オランダにおける本社債の手取金を間接的に管理しておらず、(b)当社及び／又は法律上若しくは事実上、直接的若しくは間接的に、オランダにおける本社債の手取金を管理する他の事業体に関して重要な持分を保有していないこと。本第()項上、本社債権者が、単独で、又はその配偶者、そのパートナー、そのパートナーとみなされる者、若しくはかかる者と家族若しくは所帯を共にする他の者、若しくはかかる者の他の親類（里子を含む。）と共同で、直接的又は間接的に、(a)企業の発行済資本（又はある種類の株式の発行済資本）の合計の5%以上を表章する株式に係る所有権、使用権その他一定の権利、若しくはかかる株式（発行済か否かを問わない。）を取得する権利を保有し、(b)企業若しくは協同組合の年間収益の5%以上若しくは企業若しくは共同組合の残余財産の5%以上に関連する、利益参加証券（winstbewijzen）の所有権若しくは使用権その他一定の権利、若しくは協同組合の組合持分権を保有し又は(c)協同組合の総会における議決権の5%以上を表章する組合持分権を保有する場合、一般的に重要な持分を保有しているものとする。
- () かかる本社債権者が企業である場合、かかる本社債権者は当社に関して重要な持分を保有せず、又はかかる社債権者が重要な持分を所有する場合、かかる重要な持分は、(a)オランダの所得税の回避を主要な目的（の1つ）として保有されず、又は(b)作為的な組織の一部若しくは組織の集合（経済実態を反映した正当な業務上の理由のない組織等）を形成しないこと。本第()項上、債権者が、直接的又は間接的に、(a)企業の発行済資本（又はある種類の株式の発行済資本）の合計の5%以上を表章する株式に係る所有権、使用権その他一定の権利、若しくはかかる株式（発行済か否かを問わない。）を取得する権利を保有し、又は(b)企業の年間収益の5%以上若しくは企業の残余財産の5%以上に関連する、利益参加証券（winstbewijzen）の所有権、若しくは使用権その他一定の権利を有する場合、一般的に重要な持分を保有しているものとする。
- () かかる本社債権者が個人である場合、かかる所得又はキャピタル・ゲインが、オランダにおいて「雑業務による収益（resultaat uit overige werkzaamheden）」（例えばオランダにおける本社債に関する活動が「通常のアクティブ資産運用（normaal, actief vermogensbeheer）」を超える場合等）に該当しないこと。

贈与税、遺産税及び相続税

オランダの贈与税、遺産税又は相続税の課税目的上、オランダの居住者ではなく、又はオランダの居住者とみなされることもない本社債権者による贈与による本社債の取得、又はかかる本社債権者の死亡時の本社債の取得に関し、オランダにおいて贈与税、遺産税及び相続税は発生しない。ただし、贈与の日付においてオランダの居住者ではなく、オランダの居住者であるとみなされない個人が本社債を譲渡する場合、かかる個人が、贈与の日付から180日以内で、オランダの居住者である又はオランダの居住者であるとみなされている間に死亡した場合はこの限りではない。

贈与税、遺産税及び相続税の課税目的上、()受託者、基金又はその他類似の事業体若しくは仕組み等の第三者からの贈与は委託者による贈与と解釈され、また()委託者が死亡した場合は、原則としてその受益者が委託者から直接相続したとみなされる。その後の贈与又は相続において、受益者はオランダの贈与税、遺産税及び相続税の課税目的上、分離私有財産の委託者とみなされる。

取引高税

本社債の発行の対価としての支払に関し、又は当社による本社債に基づく元金、利息若しくはプレミアム（もしあれば）の支払に関し、オランダの取引高税は発生しない。

その他の租税

本社債の発行又はかかる発行若しくは本社債に基づく当社の義務の履行に関する文書の調印、交付及び／又は法的手続（オランダの裁判所における外国判決の執行を含む。）による執行に関連して、オランダの登録税、資本税、関税、譲渡税、印紙税又はその他の文書税（裁判所費用を除く。）はオランダにおいて課されない。

4 【法律意見】

当社のオランダにおける法律顧問であるフレッシュフィールドズ・ブルックハウス・デリンガー・エルエルピーより、下記の趣旨の法律意見書が提出されている。

オランダの法令に関する有価証券報告書中の記述は、すべての重要な点において真実かつ正確である。

第2 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

次の表は、表示された期間及び日付現在の当社の主要な経営指標の推移を示すものである。

決算期		2015年 3月31日 終了 事業年度	2016年 3月31日 終了 事業年度	2017年 3月31日 終了 事業年度	2018年 3月31日 終了 事業年度	2019年 3月31日 終了 事業年度
		IFRS				
収益合計	千ユーロ	103,143	86,956	84,408	83,516	131,888
	百万円	12,435	10,483	10,176	10,069	15,900
売上総利益	千ユーロ	15,539	14,139	14,395	18,505	18,785
	百万円	1,873	1,705	1,735	2,231	2,265
当期純利益 / (損失)	千ユーロ	40,536	(11,330)	(3,004)	(9,463)	36,935
	百万円	4,887	(1,366)	(362)	(1,141)	4,453
資本金	千ユーロ	908	908	908	908	908
	百万円	109	109	109	109	109
発行済株式総数	株	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
純資産額	千ユーロ	169,717	158,302	155,465	146,006	182,507
	百万円	20,461	19,085	18,743	17,602	22,003
総資産額	千ユーロ	7,834,149	6,797,892	7,953,499	9,322,796	12,116,283
	百万円	944,485	819,554	958,874	1,123,956	1,460,739
1株当たり純資産額	ユーロ	84,859	79,151	77,733	73,003	91,254
	円	10,230,601	9,542,445	9,371,490	8,801,242	11,001,582
1株当たり当期 純利益 / (損失)	ユーロ	20,268	(5,665)	(1,502)	(4,732)	18,468
	円	2,443,510	(682,972)	(181,081)	(570,490)	2,226,502
自己資本比率	%	2.166	2.329	1.955	1.566	1.506
自己資本利益 / (損失)率	%	23.884	(7.157)	(1.932)	(6.481)	20.238
営業活動から得た キャッシュ-純額	千ユーロ	(342,928)	190,424	(703,196)	(1,979,679)	(2,188,022)
	百万円	(41,343)	22,958	(84,777)	(238,670)	(263,788)
投資活動から得た キャッシュ-純額	千ユーロ	118	27	45	49	160
	百万円	14	3	5	6	19
財務活動から得た キャッシュ-純額	千ユーロ	418,629	(264,894)	704,547	2,103,808	2,288,623
	百万円	50,470	(31,936)	84,940	253,635	275,916
現金及び現金同等物	千ユーロ	78,089	2,071	1,872	126,633	242,260
	百万円	9,414	250	226	15,267	29,207

2015年3月31日、2016年3月31日及び2017年3月31日に終了した事業年度に関しては、「収益合計」は受取利息及び保証手数料収入から構成される。2018年3月31日及び2019年3月31日に終了した事業年度に関しては、「収益合計」は当社が受領した受取配当金の金額も含む。当該受取配当金の再分類は、「売上総利益」にも影響するが、「当期純利益/(損失)」は影響を受けない。

2 【沿革】

当社は、1987年8月3日にオランダ法に基づき有限責任株式非公開会社(besloten vennootschap met beperkte aansprakelijkheid)として設立され、アムステルダム商工会議所の商業登記簿に33194984号として登録されている。当社は、日本法人であるTFSの100%子会社であり、TFSは、日本法人であるトヨタ自動車の100%子会社である。TFSは、トヨタの全世界における金融サービス業務を管理している。

別段の記載がある場合を除き、「TFSグループ」はTFS並びにその子会社及び関係会社を、「トヨタ」はトヨタ自動車及びその連結子会社を指す。

3 【事業の内容】

当社は、トヨタ自動車の100%子会社であるTFSの100%子会社である。当社はオランダで設立され所在している。当社の登記上の本社所在地は、オランダ王国 1077 XV アムステルダム市 ザイドブライン 90、ワールド・トレード・センター・アムステルダム タワーH レベル10である。

当社の主要な活動は、トヨタ自動車及びTFSの一部の子会社及び関係会社のためにグループ金融会社として業務を行うことである。当社は、国際資本市場において債券を発行すること及びその他の資金源から資金を調達し、他のトヨタ企業に貸付を行っている。また、当社は他の特定のトヨタ企業の債券の発行に関する保証を行っている。さらに当社は、その基本的な資金調達業務に付随するその他の投資活動及び預託活動からの収益を上げている。グループ金融会社として、当社は、貸付を行っているトヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社の業績に依存している。

TMFの定款に記載されている当社の主要な目的は、とりわけ、(a)資金の貸借、あらゆる種類の金融取引への関与及び保証供与、(b)あらゆる形態の会社、団体及び企業への経営参加、融資及び管理、あらゆる形態の会社、団体及び企業の買収、保有、処分又は経営参加権若しくは持分の管理、並びに持株会社としての活動、並びに(c)動産及び不動産の取得、管理、運用、処分又は使用である。

TFSは、世界各地のトヨタの金融会社の運営及び自動車関連の新たな商品分野の展開を監督する、トヨタ自動車の100%子会社である。トヨタは、大規模な市場における自動車関連金融業務のさらなる拡大という戦略に従い、現在30を超える国と地域にわたっている金融サービスのネットワークの拡大を計画している。統括会社としてのTFSの主要な業務は、金融業務の計画及び戦略の策定、グループ会社の収益の管理及びリスク管理、並びに効率的な金融業務の推進である。TFSの定款は、TFSの目的が、特定の金融関連業務に従事している会社及びそれに相当する業務に従事している外国会社の株式を保有すること、並びにかかる会社及び外国会社の事業活動を統制及び管理することであると規定している。TFSは、その子会社及び関係会社を通じて、日本、北米、欧州、アジア及びその他地域で事業を行っている。主な競合相手は、商業銀行及びその他金融機関である。

トヨタ自動車及びTFSの事業の内容については、下記「4 関係会社の状況」を参照のこと。

当社とトヨタ自動車、TFSとトヨタ自動車の子会社との間の取引に関しては、下記「第6 経理の状況 1 財務書類」記載の財務書類（以下「財務書類」という。）の「注記30 関連当事者取引」を参照のこと。

4 【関係会社の状況】

(1) 親会社

当社の全発行済株式は、TFSにより直接所有されており、当社の議決権はすべてTFSによって保有されている。TFSは、日本法に基づき設立されたトヨタ自動車の100%子会社である統括会社で、2019年3月31日現在の資本金は78,525百万円であった。トヨタ自動車は、TFSの議決権を100%保有している。TFSは、トヨタの金融事業を全世界的に統括し運営するために設立された。その本店の所在地は、〒451-6015 日本国愛知県名古屋市中区牛島町6番1号である。TFSに関する詳細については、下記「第二部 提出会社の保証会社等の情報 第2 保証会社以外の会社の情報 3 継続開示会社に該当しない当該会社に関する事項」を参照のこと。

トヨタ自動車は日本法に基づき設立された株式会社であり、その本店の所在地は、〒471-8571 日本国愛知県豊田市トヨタ町1番地である。トヨタ自動車は世界中の主要な自動車メーカーの1社であり、その他の事業にも従事している。トヨタ自動車の資本金は、2019年3月31日現在、635,401百万円であった。トヨタ自動車に関する詳細については、下記「第二部 提出会社の保証会社等の情報 第2 保証会社以外の会社の情報 2 継続開示会社たる当該会社に関する事項」を参照のこと。

当社は、2000年8月7日付でTFSとの間でクレジット・サポート・アグリーメントを締結した。一方、TFSは、2000年7月14日付でトヨタ自動車との間でクレジット・サポート・アグリーメントを締結した。これらのクレジット・サポート・アグリーメントに関する詳細については、下記「第二部 提出会社の保証会社等の情報 第2 保証会社以外の会社の情報 1 当該会社の情報の開示を必要とする理由」を参照のこと。

(2) 子会社及び関係会社

2019年3月31日現在、当社は子会社及び関係会社を所有していない。

5 【従業員の状況】

2019年3月31日現在、当社は10名の従業員を有しており、そのうち2名はトヨタの関係会社からの出向社員である。

オランダにおいて労働組合に加入している当社の従業員はいない。当社は、創業以来、当社の業務に支障をきたすストライキ又はその他労働争議を経験しておらず、経営陣と従業員との関係は良好であると考えている。

第3 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

下記「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

2 【事業等のリスク】

本項に含まれる将来に関する事項についての記載は、本書の提出日現在における当社の判断に基づくものである。

当社の主要な活動は、トヨタ自動車及びTFSの一部の子会社及び関係会社のためにグループ金融会社として業務を行うことである。当社は、国際資本市場において、下記記載のクレジット・サポートに関する取決め（下記「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 流動性及び資金源 (f) クレジット・サポート・アグリーメント」を参照のこと。）の利益を享受する債券を発行すること及びその他の資金源から資金を調達し、他のトヨタ企業に貸付を行っている。また、当社は他の特定のトヨタ企業の債券の発行に関する保証を行うが、当社により行われる当該保証もまた、同一のクレジット・サポートに関する取決めによる利益を享受する。当社は資金調達会社であるため、信用リスク、流動性リスク、金利リスク及び外国為替相場リスク等の様々な金融リスクの影響を受ける。当社は、担保を交換する契約を締結し、外貨建ての資産及び債務を均衡させ、かつ金利スワップ、クロスカレンシー・スワップ及び外国為替契約等の金融商品を利用して金利及び外国為替相場リスクを管理することによって、これらのリスクが財務成績に及ぼす悪影響を限定することを目的として、リスク管理プログラムを実施している。

当社は当社が融資を行っている他のトヨタ企業がどのように資金調達を行うかに関し、いかなる影響力も持たない。当社はかかるトヨタ企業に対する融資において、他の業者と競争関係にあり、資金調達費用といった競争圧力の増加は、当社の融資額、収益及び利益率に悪影響を及ぼす可能性がある。さらに、当社は、トヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社に対し資金の融資を行っており、また、トヨタ企業に対し、債券の発行に関連する保証も行っているが、かかるトヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社の財政状態は、当社がかかるトヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社並びにトヨタ企業に提供している金融サービスに影響を及ぼす可能性がある。これは、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

当社、TFS及びトヨタは、各社の経営成績及び財政状態に直接的又は間接的に重大な悪影響を及ぼす可能性がある一定のリスク及び不安定要素の影響を受ける。当社、TFS及びトヨタに現在認識されていない又は現時点で重要ではないと考えられている追加のリスク及び不安定要素が存在する可能性があり、かかるリスク及び不安定要素は、各社の事業、経営成績及び財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

一般的な事業、経済の状況、地政学的な状況及び市場環境

当社の経営成績及び財政状態は様々な要素（個人向け契約、法人向け自動車融資、リース及びディーラー融資の全市場における変動、新車及び中古車市場、トヨタ車、レクサス車、トヨタの市場のその他の自動車の販売水準の変動、顧客口座の数及び平均残高の増加率、トヨタが事業を展開している国における金融業界の規制環境、他の融資業者との競争、顧客の契約不履行の発生率、事業支援のために必要な資金調達において支払わなければならない金利、調達可能な資金の金額、資金調達市場における変動、信用格付、トヨタの商品ライン拡大のための取り組みの成否、事業費及び一般管理費（人件費、技術費及び設備費を含むが、これに限定されない。）の水準、一般的経済状況、インフレ、当社が事業を展開している国及び当社が債券を発行するヨーロッパ及びその他の国における財政及び金融政策を含む。）の影響を受ける。さらに、燃料価格の大幅な高騰が続いた場合、新車及び中古車の購入が減少し、自動車関連の個人向け、リース用及び法人向け融資の需要が減少する可能性がある。

市場環境は大きな変動に直面しているが、これは様々な顧客及び産業部門の活動を縮小させる可能性があり、またその結果当社の財務成績に悪影響が及ぶ可能性がある。米国、欧州及びアジア等において市場の混乱及び変動のレベルが上昇したことにより、その資本コストが増加する可能性があり、過去と同様の方法及び費用で国際資本市場を利用して事業のための資金調達を行う当社の能力に悪影響が及ぶ可能性がある。このような市場環境はまた、当社の資金調達コストの増加により当社の経営成績及び財政状況に悪影響を及ぼす可能性がある。その結果、当社が顧客に請求する金利を引き上げた場合、当社の競争上の地位に悪影響を及ぼす可能性がある。厳しい市場環境により、流動性の低下、ボラティリティの増大、信用スプレッドの拡大及び金融市場における価格の透明性の欠如が生じる可能性がある。投資市場の変化（金利、為替相場並びに株式投資、不動産投資及びその他の投資からの収益の変化を含む。）は、直接又は間接に当社の財務成績に影響を及ぼす可能性がある。

市場の混乱とボラティリティが継続した場合、

- ・当社が、資本市場において過去にしていたのと同様の方法及び費用において資金調達し続けることができるという保証はない。
- ・当社による債券の発行が、ベンチマーク・レートを上回り、過去数年間において行われた類似の発行よりも大きいスプレッドで行われる可能性がある。
- ・当社が特定の資金源に過度に依存し、また同時に様々な資金源からの資金調達費用が増加する可能性がある。
- ・当社が債券市場の低迷を受けて満期を迎える長期負債の一部を短期負債（コマーシャル・ペーパー等）に置き換えた場合、当社の短期負債の残高の負債残高の合計額に占める割合が増加する可能性がある。

これらの事由は、いずれも当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

地政学的な状況及び市場におけるその他の出来事もまた、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性がある。為替制限若しくは輸入規制若しくはその他の混乱を及ぼす貿易政策、全般的な政治的若しくは経済的な不安定による業務の中断、戦争の勃発若しくは戦争行為の拡大又はテロ行為は、それぞれ、当社の経営成績及び財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。潜在的な英国の欧州連合からの離脱（以下「ブレグジット」という。）に関連した状況は、英国及びその他の欧州連合加盟国において重大な政治的及び経済的な不安定要素をもたらした。当社は英国で業務を行っていないが、国際金融、国際取引及びブレグジットに関する法的な示唆による市場の流動性及び活動の程度の低下、不安定な市場状況、信用枠の縮小、金利の変動、経済成長の減速及び国際レベルでの景況感の低下を引き起こし、各々により、当社の経営成績及び財政状態に重大な悪影響が及ぶ可能性がある。

トヨタ車及びレクサス車の販売

当社の事業は、当社が貸付及び／又は保証を行っているトヨタ企業の業績に依存しており、これによりトヨタ企業のトヨタ車及びレクサス車の販売に依存している。

トヨタ販売業者の売上高の変動は以下の要因により生じ得る。

- ・ 政府措置
- ・ 規制又は貿易政策の変更
- ・ 消費者の需要の変動
- ・ 新車のインセンティブ・プログラム
- ・ リコール
- ・ トヨタ車及びレクサス車の実際の又は認識されている品質、安全性又は信頼性
- ・ 景気の変動
- ・ 競争の激化
- ・ 原材料費の高騰、貿易協定の変更又は貿易協定からの撤退による輸入税又は関税の変動による自動車の価格上昇
- ・ 為替変動
- ・ 利率の変動
- ・ 燃料価格の大幅かつ継続的な高騰
- ・ 自然災害、供給網の中断又はその他の事象による自動車製造の減少又は延期

さらに、市場シェアを維持及び拡大しようとする中で、多くのメーカーが新車のインセンティブ・プログラムの水準を向上させてきた。このインセンティブは従来から、助成金、価格の割引及びその他のインセンティブを組み合わせたものを含んできた。さらに、トヨタ販売業者による販売量もまた、モビリティサービス及びコネクテッドサービス、電気自動車、燃料電池の技術並びに自動運転等の新興分野への投資を通じたトヨタの成長により影響を受けることがあるが、かかる成長は技術の進歩、規制の変化及び予測が困難なその他の要因を含む多くの要因に左右される。トヨタ販売業者の売上高に対する悪影響が当社の事業、経営成績及び財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

消費者行動の変化

多くの傾向が自動車産業に影響を与えている。これには、乗用車からスポーツユーティリティビークル（SUV）やトラックへの市場のシフト、報奨金に対する需要の高まり、自動車シェアリングやライドヘイリングなどのモビリティサービスの増加、自律型及び代替エネルギー型車両の開発、自動車の所有及び使用に対する態度及び行動の人口統計上の変動による影響、伝統的なファイナンス及びリースに対する、サブスクリプションサービスの提供などの柔軟な代替手段の発展、車両購入経験に関連する期待の変化、新車及び中古車販売の地理的配分の調整、コミュニケーションとテクノロジーの進歩を含む。これらの傾向の一つ又は複数が自動車産業、トヨタ販売業者及びトヨタ自動車に悪影響を及ぼし、当社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

リコール及びその他の関連する発表

トヨタにより、一連のリコールが定期的に行われており、これには一部のトヨタモデル及びレクサスモデルの製造販売の一時停止が含まれることがある。当社の事業は、当社が貸付及び／又は保証を行っているトヨタ企業の業績に依存しているため、このような事態が当社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

販売水準の低下は、トヨタ車及びレクサス車の実際の若しくは認識されている品質、安全性又は信頼性、又は規制機関の基準の変更によるものを含めて、当社の資金調達額の水準に悪影響を及ぼす。さらに、トヨタの一部の関連事業体は、訴訟及び政府による調査の対象となっているか、その対象となる可能性があり、また、制裁金又はその他罰金の対象となっているか、その対象となる可能性がある。これらの要素は、トヨタ車及びレクサス車の販売に影響を及ぼす可能性があり、その結果、当社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

競争リスク

世界の金融サービス産業における競争は激しく、当社及びTFSは、トヨタ車のディーラーの顧客に対する融資がどのように行われるかについて支配していない。TFSグループの競争相手（当社の競合相手を含む。）は、商業銀行、信用組合及びその他の金融機関等である。これらより少数であるが、TFSグループは、他の自動車メーカーの関係会社である金融会社とも競争している。さらに、オンラインでの融資の選択肢は、消費者に別の資金調達源を提供している。競争圧力が高まったことによって、契約数、市場シェア、純収益及び販売利益に悪影響が及ぶ可能性がある。さらに、TFSグループの競争相手及び同業者の財政状態及び体力は、当社が事業を行っている金融サービス業界に影響を及ぼし、その結果、TFSグループの競合相手及び同業者の製品及びサービスの需要に変化が生じる可能性がある。これは、当社の事業の規模及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

支配的株主 - 信用格付及びクレジット・サポート

当社のすべての発行済株式及び議決権付株式はTFSにより直接的に所有されている。TFSはトヨタ自動車の100%子会社である統括会社である。

したがって、TFSは当社を事実上支配し、当社の執行取締役会の構成を直接的に統制することができ、当社の経営及び方針を指示することができる。

当社はその事業を支えるために必要な資金の大部分を、国内資本市場及び／又は国際資本市場において調達している。かかる資金調達の可能性及びコストは、信用格付の影響を受ける。信用格付が低下すると、一般的に資本市場での資金調達が制限されると共に、借入コストが増加する。信用格付は、有価証券の購入、売却又は保有を推奨するものではなく、格付を付与する全国的に認知されている統計的格付機関（以下「NRSRO」という。）によりいつでも修正され又は撤回され得る。各NRSROは、リスク評価のための様々な基準を有している可能性があり、そのため格付は各NRSROごとに個別に評価されるべきである。

当社が発行したノート、ボンド及びコマーシャル・ペーパーの信用格付は、TFS及びトヨタ自動車とのクレジット・サポートに関する取決めの有無並びにトヨタ自動車及びその連結子会社の経営成績及び財政状態に大きく左右される。これらの取決め（又は格付機関が容認する代替りの取決め）を当社が利用することができない場合、又はクレジット・サポートの提供者としてのトヨタ自動車及びTFSの信用格付が引き下げられた場合、当社が発行したノート、ボンド及びコマーシャル・ペーパーの信用格付は悪影響を受ける可能性がある。

トヨタ自動車及びその関係会社（TFS及び当社を含む。）の格付を行う格付機関は、格付をいつでも修正又は変更することができる。世界的な経済状況及びその他の地政学的な要因が、かかる格付に直接的又は間接的な影響を与える可能性がある。米国又は日本のソブリンの信用格付が引き下げられた場合、トヨタ自動車、TFS及び当社の格付は直接的又は間接的な悪影響を受ける可能性がある。引下げ又は引下げを見越した再検討の結果によって、借入コストが増加し、国内資本市場及び国際資本市場の利用が制限される可能性がある。これらの要因は、当社の競争上の地位、経営成績、流動性及び財政状態に悪影響を与える可能性がある。

クレジット・サポートに関する取決めは改訂されることがあるが、かかる改訂は当該改訂時に残存するすべてのノート、ボンド、コマーシャル・ペーパー又は当社により発行されたその他の特定の証券の所持人に悪影響を及ぼさず、また格付機関の承認を要しない場合に限られる。理由の如何を問わず、当社が、これらの取決めによる利益を享受できない場合、当社により発行されたノート、ボンド及びコマーシャル・ペーパーの信用格付がその現在の格付を著しく下回り、その結果国内資本市場若しくは国際資本市場からの資金調達が著しく制限されるか、又は不可能となり、借入コストが著しく増加し、その事業の運営に必要な資金を調達することができなくなる可能性がある」と当社は予想している。

流動性リスク

流動性リスクとは、支払期限の到来した義務を適時に履行できないことから発生するリスクである。TFSグループの流動性戦略（当社の流動性戦略を含む。）は、不利な市場環境においても適切な時期に対費用効果の高い方法で資産を形成し負債を返済する能力を維持することである。当社内の資金源の混乱は、支払期限が到来したときに義務を履行する能力に悪影響を及ぼす可能性がある。債務を適切な時期に履行できない場合、満期を迎えた債務の借り換えを行い、新たな資産増加のための資金調達を行う当社の能力に悪影響が生じ、当社の経営成績及び財政状態に悪影響が及ぶ可能性がある。

モデル、見積り及び仮定の利用

当社は、製品及びサービスの価格設定、リスクの測定、資産及び負債の価値の見積り、流動性の評価、貸借対照表の管理並びにその他の事業及び業務の実施に定量モデル、見積り及び仮定を利用している。これらのモデルの設計、導入又は利用に欠陥がある場合、又は実際の結果が当社の見積り又は仮定と異なる場合は、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。さらに、不正確なモデルの内容が規制機関又は一般向けの報告書に使用される場合、当社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性のある監督上の処分、訴訟及びその他の手続を受ける可能性がある。

当社の仮定や見積りは本質的に予想が困難であり、当社の制御できない事項（例えば、マクロ経済の状況等）を含むことが多いからである。さらに、このような仮定や見積りは従属変数及び独立変数、因数及びその他の仮定との間の複雑な相互作用を含むことがある。結果として、当社の実際の経験はこの見積り及び仮定とは大幅に異なり得る。見積り及び仮定と実際の経験との大幅な違いは、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

会計基準の変更による影響

国際会計基準審議会（以下「IASB」という。）は、新会計基準の開発が要求されていると認められる場合にその開発を行うための、及び現存する会計基準に改善点が認められる場合にこれを改訂するためのプログラムを引き続き行う。特に、IASB及び米国の財務報告基準審議会は、米国の会計基準と国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）を一致させるための協力関係を続けている。IASBにより採用されたIFRSのさらなる変更は、公表された当社の収益に有利又は不利な影響をもたらす可能性がある。

信用リスク

信用リスクとは、顧客が当社との契約の条項を遵守できない場合又は合意した事項を実行できない場合に発生する損失のリスクである。信用リスクの増大は、引当金を必要とするか、又は当社の引当金が増加し、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。当社による信用リスクの監視、担保の設定及びその対抗要件の具備並びに信用リスクを軽減するための取り組みが経営成績及び財政状態に対する悪影響を防ぐために十分である、又は十分となり得ると保証することはできない。とりわけ非雇用、不完全雇用及び消費者の破産申請に裏付けられる弱い経済環境は、当社の複数の顧客の予定通りに支払を行う能力に影響を及ぼす可能性がある。

市場リスク

市場リスクとは、金利、外国為替相場及びその他の関連する市場のパラメーター又は価格の変動が、当社の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの変動を生じさせるリスクである。金利の上昇により、資本コスト及び他のトヨタ企業に適用することができる金利を引き上げ、当社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響が及び、これにより融資額及び市場シェアが減少し、当社の競争上の地位が下落する可能性がある。

市場リスクに対するエクスポージャーを経済的にヘッジするために、又は管理するために、当社はデリバティブ金融商品を取り入れている。しかし、金利や外国為替相場、市場価格の変動は常に予測又はヘッジできるわけではない。

2017年7月、ロンドン銀行間取引金利（以下「LIBOR」という。）の規制を行う英国金融行為規制機構は、LIBORの計算のための銀行に対する金利の提出の義務付けを2022年以降は取り止める意向を発表した。2022年以降にLIBORが廃止されるのか、LIBORに対する追加の修正が施されるのか、又は代替的な基準金利が市場で受け入れられるのかを予測することは不可能であり、これらいずれかの結果により現在LIBORに連動している債務、デリバティブ又はその他の資産に関連する当社の金利リスクが増大する可能性がある。

金利又は外国為替相場の変化は、当社の支払利息及びデリバティブ金融商品の価値に影響を及ぼし、その結果当社の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローにボラティリティが生じる可能性がある。

業務リスク

業務リスクとは、数ある要因の中でもとりわけ、確立した業務処理方法の欠如、不適切な業務処理、システム制御若しくは内部統制、業務処理、システム若しくは内部統制の機能不全、担保権の対抗要件を具備していないこと、盗難、不正行為、自然災害又は当社に影響を及ぼす可能性のあるその他の災害（爆発、火災、洪水、地震、テロ攻撃、暴動、市民騒動及び伝染病を含むが、これらに限られない。）から発生する損失のリスクである。

業務リスクは、過誤、業務の中断、管理の機能不全、システム又はその他科学技術の機能不全、当社の保険リスク管理プログラムの不備、当社の従業員又は当社のためにサービスを提供する契約を締結している者による不適切な行為又は違法行為、及びベンダーによる契約不履行等、様々な形態（ただし、これらに限られない。）により発生し得る。当社はまた、不適切な又は不十分な契約関係の書類作成によるリスクにさらされている。これらの事象により当社は、財務上の損失又は評判への悪影響等のその他の損害を被る可能性がある。

当社は、適正かつ十分に管理された業務環境を提供するように策定された内部統制の枠組みに依拠している。当社の事業の複雑な性質及び大規模な組織全体の統制の枠組みを実施する際に特有の課題があるため、将来問題が生じ、かかる問題が当社の経営に重大な影響を与える可能性がある。

情報システムの不備又は遮断のリスク

当社は、当社に有意義な業務リスクを生じさせる、その業務を管理するために社内及び第三者の情報システム及び技術システムに依存している。不適切若しくは誤った手続若しくはシステム、人的ミス、従業員による違法行為、大惨事、社外若しくは社内のセキュリティの侵害、破壊行為、コンピューターウィルス、マルウェア、ランサムウェア、誤った若しくは紛失したデータ又はその他の事象による当社の情報システム又は当社が依存する第三者の情報システムの不備又は遮断により、当社の通常の業務手続に混乱が生じかねず、その評判が損なわれる可能性があり、その事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

さらに、当社の既存の取引システム及び財務システムのアップグレード又は交換を行った場合、中核事業を遂行する能力に多大な影響が生じ、新しいシステムの導入期及び導入後に通常の業務方法及び手続に混乱が生じかねず、それにより損失のリスクが高まる可能性がある。例えば、新しいシステムの開発及び導入並びにこれに関する今後のアップグレードは、多大な支出を必要とし、経営資源及びその他の資源を当社の中核事業からそらす可能性がある。このような新しいシステムが当社に期待された利益及び効率性をもたらす保証はない。さらに、経営陣が導入及びアップグレードに費やすために必要とするであろう時間や資源、導入若しくはアップグレードについて起こり得る遅れ若しくはその結果として生じるサービスの障害、又は旧来のシステムのアップグレードによる当社のデータに対する信頼性への影響が、当社の事業、経営成績及び財政状態に重要な悪影響を及ぼすことがないという保証もない。

セキュリティの侵害又はサイバー攻撃のリスク

当社は、顧客、従業員及びその他の第三者から特定の個人情報及び財務情報を収集し、保存している。セキュリティの侵害又は当社のシステム若しくは設備又は当社のサービス提供者のシステム若しくは設備へのサイバー攻撃により、当社は顧客、従業員及び第三者の個人を特定できる情報又はその他の極秘情報、専有情報若しくは競争上慎重に扱うべき情報の消失、業務の中断、規制監督、法的措置及び罰金、訴訟、評判の毀損、信用の喪失並びにその他の経済的又は非経済的コストといったリスクにさらされ、これらすべてにより当社の現在の及び潜在的な顧客との将来的な事業、経営成績及び財政状態に悪影響が及ぶ可能性がある。

当社は、顧客、従業員及び当社の事業におけるその他の側面に関する機密情報の安全なオンライン送信を実行するために必要なセキュリティの管理を提供するために、第三者から許諾を受けた暗号化及び他の情報セキュリティ技術に依拠している。情報システムの処理能力の向上、暗号化の分野における新たな発見又はその他の事象若しくは進展により、当社が慎重に扱うべきデータを保護するために用いている技術が漏洩し又は破られる可能性がある。ハッキング、不正手段、詐欺又はその他の騙しの手口によるこれらのセキュリティ対策を回避することができる当事者が、機密情報を悪用し又は当社の事業を中断させる可能性がある。当社は、かかるセキュリティの侵害若しくはサイバー攻撃から保護し又はかかる侵害若しくは攻撃により生じる問題を改善するために、資本及びその他の資源を支出しなければならない可能性がある。当社のセキュリティ対策は、セキュリティの侵害及びサイバー攻撃からの保護を目的としているが、当社がかかるセキュリティの侵害及びサイバー攻撃を防ぐことができなかった場合、その責任が問われ、収益性が低下し、その評判が損なわれる可能性がある。当社のシステム又は設備の不備又は遮断が適時に解決された場合や、サイバーインシデント又はその他のセキュリティの侵害が無事に回避又は阻止された場合でも、当社が多額の資源を支出するか、又は顧客の満足又は行動に悪影響を及ぼし、当社の評判を毀損する可能性のある行為を行わなければならない場合がある。

当社はまた、情報システムの処理速度が遅延し、情報システムを損失する又は一時的に利用できなくなり得るようなサイバー攻撃にさらされる可能性がある。新技術、金融及びその他の事業取引を行うためのインターネット及び情報通信技術（モバイル機器を含む。）の利用、並びに組織犯罪、詐欺犯、ハッカー、テロリスト及びその他の者の活動の高度化及び活発化により、情報セキュリティリスクは増加している。特に、使用される技術が頻繁に変化し、攻撃が様々な原因に由来し得ることから、当社がこれらすべてのセキュリティの侵害を予測する又は効果的な予防策を講じることができない可能性がある。これらの事象が発生した場合、当社の事業、経営成績及び財政状態に多大なる悪影響を及ぼす可能性がある。

データ保護規制の変更

当社の顧客及び従業員の個人を特定しうる情報並びに財務情報の収集、利用、共有及び保護を含む当社の企業データ実務は、ますます複雑化する制限的及び懲罰的規制の対象となっている。これらの規制の下で法令に則ったデータ実務が維持されない場合、消費者の苦情及び規制当局による調査を招き、その結果として民事若しくは刑事上の罰則及びブランドへの影響又は当社の事業に対するその他の損害に繋がる可能性がある。さらに、望ましいデータ実務の維持に際して現に発生し、又は発生が認識された不遵守に対して消費者がより敏感になっていることにより、当社の評判が傷つき、既存の及び潜在的な顧客が当社の商品及びサービスを利用することを阻む可能性がある。近年、個人情報の不正利用又は不適切な共有に関する申立てが広く報道されるようになり、その結果、オランダ及びその他の国々において個人情報の保護並びに企業による個人データの利用及び共有に関連する実務に対する政府の監視が拡大した。その監視は、一部では個人情報の利用及び共有に関連するさらに厳重な法令の採用に繋がる結果を導いたが、今後もそのような厳重な法令の採用に繋がる可能性がある。このような種類の法令は、当社のような金融サービス提供者に対して関連会社又はベンダー等の第三者との間における情報の共有を禁止又は厳しく制限する可能性があり、そのためコンプライアンス費用が増加し、又は顧客に対して商品若しくはサービスを開発若しくは提供する際の当社による個人データの利用を制限する可能性がある。これらの制限が当社の特定の商品若しくはサービスの開発若しくはマーケティングを抑制し、又は顧客に対してそれらを提供するための費用が増加する可能性がある。これらの法律の多くは新しいため、その解釈は不明瞭であり、実施の範囲に関する先例にも乏しい。これらの法令に係るコンプライアンス費用は高額と予想され、将来的に増加すると考えられる。適用あるプライバシー又はデータ保護の法令違反又は認識された違反により、一定の事業若しくは実務の変更若しくは中止の要請、重大な負債若しくは罰金、罰則又はその他の制裁に繋がる可能性がある。

取引先の信用リスク

当社は、多くの様々な金融機関に対してエクスポージャーを有しており、金融業界に属する取引先との間で日常的に取引を行っている。当社の債務取引、デリバティブ取引及び投資取引、並びにコミット及び非コミットの与信枠に基づき借入を行う能力は、他の金融機関の行為及び商業上の健全性により悪影響を受ける可能性がある。当社は、コミット及び非コミットの与信枠に基づき借入を行う能力を合理的な条件で又は完全に維持できるかどうか保証することはできない。特定の国又は地域における社会的状況、政治的状況、雇用状況又は経済状況の悪化もまた、当社のデリバティブの取引先及び貸し手を含む金融機関がその契約上の債務を履行する能力に悪影響を及ぼす可能性がある。金融機関は、取引、決済、貸付又はその他の関係により相互に関連しており、したがってある国又は地域における財政的問題及び政治的問題が、当社が関係を有している金融機関を含むその他の法域における金融機関に悪影響を及ぼす可能性がある。当社が直接的又は間接的にエクスポージャーを有しているいずれかの金融機関及びその他の取引先が、契約上の債務を履行することができず、またかかる不履行の結果損失が生じた場合、当社の流動性、経営成績及び財政状態に重大な悪影響が及ぶ可能性がある。

規制リスク

規制リスクとは、当社にとって適用ある規制上の義務を遵守できないこと又は遵守できないことの疑いがあることにより発生するリスク並びに様々な法令（適用ある法令及び規制ガイドラインの変更を含む。）に基づいて課される義務及びその他費用に係るリスクである。

法令又は政策の変更

法令又はオランダ政府機関（州又は地方）、当社が当社の業務を行っているその他すべての管轄区域のその他すべての政府機関（連邦、州又は地方）若しくは国際機関の政策（及びかかる政策の変更により生じる措置）の変更は、当社の事業に悪影響を及ぼす可能性があり、当社が効率的に事業を遂行していくことができるようかかる法令又は政策の遵守を確実なものとするため、当社は多大な支出を行うか、又は当社の業務処理及び手続に大幅な変更を加えなければならない可能性がある。

適用法令の遵守にはコストがかかり、当社の経営成績に影響が及ぶ可能性がある。遵守にはフォーム、処理、手続、管理及びこれらの要件を支えるための基盤が必要とされる。金融サービス業界における法令は主として消費者の保護のために定められたものであるため、これを遵守することにより、経営上の制約が生じ、価格設定に制限が設けられる可能性がある。規制の変更により、当社がその事業を現在遂行されているように遂行する能力が制限され、多額の追加費用が課され、又は当社が新たな手続を実施することを要求される可能性があり、これにより当社の事業、見通し、財務成績又は財政状況に悪影響が及ぶ可能性がある。遵守を怠った結果、重大な法定の民事上の罰金及び刑事上の罰金、罰則、金銭的損害、法定代理人又は弁護士報酬及び費用が生じ、当社がその事業を遂行する能力に制限が課され、免許が取り消される可能性があり、また当社の評判、ブランド力及び高く評価されている顧客関係が損なわれる可能性がある。かかる費用、制限、取消し又は損害は、当社の事業、見通し、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

課税

当社は、多数の税法の適用を受け、申告及び規制に基づき、いくつもの異なった種類の税金の支払を義務付けられている。当社は、申告を行う時点で税法に関する知識に基づき課税立法を解釈し、当局に対して報告を行う。税法又はその解釈は、立法、租税に関する当局の決定又は裁判所の解釈により変更される可能性がある。税法の適用又は解釈の変更は、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

さらに、当社は申告の後、課税当局の監査の対象になり得る。当社がその租税債務に関して正確に報告を行っていなかった場合、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

訴訟

当社は時折、通常の業務の過程において発生する様々な法的手段、行政上の手続及びその他の主張の対象となっており、また対象となる可能性がある。1件又は複数のかかる訴訟の結果が不利なものとなった場合、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

市場及び事業に関するリスク

自動車市場の競争激化

世界の自動車市場では激しい競争が繰り広げられている。トヨタは、ビジネスを展開している各々の地域で、自動車メーカーとの競争に直面している。世界経済は徐々に回復しつつあるが、自動車市場における競争はさらに激化しており、厳しい状況が続いている。また、世界の自動車産業のグローバル化がさらに進むことによって、競争は今後より一層激化する可能性があり、業界再編につながる可能性もある。競争に影響を与える要因としては、製品の品質・機能、安全性、信頼性、燃費、革新性、開発に要する期間、価格、カスタマー・サービス、自動車金融の利用条件等の点が挙げられる。競争力を維持することは、トヨタの既存及び新規市場における今後の成功、販売シェアにおいて最も重要である。トヨタは、昨今の自動車市場の急激な変化に的確に対応し、今後も競争力の維持強化に向けた様々な取り組みを進めていくが、将来優位に競争することができないリスクがある。競争が激化した場合、自動車の販売台数の減少や販売価格の低下などが起きる可能性があり、それによりトヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローが悪影響を受けるリスクがある。

自動車市場の需要変動

トヨタが参入している各市場では、今までも需要が変動してきた。各市場の状況によって、自動車の販売は左右される。トヨタの販売は、世界各国の市場に依存しており、各市場の景気動向はトヨタにとって特に重要である。

当連結会計年度においては、世界経済は、一部に弱さがみられたものの、全体としては緩やかな回復が続いた。日本経済は、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いた。自動車市場は、先進国では安定的に推移したものの、拡大を続けてきた中国や一部の資源国で落ち込みがみられた。

このような需要の変化は現在でも続いており、この状況が今後どのように推移するかは不透明である。今後トヨタの想定を超えて需要の変化が継続又は悪化した場合、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローが悪影響を受ける可能性がある。また、需要は、販売・金融インセンティブ、原材料・部品等の価格、燃料価格、政府の規制（関税、輸入規制、その他の租税を含む）など、自動車の価格及び自動車の購入・維持費用に直接関わる要因により、影響を受ける場合がある。需要が変動した場合、自動車の販売台数の減少や販売価格の低下などが起きる可能性があり、それによりトヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローが悪影響を受けるリスクがある。

お客様のニーズに速やかに対応した、革新的で価格競争力のある新商品を投入する能力

製品の開発期間を短縮し、魅力あふれる新型車でお客様にご満足いただくことは、自動車メーカーにとっては成功のカギとなる。特に、品質、安全性、信頼性において、お客様にご満足いただくことは非常に重要である。世界経済の変化に伴い、自動車市場の構造が急激に変化している現在、お客様の価値観とニーズの急速な変化に対応した新型車を適時・適切にかつ魅力ある価格で投入することは、トヨタの成功にとってこれまで以上に重要であり、技術・商品開発から生産にいたる、トヨタの事業の様々なプロセスにおいて、そのための取り組みを進めている。

しかし、トヨタが、品質、安全性、信頼性、スタイルその他の性能に関するお客様の価値観とニーズを適時・適切にかつ十分にとらえることができない可能性がある。また、トヨタがお客様の価値観とニーズをとらえることができたとしても、その有する技術、知的財産、原材料や部品の調達、原価低減能力を含む製造能力又はその他生産性に関する状況により、価格競争力のある新製品を適時・適切に開発・製造できない可能性がある。また、トヨタが計画どおりに設備投資を実施し、製造能力を維持・向上できない可能性もある。お客様のニーズに対応する製品を開発・提供できない場合、販売シェアの縮小及び売上高と利益率の低下を引き起こすリスクがある。

効果的な販売・流通を実施する能力

トヨタの自動車販売の成功は、お客様のご要望を満たす流通網と販売手法に基づき効果的な販売・流通を実施する能力に依存する。トヨタはその参入している各主要市場の規制環境において、お客様の価値観又は変化に効果的に対応した流通網と販売手法を展開しているが、それができない場合は、売上高及び販売シェアが減少するリスクがある。

ブランド・イメージの維持・発展

競争の激しい自動車業界において、ブランド・イメージを維持し発展させることは非常に重要である。ブランド・イメージを維持し発展させるためには、お客様の価値観やニーズに対応した安全で高品質の製品を提供することで、お客様の信頼をさらに高めていくことが重要である。トヨタが、安全で高品質の製品を提供することができない、又は、リコール等の市場処置が必要であるにもかかわらず迅速な対応がなされないなどの結果、トヨタのブランド・イメージを効果的に維持し発展させることができなかった場合、自動車の販売台数の減少や販売価格の低下などが起きる可能性があり、その結果、売上高と利益率の低下を引き起こすリスクがある。

仕入先への部品供給の依存

トヨタは、部品や原材料などの調達部品を世界中の複数の競合する仕入先から調達する方針を取っているが、調達部品によっては他の仕入先への代替が難しいものもあり、特定の仕入先に依存しているものがある。また、その調達部品が様々な車種に共通して使用される場合、当該部品の調達がより困難となり、生産面への影響を受ける可能性がある。さらに、トヨタが直接の取引先である一次仕入先を分散していたとしても、一次仕入先が部品調達を二次以降の特定の仕入先に依存していた場合、同様に部品の供給を受けられないリスクもある。トヨタが調達部品を継続的にタイムリーかつ低コストで調達できるかどうかは、多くの要因の影響を受けるが、それらの要因にはトヨタがコントロールできないものも含まれている。それらの要因の中には、仕入先が継続的に調達部品を調達し供給できるか、またトヨタが、仕入先から調達部品を競争力のある価格で供給を受けられるか等が含まれる。特定の仕入先を失う、又はそれらの仕入先から調達部品をタイムリー若しくは低コストで調達出来ない場合、トヨタの生産に遅延や休止又はコストの増加を引き起こす可能性があり、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響が及ぶ可能性がある。

金融サービスにおける競争の激化

世界の金融サービス業界では激しい競争が繰り広げられている。自動車金融の競争激化は、利益率の減少を引き起こす可能性がある。この他トヨタの金融事業に影響を与える要因には、トヨタ車の販売台数の減少、中古車の価格低下による残存価値リスクの増加、貸倒率の増加及び資金調達費用の増加が挙げられる。

デジタル情報技術への依存

トヨタは、機密データを含む電子情報を処理・送信・蓄積するため、又は製造・研究開発・サプライチェーン管理・販売・会計を含む様々なビジネスプロセスや活動を管理・サポートするために、第三者によって管理されているものも含め、様々な情報技術ネットワークやシステムを利用している。さらに、トヨタの製品にも情報サービス機能や運転支援機能など様々なデジタル情報技術が利用されている。これらのデジタル情報技術ネットワークやシステムは、安全対策が施されているものの、ハッカーによる不正アクセスやコンピュータウィルスによる攻撃、トヨタが利用するネットワーク及びシステムにアクセスできる者による不正使用・誤用、開発ベンダー・クラウド業者など関係取引先からのサービスの停止、電力供給不足を含むインフラの障害、天災などによって被害や妨害を受ける、又は停止する可能性がある。特にサイバー攻撃や他の不正行為は苛烈さ、巧妙さ、頻度において脅威を増しており、そのような攻撃の標的にされる恐れがある。このような事態が起きた場合、重要な業務の中断や、機密データの漏洩、トヨタ製品の情報サービス機能・運転支援機能などへの悪影響のほか、法的請求、訴訟、賠償責任、罰金の支払い義務などが発生する可能性もある。その結果、トヨタのブランド・イメージや、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響を及ぼす可能性がある。

金融・経済のリスク

為替及び金利変動の影響

トヨタの収益は、外国為替相場の変動に影響を受け、主として日本円、米ドル、ユーロ、並びに豪ドル、ロシア・ルーブル、加ドル及び英国ポンドの価格変動によって影響を受ける。トヨタの連結財務諸表は、日本円で表示されているため、換算リスクという形で為替変動の影響を受ける。また、為替相場の変動は、外国通貨で販売する製品及び調達する材料に、取引リスクという形で影響を与える可能性がある。特に、米ドルに対する円高の進行は、トヨタの経営成績に悪影響を与える可能性がある。

トヨタは、為替相場及び金利の変動リスクを軽減するために、現地生産を行い、先物為替予約取引や金利スワップ取引を含むデリバティブ金融商品を利用しているが、依然として為替相場と金利の変動は、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響を与える可能性がある。

原材料価格の上昇

鉄鋼、貴金属、非鉄金属（アルミ等）、樹脂関連部品など、トヨタ及びトヨタの仕入先が製造に使用する原材料価格の上昇は、部品代や製造コストの上昇につながり、これらのコストを製品の販売価格に十分に転嫁できない、あるいは仕入先がこれらのコストを十分に吸収できない結果、トヨタの将来の収益性に悪影響を与える可能性がある。

金融市場の低迷

世界経済が急激に悪化した場合、多くの金融機関や投資家は、自らの財務体力に見合った水準で金融市場に資金を供給することが難しい状況に陥る可能性がある。その結果、企業がその信用力に見合った条件で資金調達することが困難になる可能性がある。必要に応じて資金を適切な条件で調達できない場合、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローが悪影響を受ける可能性がある。

政治・規制・法的手続・災害等に関するイベント性のリスク

自動車産業に適用される政府の規制

世界の自動車産業は、自動車の安全性や排ガス、燃費、騒音、公害をはじめとする環境問題などに関する様々な法律と政府の規制の適用を受けている。特に、安全面では、法律や政府の規制に適合しない、又はその恐れのある自動車は、リコール等の市場処置の実施が求められる。さらに、トヨタはお客様の安心感の観点から、法律や政府の規制への適合性に関わらず、自主的にリコール等の市場処置を実施する可能性もある。トヨタが市場に投入した車両にリコール等の市場処置が必要となった場合、製品のリコールや無償のサービスキャンペーンに係る費用を含めた様々な費用が発生する可能性がある。また、多くの政府は、価格管理規制や為替管理規制を制定している。トヨタは、国際貿易の動向や政策の変化に関する費用を含むこれらの規制に適合するために費用を負担し、今後も法令遵守のために費用が発生する可能性がある。また、新しい法律又は現行法の改正により、トヨタの今後の費用負担が増えるリスクがある。このように、市場処置を講じたり法律や政府の規制へ適合するために多額の費用が発生した場合、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響を与える可能性がある。

法的手続

トヨタは、製造物責任、知的所有権の侵害等、様々な法的手続の当事者となる可能性がある。また、株主との間で法的手続の当事者となったり、行政手続又は当局の調査の対象となる可能性もある。現在トヨタは、行政手続及び当局の調査を含む、複数の係属中の法的手続の当事者となっている。トヨタが当事者となる法的手続で不利な判断がなされた場合、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響が及びリスクがある。

自然災害、政治動乱、経済の不安定な局面、燃料供給の不足、インフラの障害、戦争、テロ又はストライキの発生

トヨタは、全世界で事業を展開することに関連して、様々なイベントリスクにさらされている。これらのリスクとは、自然災害、政治・経済の不安定な局面、燃料供給の不足、天災などによる電力・交通機能・ガス・水道・通信等のインフラの障害、戦争、テロ、ストライキ、操業の中断などが挙げられる。トヨタが製品を製造するための材料・部品・資材などを調達し、又はトヨタの製品が製造・流通・販売される主な市場において、これらの事態が生じた場合、トヨタの事業運営に障害又は遅延をきたす可能性がある。トヨタの事業運営において、重大又は長期間の障害並びに遅延が発生した場合、トヨタの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに悪影響が及びリスクがある。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績等の概要

下記「(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」及び上記「第2 企業の概況 3 事業の内容」を参照のこと。

(2) 生産、受注及び販売の状況

下記「(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

本項には、将来の事象、事業計画、目的及び予想される経営成績に係る見積り、予想及び当社の考えに関する記述を含む将来の見通しに関する記載並びにこれらの記載の基礎となっている前提が含まれている。将来に関する見通しは、将来の業績、実績又は成果を予測、予想、表示又は暗示するあらゆる記載を含んでおり（ただし、これらに限られない。）、本書の提出日現在の当社による判断に基づくものである。当社は、将来の見通しに関する記載が、そこに記述されている結果と著しく異なる結果を引き起こす可能性がある既知及び未知のリスク、不安定要素並びに他の重要な要因により影響を受けることを警告する。これらのリスク及び不安定要素に鑑み、投資家は、実際の結果の予測である将来の見通しに関する記載を過度に信頼するべきではない。当社は、実際の結果を反映させるため、又は将来の見通しに関する記載に影響を与える要因に変更が生じた場合に、将来の見通しに関する記載を更新する予定はない。

概要

当社の主要な活動は、トヨタ自動車及びTFSの一部の子会社及び関係会社のためにグループ金融会社として業務を行うことである。当社は、国際資本市場において債券を発行すること及びその他の資金源から資金を調達し、他のトヨタ企業に貸付を行っている。また、当社は他の特定のトヨタ企業の債券の発行に関する保証を行っている。さらに当社は、その基本的な資金調達業務に付随するその他の投資活動及び預託活動からの収益を上げている。グループ金融会社として、当社は、貸付を行っているトヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社の業績に依存している。

当社の主要な借入は、短期コマーシャル・ペーパー・プログラム及びユーロ・ミディアム・ターム・ノート・プログラムからなる。さらに当社は、銀行から中期の借入を行った。当社の資金調達プログラム及びそれに関連する費用は、資本市場の変動及び実効金利の影響を受ける。これらの要素は、収益資産の成長を支持するための費用効率の高い資金調達を行う能力に影響を及ぼす可能性がある。

当社はトヨタ自動車及びTFSの子会社及び関係会社に対し、固定金利及び変動金利による貸付を行っている。固定金利貸付はほぼすべて、当社のリスク管理方針に従って、3ヶ月間のベースで変動金利にスワップされる。

当社は、流動性に関して、不利な市場環境の下であっても適時に費用効率の高い方法で資金を調達し、債務を返済する能力を維持することを戦略としている。かかる能力は主として、当社の高い格付、国際資本市場における資金調達能力及び貸借対照表から流動性を生み出す能力から生じるものである。かかる戦略により、当社は、とりわけ市場及び地理的配分並びに証券の種類を多様化した借入基盤を整備した。

2019年度の事業の概要

収益は、2019年3月31日に終了した12ヶ月間において、2018年3月31日に終了した12ヶ月間の83,516千ユーロから57.9%増加し、131,888千ユーロとなった。資金調達費用は、2019年3月31日に終了した12ヶ月間において、2018年3月31日に終了した12ヶ月間の65,011千ユーロから74%増加し、113,103千ユーロとなった。かかる増加は主に、一年を通して貸付金及び借入金が増加したことによるものであった。2019年3月31日現在の関係会社に対する短期貸付金及び長期貸付金の額は、2018年3月31日現在の8,741,070千ユーロから30.6%増加し、11,413,259千ユーロとなった。

売上総利益は、2019年3月31日に終了した12ヶ月間において、2018年3月31日に終了した12ヶ月間の18,505千ユーロから1.5%増加し、18,785千ユーロとなった。これは主として、貸付金及び借入金の増加が利益率の減少により部分的に相殺されたことによるものであった。

2018年3月31日に終了した12ヶ月間において11,815千ユーロの税引前損失となったのに対し、2019年3月31日に終了した12ヶ月間には52,389千ユーロの税引前利益となった。これは主として、2018年3月31日に終了した12ヶ月間の25,709千ユーロの金融商品に係る時価損失と比較して、2019年3月31日に終了した12ヶ月間には39,219千ユーロの金融商品に係る時価利益となったことによるものであった。

2018年3月31日に終了した12ヶ月間の9,463千ユーロの当期損失と比較して、2019年3月31日に終了した12ヶ月間には36,935千ユーロの当期利益となった。

2019年3月31日現在の流動資産は、2018年3月31日現在の4,181百万ユーロから22.2%増加して、5,109百万ユーロとなった。流動資産は、主として関係会社に対する短期貸付金である。2019年3月31日現在、総額4,559百万ユーロに相当する金額が、関係会社に貸し付けられている。その他流動資産は、デリバティブ金融商品、差入担保保証金並びに現金及び現金同等物を含む。

2019年3月31日現在の流動負債は、2018年3月31日現在の3,999百万ユーロから47.6%増加して、5,904百万ユーロとなった。これは主として、借入金の価値の増加によるものであった。

流動性及び資金源

流動性リスクとは、支払期日を迎えた際に債務を履行できないことにより発生するリスクである。当社は流動性に関して、不利な市場環境の下であっても適時に費用効率の高い方法で資金を調達し、負債を償還する能力を維持することを戦略としている。かかる能力は主に、当社の貸借対照表から流動性を生み出す能力と共に、国際資本市場において資金調達をする当社の能力から生まれる。かかる戦略により、当社は、とりわけ市場及び地理的配分、証券の種類並びに投資家の種類を多様化した借入基盤を整備した。TFSにより提供されるクレジット・サポートは、流動性の計画並びに資本及びリスク管理において当社がこれに依存するものではないが、当社にとって流動性を増加させる要因となる。

次の表は、当社の資金別残高の概要である。

	3月31日現在	
	2018年	2019年
	(単位：百万ユーロ)	
コマーシャル・ペーパー	2,454	2,425
ユーロ・ミディアム・ターム・ノート	4,936	7,329
銀行借入金	1,367	1,742
借入金合計額	8,757	11,496

当社は、単一の資金源に依存せず、資金調達活動を市場環境、相対的なコスト及び他の要素に応じて再調整することができる。当社は、その資金源が、営業及び投資活動と一体となって、今後の資金需要を満たし事業発展を実現するのに十分であると考えている。当社の資金調達額は、資産の増加及び借入金の満期日に基づいている。

(a) コマーシャル・ペーパー及びその他の短期借入

短期の資金需要は、欧州及び米国におけるコマーシャル・ペーパーの発行を通じて充足される。2019年度の当社のコマーシャル・ペーパー・プログラムに基づくコマーシャル・ペーパーの発行残高は、約2,224百万ユーロから2,971百万ユーロであり、平均発行残高は2,554百万ユーロであった。当社のコマーシャル・ペーパー・プログラムは、本項で後述される流動性と信枠による裏付けがなされている。

(b) ミディアム・ターム・ノート

中期の資金需要の一部は、現在、ユーロ・ミディアム・ターム・ノート（以下「EMTN」という。）プログラムに基づく債券の発行により充足されている。資金源を多様化するため、当社は様々な市場、通貨及び満期日で様々な投資家を対象とした発行を行い、証券の分布を広げ、流動性をさらに向上させることを可能にした。

次の表は、当社の無担保期限付借入金の構成の概要である。

	無担保期限付 借入金合計(注1)
	(単位：百万ユーロ)
2018年3月31日現在の残高	4,936
2019年3月31日に終了した12ヶ月間における発行高(注2)	3,322
2019年3月31日に終了した12ヶ月間における償還	(1,192)
外国為替相場再評価、償却費及び未払利息の変動	263
2019年3月31日現在の残高	7,329

(注1) 固定利付債及び変動利付債により構成されている。固定利付債の発行に際しては、グループ会社は、通常、支払変動金利スワップを締結することとしている。

(注2) EMTNは、ユーロ建て及び非ユーロ建てで発行されており、約1年から5年までの満期が定められ、発行時の固定利率及び変動利率は0%から2.98%であった。当社は、非ユーロ建て社債の発行と同時に、かかる社債をユーロ建て、英ポンド建て又は米ドル建ての元利金の支払に転換する通貨金利スワップ契約を締結した。

当社は、EMTNプログラムをその関係会社であるトヨタ クレジット カナダ インク、トヨタ ファイナンス オーストラリア リミテッド及びトヨタ モーター クレジット コーポレーション（当社及びかかる関係会社をあわせて、以下「EMTN発行者」と総称する。）と共に維持している。EMTNプログラムは、国際資本市場における債券の発行について規定している。EMTN発行者は2018年9月、EMTNプログラムを1年間更新した。EMTNプログラムに基づき、EMTN発行者により発行される債券の適宜発行可能な元金総額の上限は500億ユーロ（又はこれに相当する外貨）であり、そのうち2019年3月31日現在のEMTN発行者による発行可能額は、206億ユーロであった。EMTNプログラムの元金総額の上限は、この資金源を継続して使用することができるよう、随時これを増額することができる。また、当社は、国際資本市場において、EMTNプログラムに基づき発行されるもの以外の社債を発行すること並びに国際資本市場を通じてその他の無担保融資契約を締結することもできる。EMTNプログラムに基づいて発行される債券は、一般的な条項を含んでいる代理契約の条項に従って発行される。EMTNプログラムに基づき発行される特定の債券には、ネガティブ・プレッジ条項が適用される。

(c) グループ会社借入金

2019年3月31日に終了した12ヶ月間において、TFS及びトヨタ モーター クレジット コーポレーションからの当社に対する融資は行われなかった。

(d) 第三者借入金

2019年3月31日現在、当社は、490百万シンガポール・ドルの3年間のローンに係る1件のバイラテラル銀行与信契約に加え、総額1,060百万米ドルの2年間、3年間及び5年間のローンに係る6件のバイラテラル銀行与信契約、総額400億円の4年間のローンに係る2件のバイラテラル銀行与信契約並びに150百万ユーロの2年間のローンに係る1件のバイラテラル銀行与信契約を締結している。これらのバイラテラル与信契約に基づく与信枠からの引出しは、この種の取引において一般的な取決め及び条項（ネガティブ・プレッジ条項、クロス・デフォルト条項並びに企業結合、吸収合併及び資産の売却に関する制限を含む。）の制限を受け得る。与信枠は、一般業務のために利用することができ、2019年3月31日現在全額が引き出された。下記の表は、第三者からの当社の借入金合計の概要である。

	銀行借入金合計
	(単位：百万ユーロ)
2018年3月31日現在の残高	1,367
2019年3月31日に終了した12ヶ月間における融資	467
2019年3月31日に終了した12ヶ月間における返済	(215)
外国為替相場再評価、償却費及び未払利息の変動	123
2019年3月31日現在の残高	1,742

(e) 流動性と与信枠及び信用状

流動性を増加させるために、当社は、一部の銀行との間でシンジケート銀行与信枠及びバイラテラル銀行与信枠を設定している。当社は、シンジケート銀行与信枠に係る3件の契約及びバイラテラル銀行与信枠に係る8件の契約を締結した。

364日間、3年間及び5年間のシンジケート与信契約

2018年11月9日、当社及びその他のトヨタの関係会社は、364日間の与信契約に基づき、50億米ドルの364日間のシンジケート銀行与信枠を、3年間の与信契約に基づき、50億米ドルの3年間のシンジケート銀行与信枠を、5年間の与信契約に基づき、50億米ドルの5年間のシンジケート銀行与信枠を設定した。364日間の与信契約、3年間の与信契約及び5年間の与信契約に基づく与信枠からの引出しは、この種の取引において一般的な取決め及び条項（ネガティブ・プレッジ条項、クロス・デフォルト条項並びに企業結合、合併及び資産の売却に関する制限を含む。）の制限を受け得る。364日間の与信契約、3年間の与信契約及び5年間の与信契約は、一般業務のために利用することができるが、2019年3月31日現在引き出された金額はない。それぞれ2017年11月13日付の364日間の与信契約、3年間の与信契約及び5年間の与信契約は、2018年11月9日に終了している。

364日間及び3年間のバイラテラル与信契約

2018年11月9日、当社及びその他のトヨタの関係会社は、364日間のバイラテラル与信契約に基づき、225百万米ドルの364日間のバイラテラル・リボルビング銀行与信枠を、3年間のバイラテラル与信契約に基づき、200百万米ドルの3年間のバイラテラル・リボルビング銀行与信枠を設定した。364日間のバイラテラル与信契約及び3年間のバイラテラル与信契約に基づく与信枠からの引出しは、この種の取引において一般的な取決め及び条項（ネガティブ・プレッジ条項、クロス・デフォルト条項並びに企業結合、合併及び資産の売却に関する制限を含む。）の制限を受け得る。364日間のバイラテラル与信契約及び3年間のバイラテラル与信契約は、一般業務のために利用することができるが、2019年3月31日現在引き出された金額はない。

364日間、3年間及び5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約

2019年3月26日、当社は、364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づき、175百万ユーロの364日間のバイラテラル銀行与信枠を、3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づき、175百万ユーロの3年間のバイラテラル銀行与信枠を、5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づき、150百万ユーロの5年間のバイラテラル銀行与信枠を設定した。364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約、3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約及び5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づく与信枠からの引出しは、この種の取引において一般的な取決め及び条項（ネガティブ・プレッジ条項、クロス・デフォルト条項並びに企業結合、合併及び資産の売却に関する制限を含む。）の制限を受け得る。364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約、3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約及び5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約は、一般業務のために利用することができるが、2019年3月31日現在引き出された金額はない。それぞれ2018年3月26日付の364日間の与信契約、3年間の与信契約及び5年間の与信契約は、期間満了し（364日間の与信契約の場合）又は2019年3月26日に終了している（3年間の与信契約及び5年間の与信契約の場合）。

364日間のバイラテラル与信契約

2019年2月28日、当社は、364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づき、150百万ユーロの364日間のバイラテラル銀行与信枠を設定した。2019年3月31日現在、かかる与信枠から引き出された金額はない。

2019年6月5日、当社は、364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約に基づき、200百万ユーロの364日間のバイラテラル銀行与信枠を設定した。

2019年7月6日、当社は、364日間のバイラテラル与信契約に基づき、200百万ユーロの364日間のバイラテラル銀行与信枠を設定した。2018年7月6日に締結された従前の200百万ユーロの364日間のバイラテラル与信契約は、2019年3月31日現在引き出された金額はない。

(f) クレジット・サポート・アグリーメント

トヨタ自動車とTFSとの間のクレジット・サポート・アグリーメント(以下「トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメント」という。)の条項に従い、トヨタ自動車は、(1)TFSの発行済株式の100%所有を維持し、(2)TFS及びその子会社に10百万円以上の正味資産を維持せしめ、(3)TFSに対し、()TFSがそのボンド、ディベンチャー、ノート及びその他の投資有価証券及びコマーシャル・ペーパー(以下「TFS証券」と総称する。)から発生する債務並びに()同社が締結した保証又はクレジット・サポート・アグリーメントの結果、負うこととなった債務を履行するために十分な資金を提供することに合意している。トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントは、TFSの証券又は債務に対するトヨタ自動車の保証ではない。トヨタ自動車の、トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントに基づく債務は、無担保優先債務と同順位である。トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントは、日本法に準拠し、日本法に従って解釈される。

TFSと当社との間の類似のクレジット・サポート・アグリーメント(以下「TFSクレジット・サポート・アグリーメント」という。)の条項に従い、TFSは、(1)当社の100%所有を維持し、(2)当社及び(子会社がある場合)その子会社に対し100,000ユーロ以上の正味資産を維持せしめ、(3)当社に対し、当社がそのボンド、ディベンチャー、ノート及びその他の投資有価証券並びにコマーシャル・ペーパー(以下「TMF証券」と総称する。)から発生する債務を履行するために十分な資金を提供することに合意した。TFSクレジット・サポート・アグリーメントは、TMF証券又はその他の当社の債務に対するTFSの保証ではない。TFSの、TFSクレジット・サポート・アグリーメントに基づく債務は、無担保優先債務と同順位である。TFSクレジット・サポート・アグリーメントは、日本法の適用を受け、解釈は日本法に準拠するものとする。

TMF証券の所持人は、当該所持人が、請求書にTFSクレジット・サポート・アグリーメント及び/又は(場合により)トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントに基づき付与された権利を行使することを明示した書面を添えて提出することにより、TFS及びトヨタ自動車に対して直接そのTFSクレジット・サポート・アグリーメント及びトヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントに基づく債務を履行するよう請求する権利を有する。TFS及び/又はトヨタ自動車がそのような請求をTMF証券の所持人から受領した場合には、TFS及び/又はトヨタ自動車がTFSクレジット・サポート・アグリーメント及び/又は(場合により)トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントに基づく自己の債務の履行を行わなかったために生じた損失又は損害を(当該所持人がいかなる行為又は手続をとることも要さず)直ちに補償する。請求を行ったTMF証券の所持人は、その上で、直接TFS及び/又はトヨタ自動車に対して補償債務の強制執行を行うことができる。

トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメント及びTFSクレジット・サポート・アグリーメントには、相手方当事者に対する30日前の書面による通知に基づく解約が規定されている。かかる解約は、すべてのTFS証券若しくはTMF証券が返済されるまで若しくは返済されない限り、又は各関連格付機関が、すべてのTFS証券若しくはTMF証券の債券格付がかかる解約によって影響を受けないということを確認するまで若しくは確認しない限り、その効力は生じないものとされている。

TFSクレジット・サポート・アグリーメントに関し、当社及びTFSは、クレジット・サポート料金契約（以下「クレジット・サポート料金契約」という。）の当事者である。クレジット・サポート料金契約は、当社が、TFSに対し、クレジット・サポートを受けることのできるTMF証券の加重平均残高に基づく金額を半年ごとに手数料として支払うべき旨を定めている。

(g) 信用格付

無担保借入のコスト及び利用可能性は、信用格付の影響を受ける。格付が低い場合には、一般的に借入費用が上昇し、資本市場からの資金調達が制限される。信用格付は、証券の買入れ、売却及び保有を奨励するものではなく、いつでも格付を付与した全国的に認知されている統計的格付機関（NRSRO）により見直し及び取消しをされる可能性がある。各NRSROは異なるリスク評価基準を使用している可能性があり、したがって格付はNRSROごとに別々に評価されなければならない。当社の格付は、TFS及びトヨタ自動車のクレジット・サポート・アグリーメントの存在に部分的に依拠している。

保証

当社は、トヨタ自動車の他の子会社のコマーシャル・ペーパー、ミディアム・ターム・ノート及びその他の債券の発行に関して元金及び利息の支払の保証を行っている。当社は、かかる支払の保証について（2018年3月31日に終了した年度の3,135千ユーロと比較して）2019年3月31日に終了した年度に4,231千ユーロの手数料を受領している。これらの保証の内容及び金額は、財務書類の「注記31 偶発債務」に記述されている。TFSクレジット・サポート・アグリーメント及びクレジット・サポート料金契約は、関連するトヨタ自動車の子会社のコマーシャル・ペーパー、ミディアム・ターム・ノート及びその他の債券の発行に関する当社の偶発債務に対し適用される。

契約上の債務及びクレジット関連のコミットメント

当社は、契約並びにクレジット関連の金融商品及びコミットメントに基づき、将来的に支払を行うべき一定の債務を負っている。2019年3月31日現在における契約上の債務及びクレジット関連のコミットメントの総額は以下のとおりである。

2019年3月31日現在	支払期限までの期間			
	3ヶ月以内	4ヶ月-12ヶ月	1-5年	5年超
契約上の債務				
(単位：百万ユーロ)				
銀行借入金	9	425	1,365	-
コマーシャル・ペーパー	1,284	1,179	-	-
EMTN	749	2,084	4,750	-
受入担保保証金	269	-	-	-
合計	2,311	3,688	6,115	-

重要な会計上の見積り

当社は、下記の見積りが当社の事業運営及びグループ会社の業績を理解するにあたって重要であると考えている。当社の重要な会計上の見積りを決定するにあたって勘案される要素の評価には、重要な仮定、複雑な分析及び経営判断が必要となる。これらの要素の評価についての変更は、財務書類に重大な影響を及ぼす可能性がある。異なる仮定又は経済状態の変動は、当社の経営成績及び財政状態にさらなる変化を招く可能性がある。

デリバティブ商品

当社は、デリバティブ商品を用いて金利リスク及び外国為替相場リスクなどの市場リスクを管理している。これらの商品には、金利スワップ、クロスカレンシー・スワップ及び外国為替契約が含まれる。当社によるデリバティブの利用は、金利リスク及び外国為替相場リスクを管理することに限定される。

必要な見積り及び仮定の内容

経営陣は、ヘッジ商品、ヘッジ対象項目、ヘッジされるリスクの内容及びヘッジ商品の効果を査定するために用いられる方法を見極めた上で、デリバティブ会計の適用を決定する。当社の金融デリバティブ商品の公正価値は、金利、外国為替相場及びその変動を含む直ちに利用可能な市場データを用いた割引キャッシュ・フロー分析等の標準的な評価手法を適用して算出される。ただし、公正価値の見積りを更新するための市場データの分析には相当の判断を要するため、見積りは必ずしも現在の市場において実現できる金額又は支払われるであろう金額を示すものではない。

4 【経営上の重要な契約等】

当社と関連当事者間の契約

トヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメント、TFSクレジット・サポート・アグリーメント及びクレジット・サポート料金契約の定義及び内容については、上記「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 流動性及び資金源 (f) クレジット・サポート・アグリーメント」を参照のこと。

当社及び関連当事者の間の契約その他の取引に関する詳細については、財務書類の「注記30 関連当事者取引」を参照のこと。

代理契約

当社、トヨタ クレジット カナダ インク、トヨタ ファイナンス オーストラリア リミテッド及びトヨタ モーター クレジット コーポレーションの50,000,000,000ユーロ ユーロ・ミディアム・ターム・ノート・プログラムに基づき発行される社債は、発行者としての当社及び発行代理人兼主支払代理人兼計算代理人として、そのロンドン支店を通じて職務を行うザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン等の間の2018年9月14日付改定代理契約に従う。

本書提出日現在、発行代理人兼主支払代理人の名称及び所定の事務所は、以下のとおりである。

発行代理人兼主支払代理人

ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・ Mellon (そのロンドン支店を通じて)

(The Bank of New York Mellon, acting through its London branch)

英国 ロンドン E14 5AL カナリー・ワーフ ワン・カナダ・スクエア

(One Canada Square, Canary Wharf, London E14 5AL, United Kingdom)

銀行与信契約

(a) 流動性与信枠に係る契約

当社は、一部の銀行との間でシンジケート銀行与信枠及びバイラテラル銀行与信枠を設定している。当社は、シンジケート銀行与信枠に係る3件の契約及びバイラテラル銀行与信枠に係る8件の契約を締結した。第一のシンジケート銀行与信枠は、2018年11月9日付の364日間の与信契約（以下「364日間の与信契約」という。）である。第二のシンジケート銀行与信枠は、2018年11月9日付の3年間の与信契約（以下「3年間の与信契約」という。）である。最後のシンジケート銀行与信枠は、2018年11月9日付の5年間の与信契約（以下「5年間の与信契約」という。）である。

第一のバイラテラル銀行与信枠は、2018年11月9日付の364日間のバイラテラル与信契約（以下「364日間のバイラテラル与信契約」という。）である。第二のバイラテラル銀行与信枠は、2018年11月9日付の3年間のバイラテラル与信契約（以下「3年間のバイラテラル与信契約」という。）である。第三のバイラテラル銀行与信枠は、2019年3月26日付の364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約（以下「364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約」という。）である。第四のバイラテラル銀行与信枠は、2019年3月26日付の3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約（以下「3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約」という。）である。第五のバイラテラル銀行与信枠は、2019年3月26日付の5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約（以下「5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約」という。）である。第六のバイラテラル銀行与信枠は、2019年2月28日付の364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約であり、第七のバイラテラル銀行与信枠は、2019年6月5日付の364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約であり、最後のバイラテラル銀行与信枠は、2019年7月6日付の364日間のバイラテラル与信契約（以下「364日間のバイラテラル与信契約」と総称する。）である。

364日間の与信契約、3年間の与信契約、5年間の与信契約、364日間のバイラテラル与信契約、3年間のバイラテラル与信契約、364日間のバイラテラル・リボルビング与信契約、3年間のバイラテラル・リボルビング与信契約、5年間のバイラテラル・リボルビング与信契約及び364日間のバイラテラル与信契約に関する詳細については、上記「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 流動性及び資金源 (e) 流動性与信枠及び信用状」を参照のこと。

(b) 第三者借入に関する契約

2019年3月31日現在、当社は、490百万シンガポール・ドルの3年間のローンに係る1件のバイラテラル銀行与信契約に加え、総額1,060百万米ドルの2年間、3年間及び5年間のローンに係る6件のバイラテラル銀行与信契約、総額400億円の4年間のローンに係る2件のバイラテラル銀行与信契約並びに150百万ユーロの2年間のローンに係る1件のバイラテラル銀行与信契約を締結している。

10件のバイラテラル銀行与信枠に関する詳細については、上記「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 流動性及び資金源 (d) 第三者借入金」を参照のこと。

上記の契約を除き、重要な契約は存在しない。

5 【研究開発活動】

該当事項なし

第4 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社は、最近2事業年度末において、土地を保有していなかった。最近事業年度において、13,000ユーロの事務設備の購入があった。それ以外に、17,000ユーロに及ぶ有形固定資産、当社の事業に用いるためのコンピュータ機器及びソフトウェアの購入があった。2019年3月31日以降、当社の重要な資産について、売却、廃棄又は除却は行われていない。

2 【主要な設備の状況】

上記「1 設備投資等の概要」を参照のこと。

3 【設備の新設、除却等の計画】

2011年6月1日から開始された当社のアムステルダム市における物件の当初のリース期間は5年間であった。かかる物件のリース期間はさらに2021年5月31日まで5年間延長された。

第5 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

(2019年3月31日現在)

授權株数(株)	発行済株式総数(株)	未発行株式数(株)
10,000	2,000	8,000

【発行済株式】

(2019年3月31日現在)

記名・無記名の別及び 額面・無額面の別	種類	発行数(株)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
記名式額面株式 (額面454ユーロ)	普通株式	2,000	-	議決権の制限 のない株式
計	-	2,000	-	-

(2) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(3) 【発行済株式総数及び資本金の推移】

該当事項なし

(4) 【所有者別状況】

下記「(5) 大株主の状況」を参照のこと。

(5) 【大株主の状況】

(2019年3月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する所有 株式数の割合(%)
トヨタファイナンス サービス株式会社	名古屋市西区牛島町6番1号	2,000	100%
計	-	2,000	100%

2 【配当政策】

配当は、当社の執行取締役会の決定に従って行われる。2018年度又は2019年度において、配当は行われていない。

3 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

() 執行取締役会

執行取締役会は、当社の業務及び経営について責任を負っている。執行取締役会は、2名以上の取締役に
より構成され、常に2種類の取締役（L執行取締役及びS/R執行取締役）からそれぞれ1名が含まれている。

報酬、賞与を受け取る権利及びその他の選任の条件は、各執行取締役に關して個別に当社の株主により決
定される。

なお、当社においては監督取締役会は設置されていない。

執行取締役会に関する詳細については、上記「第1 本国における法制等の概要 1 会社制度等の概
要 (2) 提出会社の定款等に規定する制度」を参照のこと。

() リスク管理

当社は資金調達会社であるため、信用リスク、流動性リスク並びに金利及び外国為替相場リスク等の様々
な金融リスクの影響を受ける。当社は、外貨建ての資産及び債務を均衡させ、かつ金利スワップ、通貨ス
ワップ及び外貨契約等の金融商品を利用して金利及び外国為替相場リスクを管理することによって、これら
のリスクが財務成績に及ぼす悪影響を限定することを目的として、リスク管理プログラムを実施している。

(2) 【役員の状況】

取締役及び業務執行役員

(a) 取締役

執行取締役の役職名、氏名、生年月日、略歴、任期及び所有株式数は以下のとおりである。

男性取締役の数：2、女性取締役の数：0（女性取締役の割合：0％）

(有価証券報告書提出日現在)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
執行取締役 (L執行取締役)	伊 藤 裕 康	1967年6月25日	1991年4月 2002年9月 2007年1月 2011年8月 2014年1月 2017年1月 2017年1月	株式会社東海銀行(現 株式会社三菱UFJ銀行) 入行 トヨタファイナンスサービス株式会社 入社 トヨタ モーター クレジット コーポレーション 出向 トヨタファイナンスサービス株式会社 帰任 同社、グループ・ヴァイスプレジデント 就任 トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービー 出向 同社、執行取締役(L執行取締役) 就任	なし	なし
執行取締役 (S/R執行取締役)	河 合 利 昌	1961年12月11日	1984年4月 1998年4月 2013年1月 2014年1月 2019年6月 2019年6月	山一証券株式会社 入社 トヨタ自動車株式会社 入社 トヨタファイナンスサービス株式会社 経営企画グループ 統括グループ シニアバイスプレジデント 就任 トヨタ モーター クレジット コーポレーション エグゼクティブバイスプレジデント兼財務役 就任 トヨタファイナンス株式会社 常務取締役 就任 トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービー 執行取締役(S/R執行取締役) 就任	なし	なし

(b) 業務執行役員

当社は、執行取締役以外の業務執行役員を有しない。

(3) 【監査の状況】**() 監査人**

アーンスト・アンド・ヤング・アカウンタンツ・エルエルピー(以下「EY」という。)は、2017年から2年間、当社の監査人であった。

TMFIは、EYが世界的な監査法人の一つとして当社が求める幅広い監査業務を独立して提供できる専門性を持つため、EYを当社の監査人として選任した。

2018年3月31日及び2019年3月31日に終了した年度のEY及びその関係会社に対する費用は、それぞれ、219,000ユーロ及び238,000ユーロであった。

() 【監査報酬の内容等】

(a) 【外国監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(円)	非監査業務に 基づく報酬(円)	監査証明業務に 基づく報酬(円)	非監査業務に 基づく報酬(円)
提出会社	17,481,200	28,211,040	15,672,800	22,785,840
連結子会社				
計	17,481,200	28,211,040	15,672,800	22,785,840

(b) 【その他重要な報酬の内容】

該当事項なし

(c) 【外国監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項なし

(d) 【監査報酬の決定方針】

該当事項なし

(4) 【役員の報酬等】

() 執行取締役及び役員の報酬

2019年3月31日に終了した事業年度において、執行取締役及び役員に支払われた報酬及び賞与の総額は265,000ユーロであった。執行取締役及び役員の報酬に関する詳細については、財務書類の「注記10 管理費」を参照のこと。

伊藤裕康氏及び河合利昌氏は、他のトヨタの関係会社からの出向社員である。河合利昌氏に対する給与は、出向元である他のトヨタの関係会社から支払われている。

() 特別手当

該当事項なし

(5) 【株式の保有状況】

該当事項なし

第6 【経理の状況】

- a 本書記載の当社の邦文の財務書類は、欧州連合により採用されている国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）及び国際財務報告基準解釈指針委員会（以下「IFRIC」という。）が公表した解釈指針、並びにオランダ民法典第2編第9章の規定に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである。本書記載の財務書類については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）第131条第1項の規定が適用されている。
- なお、日本とオランダにおける一般に公正妥当と認められる会計原則の主要な相違については、下記「4 本国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」に記載されている。
- b 2019年3月31日現在及び2019年度の原文の財務書類は、EYの監査を受けている。EYは外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定される外国監査法人等をいう。）であり、本有価証券報告書に金融商品取引法第193条の2第1項第1号に規定される監査証明に相当すると認められる証明に係るその監査報告書及び訳文を添付している。2019年3月31日現在及び2019年度の財務書類の比較対象である2018年3月31日現在及び2018年度の財務書類は、2019年3月31日現在及び2019年度の財務書類の監査の対象に含まれている。
- c 邦文の財務書類には、原文の財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円の換算には、2019年8月1日現在の東京外国為替市場における対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ＝120.56円の為替レートが使用されている。金額は百万円単位（四捨五入）で表示されている。日本円に換算された金額は、四捨五入のため、合計欄の数値は必ずしも総数と一致しない。なお、円表示額は単に便宜のためであり、ユーロ額が実際に上記のレートで円に換算されることを意味するものではない。
- d 円換算額及び「第6 経理の状況」の下記2から4までの事項は原文の財務書類には記載されておらず、当該事項における財務書類への参照事項を除き、上記bの会計監査の対象になっていない。

1 【財務書類】

(1) 包括利益計算書

	注記	3月31日に終了した事業年度			
		2018年		2019年	
		千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円
受取利息	5	80,332	9,685	127,467	15,367
受取配当金	6	49	6	190	23
保証手数料収入	7	3,135	378	4,231	510
収益	4	83,516	10,069	131,888	15,900
支払利息	8	(55,113)	(6,644)	(99,672)	(12,016)
手数料費用	9	(9,898)	(1,193)	(13,431)	(1,619)
資金調達コスト		(65,011)	(7,838)	(113,103)	(13,636)
売上総利益		18,505	2,231	18,785	2,265
管理費	10	(4,611)	(556)	(5,322)	(642)
金融商品に係る純利益 / (損失)	11	(25,709)	(3,099)	39,219	4,728
グループ会社に対する貸付金に係る信用損失調整	14	-	-	(293)	(35)
税引前利益 / (損失)		(11,815)	(1,424)	52,389	6,316
税金	13	2,352	284	(15,454)	(1,863)
当期利益 / (損失)		(9,463)	(1,141)	36,935	4,453
その他包括利益 (税控除後) :					
損益に振替えられる項目					
売却可能金融資産の公正価値の純変動額		4	0	-	-
損益に振替られない項目					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定するものとして指定された資本性金融商品に係る純利益	29	-	-	104	13
当期包括利益 / (損失) 合計 (税控除後)		(9,459)	(1,140)	37,039	4,465
株主に帰属する当期利益 / (損失)		(9,459)	(1,140)	37,039	4,465

財務書類注記は当財務書類の不可欠な一部である。

(2) 財政状態計算書

注記	3月31日現在			
	2018年		2019年	
	千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円
資産				
流動資産				
関係会社に対する貸付金	14	3,750,637	452,177	4,558,193
その他の債権	20	246,327	29,697	58,243
デリバティブ金融商品	16	57,761	6,964	250,718
現金及び現金同等物	22	126,634	15,267	242,263
流動資産合計		4,181,359	504,105	5,109,417
非流動資産				
関係会社に対する貸付金	14	4,990,433	601,647	6,855,066
デリバティブ金融商品	16	148,235	17,871	150,549
持分投資 - 関係会社	15	1,119	135	1,223
有形固定資産	17	-	-	12
無形資産	18	-	-	16
繰延税金資産	19	1,650	199	-
非流動資産合計		5,141,437	619,852	7,006,866
負債				
流動負債				
借入金	23	3,836,448	462,522	5,569,338
デリバティブ金融商品	16	91,263	11,003	47,569
金融保証債務	24	7,431	896	8,612
当期税金負債	21	1,209	146	584
その他の負債及び未払費用	25	62,899	7,583	277,624
当座借越	22	1	0	3
流動負債合計		3,999,251	482,150	5,903,730
正味流動負債 / 資産		182,108	21,955	(794,313)
非流動負債				
借入金	23	4,920,462	593,211	5,926,677
デリバティブ金融商品	16	257,077	30,993	95,489
繰延税金負債	19	-	-	7,880
非流動負債合計		5,177,539	624,204	6,030,046
純資産		146,006	17,602	182,507
株主資本				
親会社株主に帰属する資本				
資本金	27	908	109	908
利益剰余金	28	144,734	17,449	181,131
FVOCIで測定する資本性金融商品	29	364	44	468
株主資本合計		146,006	17,602	182,507

財務書類注記は当財務書類の不可欠な一部である。

(3) 持分変動計算書

	注記	資本金		利益剰余金		公正価値 評価差額金		合計	
		千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円
2017年3月31日現在残高		908	109	154,197	18,590	360	43	155,465	18,743
資本性金融商品	29	-	-	-	-	4	0	4	0
当期損益		-	-	(9,463)	(1,141)	-	-	(9,463)	(1,141)
当期包括利益合計		-	-	(9,463)	(1,141)	4	0	(9,459)	(1,140)
2018年3月31日現在残高		908	109	144,734	17,449	364	44	146,006	17,602
予想信用損失調整	14	-	-	(717)	(86)	-	-	(717)	(86)
繰延税金調整	19	-	-	179	22	-	-	179	22
2018年4月1日現在残高		908	109	144,196	17,384	364	44	145,468	17,538
資本性金融商品	29	-	-	-	-	104	13	104	13
当期損益		-	-	36,935	4,453	-	-	36,935	4,453
当期包括利益合計		-	-	36,935	4,453	104	13	37,039	4,465
2019年3月31日現在残高		908	109	181,131	21,837	468	56	182,507	22,003

持分合計の期首残高は、IFRS第9号の影響により、前年度の期末残高から変動している。IFRS第9号適用による持分合計への合計影響額は、538,000ユーロの減少である（注記28を参照のこと）。

財務書類注記は当財務書類の不可欠な一部である。

(4) キャッシュ・フロー計算書

注記	3月31日に終了した事業年度			
	2018年		2019年	
	千ユーロ	百万円	千ユーロ	百万円
当期利益 / (損失)	(9,463)	(1,141)	36,935	4,453
以下の項目に対する調整：				
減価償却費及び償却費	17/18	-	2	0
受取配当金	6	(49)	(190)	(23)
税金		(2,352)	15,454	1,863
受取利息	5	(80,332)	(127,467)	(15,367)
支払利息	8	55,113	99,672	12,016
未実現公正価値評価損益		462,700	(402,906)	(48,574)
未実現為替差損益		(528,997)	280,016	33,759
関係会社に対する貸付金の増加	14	(1,458,806)	(2,531,116)	(305,151)
その他の流動資産の(増加)/減少		(141,463)	189,558	22,853
その他の流動負債の増加/(減少)		(309,693)	214,768	25,892
		(2,013,342)	(2,225,274)	(268,279)
利息受取額		78,057	118,750	14,317
利息支払額		(41,683)	(75,126)	(9,057)
税金支払額		(2,711)	(6,372)	(768)
営業活動によるキャッシュ・フロー		(1,979,679)	(2,188,022)	(263,788)
有形固定資産及び無形資産の購入	17/18	-	(30)	(4)
配当金受取額	6	49	190	23
投資活動によるキャッシュ・フロー		49	160	19
借入による収入	23	25,616,623	34,218,871	4,125,427
借入の返済による支出	23	(23,512,815)	(31,930,248)	(3,849,511)
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,103,808	2,288,623	275,916
現金及び現金同等物純増加額		124,178	100,761	12,148
現金及び現金同等物期首残高		1,872	126,633	15,267
現金及び現金同等物に係る為替差損		583	14,866	1,792
現金及び現金同等物期末残高	22	126,633	242,260	29,207

財務書類注記は当財務書類の不可欠な一部である。

(5) 財務書類注記

1 一般情報

トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビーブイ (以下「当社」という。) はトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社の100%子会社である。当社の主な業務は、グループ金融子会社としての業務である。当社は国際資本市場における社債の発行及びその他の資金源を通じて調達した資金を、トヨタの他のグループ会社に対して貸付けている。当社はまた、トヨタの他のグループ会社の資金調達債務を保証している。

当社はオランダで設立され、同国に本社を置いている。登記した事務所の所在地は、オランダ王国 1077 XV アムステルダム市 ザイドプライン 90、ワールド・トレード・センター、タワーH レベル10である。

当社の最終の統括会社にして支配会社であり、当社の業績が連結されている最大規模の企業は、日本で設立されたトヨタ自動車株式会社である。

当社の業績が連結されている最小規模の企業は、日本で設立されたトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社である。

トヨタ自動車の財務書類は、<http://www.toyota-global.com>にて入手可能である。

当財務書類は、2019年7月16日に取締役会により公表を承認されている。

2 重要な会計方針の要約

当財務書類の作成において適用された主要な会計方針は下記のとおりである。これらの方針は、別途記載がない限り、表示されている全ての年度について一貫して適用されている。

当社は子会社、合併会社又は関連会社に対する投資を有していないため、連結財務書類の作成は要求されていない。

作成基準

- ・当社の財務書類は、欧州連合により採用されている国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）及び国際財務報告基準解釈指針委員会（以下「IFRIC」という。）が公表した解釈指針に準拠して、またオランダ民法典第2編第9章の法令の条項に基づいて作成されている。
- ・採用された会計方針により、当社の財務書類は国際会計基準審議会（以下「IASB」という。）が公表した全てのIFRS及びIFRICが公表した解釈指針にも準拠している。
- ・当財務書類は取得原価主義に基づいて作成されている。ただし、デリバティブ金融商品、トレーディング目的で保有する金融資産及び負債又は損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融資産及び負債、回収のために保有する事業モデルの中で保有されていない金融商品、元本及び利息の支払いのみ（以下「SPPI」という。）テストに適合しない負債性金融商品は全て公正価値で測定される。

- ・IFRSに準拠した財務書類の作成には、特定の重要な会計上の見積りの使用が必要となる。また、経営陣は、当社の会計方針を適用する過程において判断を行う必要がある。高度な判断又は複雑性を伴う分野、あるいは仮定や見積りが財務書類にとって重要性を持つ分野は、注記3に開示されている。
- ・当社の財務書類は、当社の機能通貨及び表示通貨であるユーロで表示されている。別途記載がない限り、表示されている財務情報はユーロ建となっており、千ユーロ単位に四捨五入されている。

継続企業

2019年3月31日現在の流動負債は流動資産を超過していた。流動性リスク管理については注記32.5に記載されており、取締役は、利用可能な流動性と信枠及び信用補完枠を評価したところ、当社には予測可能な将来において流動負債に対処し続けるだけの十分な資金があるという合理的結論に達し、よって当財務書類は継続企業の前提に基づいて作成されている。

会計方針及び開示の変更

2018年4月1日に開始する事業年度において発効している新基準及び基準の修正

IFRS第9号

IFRS第9号「金融商品」は、金融資産及び金融負債の分類、測定及び認識について規定している。

2014年7月24日、IASBは、新しい予想信用損失モデルを組み込み、金融資産に関する分類及び測定要件に修正を導入して、IFRS第9号の完成版を公表した。このバージョンは、全ての従前のバージョンを廃止するものであり、2018年1月1日以降に開始する会計期間において強制発効となる。2018年4月1日付で、IFRS第9号は当社の財務書類に適用されている。当社は、金融資産の分類に及ぼす影響及び金融負債に関する要件について詳細な評価を実施した。当社はヘッジ会計を適用していないため、新しいヘッジ会計規則は適用されない。当社は、2018年4月1日を初度適用日としてIFRS第9号を遡及適用し、2017年4月1日に開始する会計期間に関する比較情報の調整を行っていない。金融資産に関する新しい減損モデルは予想信用損失モデルであり、信用損失の早期認識をもたらすと予想されている。減損モデルには、広範な関連当事者固有の財務データ及び非財務データ、また、GDP成長率、失業率、対外貿易、自動車市場統計などの経済的なインプットのような将来予測的な情報が含まれる。IFRS第9号による当社の財務書類への影響は、持分変動計算書、注記14「関係会社に対する貸付金」、注記19「繰延税金」及び注記28「利益剰余金」に掲載されている。

IFRS第9号 - 元本及び利息の支払いのみ（以下「SPPI」という。）

IFRS第9号において非資本性金融資産の分類は、2つの主要な基準によって決定される。

- ・当該資産が保有されている事業モデル（事業モデル・テスト）
- ・当該資産の契約上のキャッシュ・フロー（SPPIテスト）

したがって、IFRS第9号における適切な分類区分を決定するためには、金融資産がSPPIテストに適合しているかどうかを判断する必要がある。

非資本性金融資産がSPPIテストに適合しない場合、全体として「純損益を通じて公正価値（以下「FVTPL」という。）で測定」に分類されなければならない。IAS第39号とは異なり、金融資産を「主」契約（償却原価で測定されることが多い。）と「組込デリバティブ」の構成単位（FVTPLで測定される）に分離することは不可能となった。非資本性金融資産がSPPIテストに適合する場合、「回収のために保有する」事業モデル・テストに適合する場合には償却原価で測定、「回収及び売却のために保有する」事業モデル・テストに適合する場合には「その他の包括利益を通じて公正価値（以下「FVOCI」という。）で測定」のいずれかに分類されることになる。

SPPIテスト

SPPIテストでは、金融資産（全体として）の契約条件が、元本及び元本残高に対する利息の支払いのみであるキャッシュ・フロー、すなわち基本的な融資の取決めと整合的なキャッシュ・フローを創出することが要求される。事業モデル・テストとは異なり、この評価は金融商品ごとに行わなければならない。

元本は、当初認識時における金融資産の公正価値と定義される。利息は、狭義には貨幣の時間価値及び信用リスクに対する対価と定義されるが、流動性リスクなどのその他の融資リスク、管理コスト、及び利益マージンに対する対価も含むことがある。エクイティ・リスクやコモディティ・リスクなどのその他のリスクに対する対価を提供するキャッシュ・フローは、基本的な融資の取決めと整合しないため、SPPIテストに適合しない。

回収のために保有する

「回収のために保有する」事業モデルの目的は、資産を売却してキャッシュ・フローを創出することではなく、金融資産を保有して契約上のキャッシュ・フローを回収することである。しかし、金融資産を常に満期まで保有するという要件はなく、IFRS第9号では、その頻度及び重要性にかかわらず、「回収のために保有する」事業モデルと整合的であると考えられる一部の売却を特定している。これは、例外的な状況を除く全ての状況において売却に対して企業に罰則を与えていた（一般的に「テインティング・ルール」として知られている。）IAS第39号における満期保有区分とは対照的である。しかし、売却はこの事業モデルにおいて付随的であることが予想され、そのため、企業は、売却が発生した場合にその性質、頻度及び重要性を評価する必要がある。

SPPIテストに適合し、「回収のために保有する」事業モデルで保有されている金融資産のみを、償却原価で測定に分類することができる。

当社の事業モデルは「回収のために保有する」事業モデルである。当社は、全ての貸付資産残高を評価し、全てのケースでSPPIテストに適合していると判断した。

IFRS第9号の適用は、IAS第39号の発生損失アプローチを将来予測的な予想信用損失（以下「ECL」という。）アプローチに置き換えることにより、当社の貸付金の減損についての会計処理を変更した。IFRS第9号により、当社はFVTPLで保有していない全ての貸付金及びその他の負債性金融資産、並びにローン・コミットメント及び金融保証契約について、ECLに対する引当金を計上することが要求される。引当金は、信用リスクが組成以降に著しく増大していない限り、次の12ヶ月間のデフォルト確率に関連するECLに基づいて設定される。金融資産が購入又は組成した信用減損金融資産（以下「POCI」という。）の定義に該当する場合、引当金は、当該資産の存続期間にわたるECLの変動に基づいて設定される。

減損の3段階

IFRS第9号において、貸付金の減損は（個別に又は集合的に）3段階で認識される。

ステージ1 - 貸付金の組成又は購入時に、次の12ヶ月以内に発生する可能性のあるデフォルト事象から生じる予想信用損失（以下「ECL」という。）（以下「12ヶ月のECL」という。）が認識され、損失評価引当金が設定される。その後の報告日に、12ヶ月のECLは、当初認識以降に信用リスクが著しく増大していない既存の貸付金にも適用される。利息収益は、貸付金の帳簿価額総額に対して（すなわち、ECLを控除せずに）計算される。

ステージ2 - 貸付金の信用リスクが当初認識以降に著しく増大しており、低リスクとはみなされない場合、全期間のECLが認識される。当社の指標は借手の予想される業績及び行動の著しい変化（契約上の支払いの遅延について予想される件数の増加又は範囲の拡大など）である。利息収益の計算はステージ1と同じである。

ステージ3 - 貸付金の信用リスクが、信用が減損したとみなされる状態まで増大した場合、利息収益は、貸付金の償却原価（すなわち、帳簿価額総額から損失評価引当金を控除した額）に基づいて計算される。当社は、利息の計算において、当該金融資産の償却原価純額に実効金利を適用する予定である。当該金融資産が信用減損に該当しなくなった場合、当社は総額ベースでの利息収益の計算に戻す。全期間のECLはステージ2と同様に認識される。

当社は、限られた数のトヨタの他のグループ会社に貸付金を提供している。

減損モデルには、広範な関連当事者固有の財務データ及び非財務データ、また、GDP成長率、失業率、対外貿易、自動車市場統計などの経済的なインプットのような将来予測的な情報が含まれる。

当社は、その貸付資産に関して、デフォルト事象や信用損失を一度も経験していない。貸付資産残高のいずれについても、組成以来重要な事象は発生していない。当社は、全ての貸付資産残高がステージ1にあると考えている。

ステージ2の事象、すなわちデフォルトは、借手による契約上の支払いが30日を超えて期日超過となっている場合に発生する。

ステージ3の事象は、借手による契約上の支払いが90日を超えて期日超過となっている場合に発生する。

IFRS第9号 - 発行した金融保証

金融保証契約の識別

IFRS第9号は、金融保証について、IAS第39号と同じ定義、すなわち、特定の債務者が負債性金融商品の条件に従って期日到来時に支払いを行わないことにより契約保有者に発生する損失を補償するために、当該保有者に対して所定の支払いを行うことを契約発行者に要求する契約である、という定義を保持している。

IFRS第9号は、発行した金融保証契約（以下「FGC」という。）についてIAS第39号と同じ当初認識要件を保持しているが、異なる事後測定要件を導入している。

当初認識

発行したFGCは金融負債であり、公正価値で当初認識される。

当社は、トヨタ自動車の他の子会社の債権者に対して保証を行っている。当社は、発行済の保証付債務に関して、トヨタ自動車の子会社から保証手数料を受け取っている。保証は当社がトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社（以下「TFS」という。）と行っている信用補完に基づき発行され、その信用補完に対して当社は信用補完手数料を支払っている。当初の公正価値は、保証対象の債務の発行時における将来キャッシュ・フローの現在価値である。

事後測定

FGCは以下のうちの「いずれか高い方」の金額で事後測定される。

- ・ IFRS第9号の予想信用損失（以下「ECL」という。）引当金。
- ・ 当初認識額（すなわち公正価値）から認識された収益 / 償却の累計額を控除した金額。

持分投資

IFRS第9号の範囲に該当する全ての持分投資は、財政状態計算書において公正価値で測定される。当社は、持分投資の公正価値の変動をその他の包括利益において認識している。

当社は、持分投資について減損の評価を行っておらず、これらの金融商品の処分時に、従来その他の包括利益において認識していた利益又は損失を純損益に分類変更すること（「リサイクル」とも呼ばれる。）ができない。

当社は子会社、合併会社又は関連会社に対する投資を有していないため、要約連結財務書類を作成していない。

デリバティブ

IFRS第9号の範囲に該当する全てのデリバティブは、非上場持分投資に連動するものを含め、公正価値で測定される。当社はヘッジ会計を適用していない。公正価値の変動は純損益で認識される。

組込デリバティブ。組込デリバティブとは、非デリバティブの主契約も含むハイブリッド契約の構成要素であり、複合金融商品のキャッシュ・フローの一部は、単独のデリバティブと同様の方法で変動するという影響がある。

当社は、組込デリバティブについて全ての契約を見直し、該当するものはなかった。

IFRS第15号

IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」は、2018年1月1日以降に開始する報告年度から適用される。IFRS第15号は、顧客との契約から生じる収益及びキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に関する情報を報告する際に企業が適用する原則を定めている。IFRS第15号を適用する際、企業は収益の認識を、約束した財又はサービスの顧客への移転を当該商品又はサービスと引き換えに企業が権利を得ると見込んでいる対価を反映する金額で描写するように行う。当社はIFRS第15号の範囲内における財又はサービスの提供を行っておらず、財又はサービスの提供による収益はない。IFRS第15号は当社の財務書類に影響を及ぼさない。

重要な会計上の見積り及び判断

財務書類注記は、表示されている財務書類の作成に重要な判断、複雑な計算又は仮定が用いられた分野について記載している。重要な判断又は複雑な計算や仮定が用いられた分野には、金融商品の公正価値評価及び予想信用損失が含まれる。

公表済だが2018年4月1日に開始する事業年度においては発効しておらず早期適用もされない新基準、修正及び解釈指針

IFRS第16号「リース」は、IFRSに従って財務報告を行う企業がリースを認識、測定、表示及び開示する方法について規定している。この基準は、単一の借手会計モデルを提供しており、リース期間が12ヶ月以下又は原資産が少額の場合を除き、全てのリースについて借手が資産と負債を認識することを求めている。当社は、当社のリースに係る評価を行い、この修正は当社の財務書類に重要な影響を及ぼさないものと判断している。

まだ発効しておらず、当社に重要な影響を及ぼすことが予想されるIFRS又はIFRIC解釈指針は他にはない。

セグメント報告

最高経営意思決定者に対する内部報告に一致した方法で単一の事業セグメントが報告されている。事業セグメントへの資源配分及び業績評価について責任を有する最高経営意思決定者は、戦略的決定を下す取締役会とされている。

外貨

取引及び残高

当財務書類は、当社の機能通貨であるユーロで表示されている。

外貨建取引は取引日の実効為替レートで機能通貨に換算される。当該取引の決済、並びに外貨建の貨幣性資産及び負債の期末日の為替レートによる換算から生じた為替差損益は、損益計算書の「金融商品に係る純利益／（損失）」に認識される。

金融資産

IFRS第9号に基づく金融資産の分類及び測定は、資産が保有される事業モデルによって、並びに契約上のキャッシュ・フローが元本及び利息の支払いのみ（以下「SPPI」という。）であるかどうかによって決定される。IFRS第9号において、金融資産は、償却原価、その他の包括利益を通じて公正価値（以下「FVOCI」という。）又は損益を通じて公正価値（以下「FVTPL」という。）のいずれかで測定される。これらの分類は、貸付金及び債権、売却可能（以下「AFS」という。）、FVTPL、並びに満期保有目的というIAS第39号の分類を置き換えるものである。

分類は金融資産を取得した目的に応じて行われる。経営陣は、当初認識時に投資の分類を決定する。デリバティブ契約の通常の方法による取引は約定日基準で会計処理され、その他全ての金融資産の通常の方法による取引は決済日基準で会計処理される。金融資産（又は、該当がある場合は、金融資産の一部、もしくは類似した金融資産グループの一部）は主に、当該資産からのキャッシュ・フローに対する権利が消滅した時点で、認識が中止される。

a) 償却原価で測定する負債性金融商品

当社からトヨタ・グループの関係会社に対する貸付金、現金及び現金同等物、並びにその他の債権は、償却原価で測定する負債性金融商品に分類される。関係会社に対する貸付金は、増分の取引コストを含む公正価値で当初認識される。その後は実効金利法を用いた償却原価で認識される。当社が保証する債務に関する兄弟会社からの未収保証手数料は財政状態計算書の「その他の債権」に含まれる。

b) その他の包括利益（以下「OCI」という。）を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融資産（資本性金融商品）

当社は、当初認識時に、資本性金融商品をFVOCIへ取消不能の分類をしている。これらの資本性金融商品に係る損益は、純損益にリサイクルされない。配当金は損益において「受取配当金」として認識される。FVOCIで測定する資本性金融商品は、減損評価の対象外である。

c) 損益を通じて公正価値で測定する金融資産

損益を通じて公正価値で測定する金融資産は、経営陣のデリバティブ・ポートフォリオを含んでいる。当社は、対象となるその他の金融資産及び金融負債に伴うリスクを軽減するためにデリバティブ契約を締結している。

デリバティブは、デリバティブ契約の締結日の公正価値で当初認識され、その後も公正価値に調整される。取引コストは包括利益計算書に費用計上される。結果として生じた損益の認識方法は、そのデリバティブがヘッジ手段として指定されているか否かにより決定され、ヘッジ手段として指定されている場合は、ヘッジ対象項目の性質により決定される。したがって、金融商品の公正価値の変動は全額、当該デリバティブに係る未収未払利息を控除後の金額で、包括利益計算書の「金融商品に係る純利益 / (損失)」に直ちに認識される。デリバティブに係る未収未払利息は損益計算書の「支払利息」に計上される。

有形固定資産

有形固定資産項目は、減価償却累計額及び減損損失累計額を控除後の取得原価で計上される。

減価償却費は、有形固定資産の償却可能額を償却するため、以下の見積耐用年数にわたり定額法を用いて費用計上される。

- | | |
|-----------------|-----|
| - 備品及び附属品 | 5 年 |
| - 什器 | 5 年 |
| - コンピュータ・ハードウェア | 5 年 |

資産の残存価額及び耐用年数は各決算日に見直され、必要に応じて調整される。

有形固定資産項目の処分損益は、収入と帳簿価額とを比較して決定される。これらの損益は、包括利益計算書の「管理費」に含まれる。

無形資産

当社が取得した無形資産は、償却累計額及び減損損失累計額を控除後の取得原価で計上される。

償却費は、資産の見積耐用年数にわたり定額法を用いて費用計上され、包括利益計算書の「管理費」に含まれる。

見積経済的耐用年数は以下のとおりである。

- | | |
|-----------------|-----|
| - コンピュータ・ソフトウェア | 5 年 |
|-----------------|-----|

資産の価値及び耐用年数は各決算日に見直され、必要に応じて調整される。

無形資産項目の処分損益は、収入と帳簿価額とを比較して決定される。これらの損益は、包括利益計算書の「管理費」に含まれる。

非金融資産の減損

減損損失とは、資産の帳簿価額が回収可能額を上回る金額である。

各決算日において、当社は資産に減損の兆候があるか否かを評価する。減損の兆候がある場合、当該資産の回収可能額が見積られる。

有形固定資産及び無形資産は、帳簿価額を回収できない可能性があることを示す事象又は状況の変化がある場合、減損テストの対象となる。

現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は現金及び3ヶ月以内に換金可能な預金と定義される。これらには銀行における翌日物短期金融市場預金、銀行における当座預金及び定期預金残高、並びに短期投資が含まれる。

現金及び現金同等物は償却原価で測定される。

キャッシュ・フロー計算書は間接法に従って作成されており、営業活動、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローを区別している。利息の支払い及び受取り並びに税金の支払いに関連するキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローに分類される。

借入金

借入金は、取引コスト控除後の公正価値で当初認識され、その後は償却原価で認識される。認識及び認識の中止は決済日基準で行われる。

借入金は、契約の満期日によって流動負債又は非流動負債に分類される。

税金

当期の税金費用は、非課税又は損金不算入の項目を調整した当期の業績に基づいており、決算日までに成立済又は実質的に成立している税率を用いて算定される。

繰延税金は、資産及び負債の課税ベースの金額と財務書類におけるそれらの帳簿価額との差異から発生する一時差異に対して、資産負債法を用いて全額計上されている。ただし、取引時点で会計上の損益にも課税対象損益にも影響を及ぼさないような企業結合以外の取引において、資産又は負債の当初認識により繰延税金が発生する場合、当該繰延税金は計上されない。

繰延税金は、決算日までに成立済又は実質的に成立しており、関連する繰延税金資産が実現する時点又は繰延税金負債が決済される時点で適用される予定の税率（及び法律）を用いて算定される。

繰延税金資産は、一時差異を利用できる将来の課税対象利益が生じる可能性が高い範囲において認識される。

当期税金資産と当期税金負債を相殺する法的権利があり、繰延税金資産及び負債が同一の税務当局が課す法人税に関連しており（課税対象企業が同一の場合であっても異なる場合であっても）、残高を純額ベースで決済する意思がある場合に、繰延税金資産と繰延税金負債は相殺される。

保証

当社は、トヨタ自動車の他の子会社の債権者に対して保証を行っている。当社は、発行済の保証付債務に関して、トヨタ自動車の子会社から保証手数料を受け取っている。保証は当社がTFSと行っている信用補完に基づき発行され、その信用補完に対して当社は信用補完手数料を支払っている。当初の公正価値は、保証の発行時における将来キャッシュ・フローの現在価値である。

収益認識

受取利息

受取利息は、償却原価で測定する全ての金融資産について、実効金利（以下「EIR」という。）法を用いて計上される。EIRとは、金融資産もしくは負債の予想存続期間、又は適切な場合にはそれより短い期間を通じて、見積られた将来の現金受取額を当該金融資産の帳簿価額総額まで割引く利率である。

EIRは、金融資産の取得に係る取引コスト及びプレミアム又はディスカウント、並びにEIRの不可分の一部である手数料及び費用を考慮して算出される。当社は、貸付金の予想存続期間にわたる一定の利益率の最良の見積りを表す利益率を用いて受取利息を認識している。このため、EIRの計算では、金融資産の予想存続期間の様々な段階で課される潜在的な金利の相違の影響、並びに商品のライフサイクルのその他の特性（早期返済及び延滞利息を含む。）も考慮する。

固定金利の金融資産又は負債のキャッシュ・フロー予想が信用リスク以外の理由によって変更される場合、将来の契約上のキャッシュ・フローの変動は当初のEIRで割り引かれ、その結果、帳簿価額が調整される。実効金利法を用いて計算される従来の帳簿価額からの差額は、貸借対照表上の金融資産又は負債の帳簿価額に対するプラス又はマイナスの調整として計上され、それに対応して、受取利息／支払利息が増加又は減少する。

保証手数料収入

保証手数料収入は、関連する契約の内容に基づき保証期間にわたり発生基準で認識される。

受取配当金

受取配当金は、支払いを受ける権利が確定した時点で認識される。

3 重要な会計上の見積り及び判断

財務書類注記は、表示されている財務書類の作成に重要な判断、複雑な計算又は仮定が用いられた分野について記載している。重要な判断又は複雑な計算や仮定が用いられた分野には、金融商品の公正価値評価、及び予想信用損失が含まれる。

3.1 金融商品の公正価値の見積り

活発な市場で取引されない金融商品の公正価値は、評価手法を用いて算定される。当社は様々な手法及び各決算日現在の市況に基づく市場の仮定を使用している。長期債券に関しては、類似商品の市場価格又はディーラー呼び値が使用される。その他の金融商品の公正価値の算定には、見積割引キャッシュ・フローなどの他の手法が使用される。金利スワップ、通貨スワップ及び先渡為替予約の公正価値は、見積将来キャッシュ・フローの現在価値として算出される。

通常30日以内に満期を迎えるその他の債権及び債務の減損損失引当金控除後の価額は、公正価値に近似していると考えられる。開示目的の金融負債の公正価値は、類似した金融商品について当社が利用可能な現在の市場金利で契約上の将来キャッシュ・フローを割引くことにより見積られる。

3.2 保証の当初認識及び評価

IFRS第9号により、関連当事者が発行した債務に関連する保証債務を公正価値で当初認識することが要求されている。関連当事者の債務の保証は活発に取引されず、保証締結時に当初費用も計上されないことから、第三者の債権者に対する当初負債を評価する際に評価手法が必要となる。

当社は保証債務の当初評価の際に、保証期間にわたる将来収益キャッシュ・フローの割引額を使用している。保証債務の当初認識額は、関連当事者による債務の発行日に、発行された債務の特定の通貨に適用される市場金利を用いて算出される。

保証の当初公正価値の見積りは、関連する個々のグループ会社がトヨタ自動車のグループ全体の信用格付けから独立した信用格付けを有していないため、経営陣の判断及び複雑な計算に相当部分依存している。保証資産は保証債務と同額で認識される。保証債務の価値の変動は、保証資産の価値の同額の変動に一致している。このような変動は包括利益計算書に影響しないため、保証債務の感応度分析は財務書類注記に含まれていない。

4 市場の地域別内訳

当社はIFRS第8号で定義されている単一の事業報告セグメントで構成されている。収益は主に関係会社に対する貸付から発生し、その他の収益は関係会社に対する保証並びに主要な資金調達業務に付随して生じるその他の投資収益及び預け金収益から発生する。

収益の地域別内訳は以下のとおりである。

地域別収益	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
英国（グループ）	21,245	33,719
タイ（グループ）	8,739	29,911
ロシア（グループ）	22,478	18,888
南アフリカ（グループ）	7,517	15,702
ノルウェー（グループ）	9,853	12,835
ポーランド（グループ）	3,235	5,035
その他の国（グループ）	8,782	10,420
その他から受け取った利息	1,667	5,378
合計	83,516	131,888

5 受取利息

受取利息	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
関係会社に対する貸付金に係る受取利息	78,665	122,089
銀行預金に係る受取利息	389	3,584
コマーシャル・ペーパーに係る受取利息（プレミアム）	870	1,242
差入担保保証金に係る受取利息	371	507
法人税に係る受取利息	37	45
合計	80,332	127,467

6 受取配当金

当社は当年度において、トヨタ リーシング タイランド株式会社から190,000ユーロ（2018年度：49,000ユーロ）の配当金を受取った。

7 保証手数料収入

当社はトヨタ自動車の特定の子会社の債務を保証しており、それにより保証手数料収入を受取っている。保証手数料収入は全て関連当事者から受取っている。2019年度の保証手数料収入は4,231,000ユーロ（2018年度：3,135,000ユーロ）であった。

8 支払利息

支払利息	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
ユーロ・ミディアム・ターム・ノートに係る支払利息	(96,675)	(128,824)
コマーシャル・ペーパーに係る支払利息	(19,101)	(45,770)
銀行借入金に係る支払利息	(21,523)	(40,316)
貸付資産に係る利息支払額	(1,221)	(1,289)
関係会社からの借入金に係る支払利息	(1,216)	-
受入担保保証金に係る支払利息	(293)	(91)
為替デリバティブ契約の利息部分	3,010	3,711
スワップ契約に係る利息純額	81,906	112,907
合計	(55,113)	(99,672)

9 手数料費用

当社はトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社及びトヨタ自動車とのクレジット・サポート・アグリーメントによる便宜を受けており、当社が発行した債務及び保証債務に基づき関連当事者に信用補完手数料を支払っている。当年度において、関連当事者より請求された信用補完手数料は、13,431,000ユーロ（2018年度：9,898,000ユーロ）であった。

10 管理費

管理費	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
人件費	(1,241)	(1,336)
弁護士報酬	(721)	(953)
関連当事者費用	(678)	(919)
コミットメント枠	(615)	(667)
独立監査人に対する監査報酬	(219)	(238)
その他の保証サービス	(160)	(82)
通信費	(169)	(197)
事務所賃借料	(109)	(110)
格付年間手数料	(87)	(128)
税務顧問報酬	(21)	(13)
その他の管理費	(591)	(677)
有形固定資産の減価償却費	-	(1)
無形資産の償却費	-	(1)
合計	(4,611)	(5,322)

当社の当年度における平均従業員数は出向社員 2 名及び現地採用社員 8 名の計10名（2018年度：出向社員 2 名及び現地採用社員 8 名の計10名）であった。

人件費は以下の費用から成り、出向社員の人件費を含む。

その他の保証サービスの内容は、ユーロ・ミディアム・ターム・ノートの発行に関連したコンフォートレターに対してプライスウォーターハウスクーパース、EY及びデロイトに支払われた報酬である。また、その他の保証サービスには、コンフォートレター及び添付文書の翻訳に際して提供された翻訳サービスに対してPwCあらた有限責任監査法人（日本）に支払われた報酬も含まれている。

人件費	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
給与及び賞与（発生基準による）	(1,121)	(1,210)
社会保障費	(74)	(78)
年金保険料（発生基準による確定年金制度）	(46)	(48)
合計	(1,241)	(1,336)

給与及び賞与（発生基準による）は、主要な経営陣に対する報酬を含んでいる。以下の表は、当社の取締役に対する全ての支払い及び給付から成る。

主要な経営陣に対する報酬	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
短期役員報酬	(271)	(265)
合計	(271)	(265)

11 金融商品に係る純利益 / (損失)

純利益 / (損失)は、以下のカテゴリーの金融商品に係る為替レートの変動と金利変動の両方から生じている。

金融商品に係る純利益 / (損失)	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
為替レートの変動から生じる利益 / (損失)		
金融商品	(548,838)	363,635
償却原価で測定する負債性金融商品	(249,582)	99,561
償却原価で測定する金融負債	798,152	(463,099)
	(268)	97
金利の変動から生じる利益 / (損失)		
金融商品に係る公正価値利益 / (損失)	(25,441)	39,122
合計	(25,709)	39,219

当社は様々な通貨で第三者に債務を発行し、関連当事者に貸付を行っており、その後この調達及び貸付を米ドル、英ポンド、日本円及びユーロの4種類の資金ポートフォリオのいずれか1つになるようにスワップしている。

為替レートの変動が金融商品の市場価値に与える影響は、デリバティブの対象となる金融資産及び負債に係る同額で逆方向への為替差損益によって相殺される。為替レートの変動から生じる利益及び損失の純額は、英ポンド、米ドル及び他の通貨に対する当社の正味為替エクスポージャーから発生するものである。

当社は、デリバティブを公正価値で測定し、一方、その他の金融資産及び金融負債を償却原価で測定している。当社はヘッジ会計を適用していないため、金利の変動が金融商品の市場価値に与える影響がデリバティブの対象となる金融資産及び負債に係る逆方向への変動によって相殺されず、包括利益計算書の不安定要因となる。

金融商品に係る損益は、2018年3月に終了した事業年度の25,709,000ユーロの損失から、2019年3月に終了した事業年度の39,219,000ユーロの利益へと改善しており、これは()資金調達通貨(豪ドル、ニュージーランド・ドル、米ドル)の金利の下落がヘッジ対象の運用通貨(ユーロ、英ポンド)の下落を上回ったこと、及び()当期に満期を迎えたデリバティブの過年度の損失を戻入れたことによるものであった。

12 独立監査人に係る費用

管理費には、法定監査に関して当社の独立監査人であるEYに支払われた以下の報酬が含まれている。

独立監査人に係る費用	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
監査（法定） - EY	(145)	(130)
監査 - その他の保証サービス - EY	(74)	(107)
	(219)	(238)

13 税金

税金	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
当年度		
当期利益（損失）に係る税金	(4,557)	(6,656)
前期税金調整額	548	909
	(4,009)	(5,747)
繰延税金		
一時差異の発生 / 解消	6,361	(9,707)
合計	2,352	(15,454)

当社の税引前損益に係る税金と、当社の損益に適用される加重平均法定税率を用いて算出された金額との差異は、以下のとおりである。

税金費用の調整	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
税引前損益	(11,815)	52,388
当期加重平均税率	24.93%	24.93%
適用される加重平均税率で算出された税額	2,945	(13,060)
繰延税金残高に係る税率の変更	19	(27)
取戻不能源泉税	(1,170)	(3,322)
課税対象費用	(1)	(1)
非課税所得	11	47
前期税金調整額	548	909
合計	2,352	(15,454)

オランダにおける現行の税率は、2019年（暦年）において25%（2018年：25%）である。

14 関係会社に対する貸付金

当社はトヨタ自動車の他の子会社に対して、固定金利と変動金利の両方で貸付を行っている。固定金利による貸付（期間が6ヶ月超のもの）は全て、当社のリスク管理方針に基づき、3ヶ月の変動金利にスワップされる。

関連当事者に対して貸付を行う際の通貨は取引相手の需要に応じて決定され、4種類の主要な資金ポートフォリオ（米ドル、英ポンド、日本円及びユーロ）のいずれか1つから直接貸付けられるか、対応する通貨スワップを用いて適切な貸付通貨にスワップされる。

IFRS第9号に基づき、当社は金融資産についての減損モデルを開発した。このモデルは、2018年4月1日付で適用される予想信用損失モデルである。予想信用損失は、全ての貸付資産残高（流動及び非流動）に対して算出される。算出された合計額は、貸付資産残高（流動）から控除される。

	(監査済) 2018年度 (千ユーロ)	調整後 2018年度 (千ユーロ)	(監査済) 2019年度 (千ユーロ)
関係会社に対する貸付金（流動）			
流動資産			
関係会社に対する貸付金	3,750,637	3,750,637	4,559,203
予想信用損失	-	(717)	(1,010)
関係会社に対する貸付金（流動）	3,750,637	3,749,920	4,558,193

	(監査済) 2018年度 (千ユーロ)	調整後 2018年度 (千ユーロ)	(監査済) 2019年度 (千ユーロ)
関係会社に対する貸付金			
関係会社に対する貸付金（流動）	3,750,637	3,749,920	4,558,193
関係会社に対する貸付金（非流動）	4,990,433	4,990,433	6,855,066
合計	8,741,070	8,740,353	11,413,259

	(千ユーロ)
予想信用損失の変動	
2018年4月1日現在	(717)
引当金の追加繰入額	(293)
2019年3月31日現在	(1,010)

IFRS第9号に従って、金融資産のポートフォリオ全体が、関係会社の信用力及び支払実績を考慮してステージ1に分類されている。さらに、当年度におけるECLの変動は全て、貸付残高の増加に伴い更新されたECL計算に基づく引当金の追加計上による。

当年度及び前年度のいずれにおいても、期日が超過した関連当事者に対する貸付金はなく、また関連当事者に対する貸付金に係る実際の減損もなかった。条件を変更しなければ期日超過又は減損となっていたような貸付金もなかった。

グループ会社貸付金は固定金利の場合も変動金利の場合もある。2019年3月31日現在のグループ会社貸付金の金利は、貸付金の通貨によって異なり、年率(0.295)%から9.36%の範囲であった。

当年度又は前年度において、いずれの金融資産クラスに関しても、算出された予想信用損失以外に、その他の減損損失引当金又は減損損失は計上されていない。

15 持分投資 - 関係会社

当社はタイに本社を置くトヨタ リーシング タイランド株式会社（以下「TLT」という。）の発行済株式資本の0.047%（2018年度：0.047%）を所有している。TLTは株式51.4百万株（1株当たり額面価額1,000タイ・パーツ）を発行している。登録株式資本51,400,000,000タイ・パーツのうち、15,100,000,000タイ・パーツが全額払込済である。1997年度におけるこの投資の当初取得原価は750,000ユーロであった。

経営陣は、TLTの資産と負債の割引キャッシュ・フロー・モデルを参照し、2019年3月31日現在の市場金利及び実効為替レートを適用することにより、TLTに対する投資の公正価値を評価している。決算日現在におけるTLT株式に対する投資は、公正価値で測定される。TLTの価値の評価は、第三者の市場データが使用されるものの、流動資産から得られる予想キャッシュ・フローを見積る際の経営陣の行う判断に左右される。TLTに対する投資は、注記33.1に記載の通り、レベル3の投資に分類されている。

TLTに対する投資	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
期首残高	1,115	1,119
公正価値調整	4	104
合計	1,119	1,223

16 デリバティブ金融商品

デリバティブ金融商品は損益を通じて公正価値で計上する金融商品に分類される。以下の表は、デリバティブ契約の公正価値を示している。追加の開示事項はリスク管理に関する会計方針に記載されている。

デリバティブ金融商品 流動資産	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
金利スワップ	129	988
通貨スワップ	53,420	245,519
先渡為替予約	4,212	4,211
流動資産合計	57,761	250,718
デリバティブ金融商品 非流動資産		
金利スワップ	1,755	17,634
通貨スワップ	146,480	132,915
非流動資産合計	148,235	150,549
デリバティブ金融商品 資産合計	205,996	401,267

デリバティブ金融商品
流動負債

金利スワップ

通貨スワップ

先渡為替予約

流動負債合計

2018年度
(千ユーロ)2019年度
(千ユーロ)

1,691

1,829

89,177

44,806

395

934

91,263

47,569

デリバティブ金融商品
非流動負債

金利スワップ

通貨スワップ

非流動負債合計

デリバティブ金融商品
負債合計

3,437

20,936

253,640

74,553

257,077

95,489

348,340

143,058

デリバティブ資産及び負債は損益計算書を通じて公正価値で認識される。

IFRS第9号「金融商品：認識及び測定」に準拠し、当社は組込デリバティブに関して全ての契約を見直したが、組込デリバティブはないことが判明した。デリバティブ資産及び負債は、損益計算書を通じて公正価値で認識される。大部分のデリバティブ契約には担保契約が付随している。そのため、信用評価調整は重要でないと考えられており、デリバティブ資産及び負債の公正価値の算定において考慮されていない。

17 有形固定資産

有形固定資産

取得原価

取得原価 - 2017/2018年4月1日現在

取得

処分

合計

減価償却費

減価償却累計額 - 2017/2018年4月1日現在

当年度における減価償却費

処分

合計

期首及び期末現在の調整額

期首現在の正味帳簿価額 - 2017/2018年4月1日現在

期末現在の正味帳簿価額 - 2018/2019年3月31日現在

2018年度
コンピュータ・ハード
ウェア及び事務機器
(千ユーロ)2019年度
コンピュータ・ハード
ウェア及び事務機器
(千ユーロ)

82

82

13

-

-

82

95

82

82

1

-

-

82

83

-

-

-

12

18 無形資産

無形資産	2018年度 コンピュータ・ ソフトウェア (千ユーロ)	2019年度 コンピュータ・ ソフトウェア (千ユーロ)
取得原価		
取得原価 - 2017/2018年 4 月 1 日現在	9	9
取得	-	17
合計	9	26
償却費		
償却累計額 - 2017/2018年 4 月 1 日現在	9	9
当年度における償却費		1
処分	-	-
合計	9	10
期首及び期末現在の調整額		
期首現在の正味帳簿価額 - 2017/2018年 4 月 1 日現在	-	-
期末現在の正味帳簿価額 - 2018/2019年 3 月31日現在	-	16

19 繰延税金

繰延税金は、現行の税率25.0%を用いて、資産負債法に基づき、一時差異について全額計上されている。税率は暦年に適用される。

予想信用損失の計算は、注記14に記載のとおり、繰延税金資産の2018年 3 月31日及び2019年 3 月31日現在の残高に対して、現行の税率25%で逆方向の影響を及ぼした。

繰延税金勘定の変動は以下のとおりである。

	(監査済)	調整後	(監査済)
繰延税金	2018年度 (千ユーロ)	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
繰延税金 - 2017/2018年 4 月 1 日現在	(4,711)	(4,711)	1,829
予想信用損失調整による影響 注記28		179	73
損益を通じて公正価値で測定する資産及び負債	6,361	6,361	(9,782)
合計	1,650	1,829	(7,880)

課税所得（税務上の欠損金）及びその他の一時差異に係る繰延税金資産（負債）は、当該資産（負債）が実際に発生する可能性があるため、全額認識されている。

20 その他の債権

その他の債権		2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
賃借不動産に係る保証金		36	36
前払賃借料		32	33
差入担保保証金		237,000	47,100
未収利息(差入現金担保)		9	66
その他の債権		-	39
関連当事者に対する債権	注記30	1,787	2,293
非関連当事者に対する債権		32	64
金融保証債権	注記24	7,431	8,612
合計		246,327	58,243

差入担保保証金は、デリバティブ契約に関して、差入担保としてデリバティブの取引相手に現金を差し入れたものである。これら差入担保保証金の公正価値は帳簿価額に近似している。

21 当期税金

当期税金は現行の税率に基づき計上される。税率は暦年に適用されるため、会計年度の利益は、実効税率算出のために、2暦年の間で日割計算により比例配分される。オランダの現行の税率は、2019年(暦年)において25.0%(2018年:25.0%)である。2019年3月31日現在の法人税に係る税金負債は、584,000ユーロ(2018年度:1,209,000ユーロ)である。見積に基づき、税金は、利益を稼得した事業年度中に支払われる。最終的な課税額と当初の見積額の差異がある場合、税金の過払い又は不足により当期税金資産又は負債が生じることになる。

22 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
現金及び銀行残高	4,568	5,812
流動性目的の預金	122,066	236,451
当座借越	(1)	(3)
合計	126,633	242,260

2019年3月31日現在、現金及び現金同等物に関する制限はない。

23 借入金

借入金

	2018年度		2019年度	
	流動 (千ユーロ)	非流動 (千ユーロ)	流動 (千ユーロ)	非流動 (千ユーロ)
コマーシャル・ペーパー	2,453,947	-	2,424,878	-
ミディアム・ターム・ノート	1,181,566	3,754,165	2,738,821	4,590,020
銀行借入金	200,935	1,166,297	405,639	1,336,657
合計	3,836,448	4,920,462	5,569,338	5,926,677

通貨別借入金

	2018年度		2019年度	
	流動 (千ユーロ)	非流動 (千ユーロ)	流動 (千ユーロ)	非流動 (千ユーロ)
英ポンド	1,601,670	404,753	1,451,577	110,352
米ドル	1,499,026	2,345,706	2,931,756	1,914,182
豪ドル	102,795	1,188,538	495,681	987,855
ニュージーランド・ドル	236,744	375,699	226,835	194,183
ユーロ	396,157	301,550	463,205	1,986,510
その他	56	304,216	284	733,595
合計	3,836,448	4,920,462	5,569,338	5,926,677

トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ)

	2017年4月1日から 2018年3月31日の期間 (千ユーロ)	2018年4月1日から 2019年3月31日の期間 (千ユーロ)
借入金		
コマーシャル・ペーパー		
期首残高	1,504,171	2,453,947
未払利息	612	2,818
発行	22,450,829	30,430,393
償還	(21,457,527)	(30,524,261)
償却	833	273
為替再換算	(44,971)	61,708
合計	2,453,947	2,424,878
ミディアム・ターム・ノート		
期首残高	4,112,853	4,935,731
未払利息	(7,016)	7,088
発行	2,612,695	3,321,575
償還	(1,467,358)	(1,191,597)
償却	13,669	10,307
為替再換算	(329,112)	245,738
合計	4,935,731	7,328,841
関係会社借入金		
期首残高	382,597	0
未払利息	(510)	-
発行	-	-
償還	(380,581)	-
為替再換算	(1,506)	-
合計	0	0
銀行借入金		
期首残高	1,211,120	1,367,232
未払利息	658	1,116
発行	553,099	466,903
償還	(207,348)	(214,390)
償却	413	702
為替再換算	(190,710)	120,733
合計	1,367,232	1,742,296

当社の主要な借入金は、短期コマーシャル・ペーパー・プログラム、ミディアム・ターム・ノート・プログラム及び長期銀行借入金からのものである。コマーシャル・ペーパーは、通常、割引価格で発行され、額面価格で償還される短期負債性金融商品である。当社は満期が1日から364日のコマーシャル・ペーパーを発行することができる。銀行借入金に係る金利は固定金利又は変動金利（該当する3ヶ月LIBORにスプレッドを加味した金利に基づいている）である。2019年3月31日現在の銀行借入金に係る金利は、年率0.08%から3.4257%の範囲であった。2019年3月31日現在、5,569,338,000ユーロ（2018年度：3,836,448,000ユーロ）の流動借入金と5,926,677,000ユーロ（2018年度：4,920,462,000ユーロ）の非流動借入金があった。

24 金融保証債務

保証の現在の価値は8,612,000ユーロ（2018年度：7,431,000ユーロ）であり、これらは関連する他のグループ会社の発行する債務の保証にのみ関連している（注記2を参照のこと）。

合計保証額のうち、712,000ユーロは1年以内に満期が到来する債券に関連しており、7,900,000ユーロは1年超で満期が到来する債券に関連している。

25 その他の負債及び未払費用

その他の負債及び未払費用	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
受入担保保証金	56,600	268,700
担保保証金に係る未払利息	44	1
関連当事者に対する債務	注記30	5,525
未払管理費	590	805
その他の未払税金	139	183
その他の負債	1	-
合計	62,899	277,624

受入担保保証金は、デリバティブ契約に基づき、受入担保としてデリバティブの取引相手から現金を受け入れたものである。

26 資本管理

当社の資本管理の内部目的は以下のとおりである。

- ・株主に利益を、その他の利害関係者に便益を提供し続けられるよう、継続企業としての当社の能力を保護する。
- ・リスク水準に見合った製品とサービスの価格設定により、当社の主要株主であるトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社に対して十分な利益を提供する。

2019年度において、当社の資本管理計画は2018年度と同様、利益計上を目的として運営し、利益留保を増加させることであった。

当年度において、当社は適切な自己資本を維持することにより、内部の資本に係る要件を遵守していた。

27 資本金

資本金	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
授権株式		
1株当たり454ユーロの普通株式10,000株(2018年度:10,000株)	4,540	4,540
発行済全額払込済株式		
1株当たり454ユーロの普通株式2,000株(2018年度:2,000株)	908	908

当社の資本金の100%はトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社が所有している(注記1を参照のこと)。

利益処分

2018年7月24日にアムステルダムで開催された年次株主総会における決定に従って、2018年度の損失が剰余金から減額された。

取締役会は、前年2019年度の当期利益を剰余金に加算することを提案した。

28 利益剰余金

予想信用損失の計算及び繰延税金資産への影響は、利益剰余金に以下の影響を及ぼしている。

	(監査済) 2018年3月31日現在 (千ユーロ)	調整後 2018年3月31日現在 (千ユーロ)
利益剰余金		
利益剰余金	144,734	144,734
予想信用損失調整	-	(717)
繰延税金調整	-	179
利益剰余金	144,734	144,196

29 FVOCIで測定する資本性金融商品 - 増減

公正価値評価差額金	(千ユーロ)
2017年4月1日現在	360
増減	
FVOCIで測定する資本性金融商品に係る未実現利益	4
2018年3月31日現在	364
FVOCIで測定する資本性金融商品に係る未実現利益	104
2019年3月31日現在の公正価値評価差額金純額	468

公正価値評価差額金は、持分投資の株主資本を通じた公正価値評価及び公正価値調整に係る関連する繰延税金から発生する。

30 関連当事者取引

親会社及び最終支配会社

当社は日本で設立されたトヨタ ファイナンシャル サービス株式会社（以下「TFS」という。）の100%子会社である。最終の統括会社及び支配会社は、日本で設立されたトヨタ自動車である。

親会社との取引

当年度において、TFSは資本市場における債務の発行及び関連当事者に対する保証に関して当社に信用補完を提供した。手数料として13,431,000ユーロ（2018年度：9,898,000ユーロ）が請求され、期末現在、7,191,000ユーロ（2018年度：5,345,000ユーロ）が未払いであった。当該残高には利息は発生せず、支払期限は30日である。

兄弟会社

当年度において、取引を行ったトヨタ自動車の子会社は以下のとおりである。

トヨタ ファイナンシャル サービス（UK）株式会社、並びにその子会社及び関連会社：

トヨタ ファイナンシャル サービス（UK）株式会社の子会社：

トヨタ ファイナンス フィンランド株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス チェコ有限会社

トヨタ ファイナンシャル サービス スロバキア有限会社

トヨタ ファイナンシャル サービス デンマーク株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス ハンガリー株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス（アイルランド）株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス イタリア株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス (UK) 株式会社の関連会社：

トヨタ ファイナンシャル サービス (サウス アフリカ) 株式会社

トヨタ クレジットバンク有限会社、並びにその支店及び子会社：

トヨタ クレジットバンク有限会社の支店：

トヨタ フランス ファイナンスメント

トヨタ ファイナンシャル サービス ノルウェー

トヨタ ファイナンシャル サービス スウェーデン

トヨタ ファイナンシャル サービス スペイン

トヨタ クレジットバンク有限会社の子会社：

A0 トヨタ バンク

トヨタ リーシング 有限会社

トヨタ バンク ポーランド株式会社

トヨタ リーシング ポーランド有限会社

トヨタ リーシング タイランド株式会社

トヨタ ファイナンシャル サービス コリア株式会社

トヨタ モーター クレジット株式会社

トヨタ キャピタル マレーシア株式会社

兄弟会社との取引

保証

当社は兄弟会社に対する保証手数料として4,231,000ユーロ（2018年度：3,135,000ユーロ）を稼得した。期末現在、保証手数料に関連する未収金は2,293,000ユーロ（2018年度：1,787,000ユーロ）であった。当該残高には利息は発生せず、減損も生じていない。

配当金

当社は注記6に記載されているとおり、トヨタ リーシング タイランド株式会社の未上場株式に対する投資により190,000ユーロ（2018年度：49,000ユーロ）の配当金を受取った。

借入金

当年度における兄弟会社からの当社の借入金の変動は以下のとおりである。2019年3月31日現在、関係会社からの借入金はなかった。借入金の期間及び条件については注記23を参照のこと。

関係会社からの借入金	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
期首残高	382,597	0
当年度における借入金	-	-
当年度に返済した借入金	(380,581)	-
支払利息	1,216	-
利息支払額	(1,726)	-
関係会社からの借入金の為替再換算	(1,506)	-
合計	0	0

貸付金

当年度における兄弟会社に対する貸付金及びそれにより発生した収益及び費用の要約は、以下のとおりである。

関係会社に対する貸付金	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
期首残高	7,317,966	8,741,070
当年度における貸付金	7,907,769	12,658,792
返済受領額	(6,448,963)	(10,126,457)
受取利息	78,665	122,089
利息受取額	(76,390)	(113,373)
支払利息	(1,221)	(1,289)
利息支払額	1,131	1,359
関係会社に対する貸付金の為替再換算	(37,887)	132,077
合計	8,741,070	11,414,268

算出された予想信用損失以外に、期末残高に対して認識された減損はなかった（注記14を参照のこと）。関係会社との取引は、独立当事者間取引と同様の条件で実施される。

取締役

当年度において、取締役会の変更はなかった。

取締役、経営陣及び従業員との取引

当年度においては、取締役、経営陣又は従業員との取引は報酬以外にはなかった。

その他の負債に含まれている関連当事者に対する債務の要約

その他の負債に含まれている関連当事者に対する債務の要約	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
親会社に対する未払信用補完手数料	5,345	7,191
関係会社に対する未払事業サービス手数料及び管理業務手数料	180	744
合計	5,525	7,935

保証手数料及び関連当事者に対する債権の要約

保証手数料及び関連当事者に対する債権の要約	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
保証に関する関連当事者に対する債権	1,787	2,293
合計	1,787	2,293

関連当事者に対する債権に減損は生じていない。

31 偶発債務

当社はトヨタ自動車の他の子会社の債権者に対して保証を行っている。当社は、発行債務の保証に関して、トヨタ自動車の子会社から保証手数料を受取っている。

2019年3月31日に終了した事業年度における各社の純資産と収益性の見直しにより、当社の引当金の必要性に関する評価が行われた。各債務者の財務書類は、借入金を返済するのに十分な資産があることを示している。

当年度及び過年度において、偶発債務に対する引当金は必要ではなかった。

以下は、トヨタ自動車の他の子会社により発行された債務に関する当社の保証をユーロに換算したものである。

3月31日現在の偶発債務 保証された債務の通貨	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
マレーシア・リンギット	24,156	21,807
ロシア・ルーブル	70,951	108,566
南アフリカ・ランド	424,115	403,112
タイ・バーツ	1,670,907	2,235,698
合計	2,190,129	2,769,183

当社の保証は性質上、債権者に対する無条件保証である。債務者が何らかの理由で支払期限を迎えた債務に関する支払いができなくなった場合、当社は債務者に代わり、当該債務の返済を求められる可能性がある。保証は、コマーシャル・ペーパー及びミディアム・ターム・ノートに対して行われる。

32 金融リスク管理

32.1 金融リスクの要因

当社の主な業務は、トヨタ ファイナンシャル サービス株式会社（親会社）の他の子会社に対して資金を貸付け、また、トヨタ自動車の他のグループ会社の第三者に対する債務の保証を行うことである。

当社の役割はトヨタの関係会社のために資金を調達することであり、これにより、信用リスク、流動性リスク、金利リスク及び為替リスクといった様々な金融リスクにさらされている。当社は、金利リスク及び為替リスクを管理するために、外貨建の資産と負債をマッチさせたり、金利スワップ、通貨スワップ及び為替予約などの金融商品を利用したりすることにより、これらのリスクによる当社の財務成績に対するマイナスの影響を限定することを目指すリスク管理プログラムを整備している。

市場リスク管理を目的とするデリバティブ契約の市場価値から生じる信用リスクを軽減するために、取引相手と担保を交換する契約が締結されている。取締役会は、適切な措置をとるために金融リスクを迅速に特定できるよう、リスク管理方針を利用しており、また、定期的な事業報告を受けている。当社は為替リスク、金利リスク及び信用リスクの管理、並びにこれらのリスクを管理するための金融商品の利用についての指針を規定した、文書化された方針及び手続を利用している。

32.2 為替リスク

当社はトヨタのグループ会社と、ユーロ、その他のヨーロッパ諸国の通貨、南アフリカ・ランド、タイ・バーツ、英ポンド及び米ドル建の取引を行っている。当社は発行債務に対する投資家の需要に応じるため、各種通貨での借入を積極的に行っている。当社は特定通貨建のポートフォリオにおいて資産と負債をマッチさせるために、通貨スワップ及び先渡為替予約を利用している。当社が為替リスクにさらされているネット・エクスポージャーは、主に英ポンド及び米ドルに関するものである。

当社は、各通貨の正味買建又は売建ポジションを経営陣が許容可能と考える水準に確実に収めるために、金融資産と金融負債の持ち高を当社の4種類の通貨建の資金ポートフォリオそれぞれにおいて確実にマッチさせることにより、為替リスクに対するエクスポージャーを管理している。決算日現在のネット・エクスポージャーの残額は以下のとおりであった。

為替リスクに対するネット・エクスポージャー	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
英ポンド	1,355	5,697
米ドル	(324)	(2,463)
タイ・バーツ	1,338	1,868
その他	460	442
合計	2,829	5,544

上記のエクスポージャーは、将来の外貨建キャッシュ・フローを決算日現在の市場金利で割引いた現在価値を表している。このエクスポージャーは、当社が関連当事者への融資提供に使用する3つの主要な外貨建貸付ポートフォリオに対する持分純投資から生じる。

以下の感応度分析は、決算日現在においてユーロの価値が全ての他の通貨に対して5%増減した場合、損益と評価差額金への直接認識の両方を通じて株主資本に与える影響を示している。

2018年度			
	損益の感応度 利益 / (損失) (千ユーロ)	資本の感応度 利益 / (損失) (千ユーロ)	合計 利益 / (損失) (千ユーロ)
5%のユーロ高	(106)	(18)	(124)
5%のユーロ安	106	18	124

2019年度			
	損益の感応度 利益 / (損失) (千ユーロ)	資本の感応度 利益 / (損失) (千ユーロ)	合計 利益 / (損失) (千ユーロ)
5%のユーロ高	(208)	(23)	(231)
5%のユーロ安	208	23	231

32.3 金利リスク

当社は利付資産と利付負債の両方を有している。当社は、資産及び負債を変動金利で維持することを方針としている。当社は、会社間貸付金を含めた金融資産について、スワップを利用することでリスク管理を行っている。また、資金調達に関しては債券発行市場における柔軟性を維持するためにスワップを利用している。金利スワップは半年ごと又は四半期ごとに決済され、元本に係る合意された固定金利と変動金利との差額の支払い又は受取りが行われる。

当社の関連当事者に対する貸付業務に関する金利リスクは、固定金利での調達資金を通常3ヶ月ごとに更改される変動金利に確実にスワップすることにより管理されている。当社の借入業務に関する金利リスクは、固定金利での借入金を通常3ヶ月ごとに更改される変動金利に確実にスワップすることにより管理されている。このため、現行の市場金利が収益に重要な影響を及ぼすことはないと思われている。

この金利に対する特性は、3ヶ月ごとに再設定される変動金利が付されている、又はそれより長い期間の固定金利が3ヶ月の変動金利にスワップされる当社のグループ間貸付資産の金利とおおむね一致する。

当社の金利リスクのエクスポージャーは、以下の金融契約により発生している。

2018年3月31日現在の金利リスクの エクスポージャー	固定金利 (千ユーロ)	変動金利 (千ユーロ)	無利子 (千ユーロ)	合計 (千ユーロ)
非流動資産				
関係会社に対する貸付金	2,652,314	2,338,119		4,990,433
持分投資 - 関係会社	-	-	1,119	1,119
流動資産				
関係会社に対する貸付金	1,520,220	2,230,417	-	3,750,637
関連会社に対する債権	-	-	1,787	1,787
その他の債権 - 金融商品のみ	-	237,000	109	237,109
現金及び現金同等物	-	126,634	-	126,634
流動負債				
CP	-	(2,453,947)	-	(2,453,947)
EMTN	(365,560)	(816,006)	-	(1,181,566)
銀行借入金	(56)	(200,879)	-	(200,935)
関係会社からの借入金	-	-	-	-
関連会社に対する債務	-	-	(5,525)	(5,525)
その他の負債及び未払費用 - 金融商品のみ	-	(56,644)	(730)	(57,374)
当座借越	-	(1)	-	(1)
非流動負債				
EMTN	(2,470,418)	(1,283,747)	-	(3,754,165)
銀行借入金	(304,216)	(862,081)	-	(1,166,297)
デリバティブ考慮前のポジション(a)	1,032,284	(741,135)	(3,240)	287,909
デリバティブの想定元本(b)	(971,716)	829,448	(76)	(142,344)
純有利子資産 / (負債) のポジション(a)+(b)	60,568	88,313	(3,316)	145,565

2019年3月31日現在の金利リスクの
エクスポージャー

	固定金利 (千ユーロ)	変動金利 (千ユーロ)	無利子 (千ユーロ)	合計 (千ユーロ)
非流動資産				
関係会社に対する貸付金	3,512,280	3,342,786	-	6,855,066
持分投資 - 関係会社	-	-	1,223	1,223
流動資産				
関係会社に対する貸付金	1,540,114	3,019,089	-	4,559,203
関連会社に対する債権	-	-	2,293	2,293
その他の債権 - 金融商品のみ	-	47,139	199	47,338
現金及び現金同等物	-	242,263	-	242,263
流動負債				
CP	-	(2,424,878)	-	(2,424,878)
EMTN	(1,113,098)	(1,625,723)	-	(2,738,821)
銀行借入金	(75)	(405,564)	-	(405,639)
関連会社に対する債務	-	-	(7,935)	(7,935)
その他の負債及び未払費用 - 金融商品のみ	-	(268,701)	(989)	(269,690)
当座借越	-	(3)	-	(3)
非流動負債				
EMTN	(3,823,732)	(766,288)	-	(4,590,020)
銀行借入金	(792,836)	(543,821)	-	(1,336,657)
デリバティブ考慮前のポジション(a)	(677,347)	616,299	(5,208)	(66,255)
デリバティブの想定元本(b)	654,927	(396,701)	(17)	258,209
純有利子資産 / (負債) のポジション(a)+(b)	(22,420)	219,598	(5,224)	191,954

当初の満期が6ヶ月未満の短期借入金は借換えに係る定期的な金利変動にさらされており、そのためこの種の短期資金は上記の表において変動金利の借入金に分類されている。

32.4 信用リスク

投資、預金、デリバティブ金融商品の取引相手は、投資適格な格付を有する金融機関に制限されており、5年超のエクスポージャーの場合にはさらに上位の格付でなければならない。個々の取引相手に対するエクスポージャーの金額にも制限があり、毎年再評価される。

当社は様々な地域で、貸し手として、またトヨタ自動車の事業会社による第三者に対する債務の保証会社として、その業務から生じる信用リスクにさらされている。信用リスクに対する当社の主要なエクスポージャーは、当社が貸付を行っている、又は第三者に対する債務を保証している関係会社による債務不履行であるが、このリスクは親会社及び最終の親会社とのクレジット・サポート・アグリーメントによって軽減されている。当該契約により、親会社及び最終の親会社は債務及び保証の保有者に対し、当社の株主資本を一定水準に維持することを約束している。ムーディーズによる2019年3月31日現在の親会社の信用格付はAa3である。

さらに、当社の貸付及び保証業務はトヨタ・グループに属する重要な事業会社に対するものであるため、当社の取引の存続可能性は最終的にはトヨタ自動車のグループ全体の取引実績に左右される。貸付は非劣後基準で行われるが、借り手が規制上の資金調達要件を満たすようにするために劣後で行われる場合もある。

金利リスク及び通貨リスクの管理のみを目的として当社が締結したデリバティブは、上述の信用格付を持つ、一般に認められている金融機関とのみ取引される。デリバティブ負債の公正価値の変動に、信用リスクとの重要な関連性はない。

当社の現金及び現金同等物は、トヨタ ファイナンシャル サービス株式会社が承認した一覧表から選択された銀行において、特定の制限の下に保有されている。

金融商品による信用リスクに対するエクスポージャーの最大額は、決算日現在、以下のとおりである。

信用リスク	2018年度 (千ユーロ)	2019年度 (千ユーロ)
流動資産		
関係会社に対する貸付金	3,750,637	4,559,203
その他の債権 - 差入担保保証金及び関連当事者に対する債権	238,896	49,631
デリバティブ金融商品	57,761	250,718
現金及び現金同等物	126,634	242,263
非流動資産		
関係会社に対する貸付金	4,990,433	6,855,066
デリバティブ金融商品	148,235	150,549
偶発債務		
関連当事者債務の保証	2,190,129	2,769,183

上記のデリバティブ金融商品の価値から生じる信用リスクを軽減するために、現金担保を交換する契約が取引相手と締結されている。2019年3月31日現在、注記25「その他の負債及び未払費用」に「受入担保保証金」として表示されている受入現金担保の価値は、268,700,000ユーロ（2018年度：56,600,000ユーロ）であった。

偶発債務に関する詳細は注記31に記載されている。

決算日現在において、単独の取引相手に対するデリバティブ資産による単独エクスポージャーの最大額は64,500,000ユーロ（2018年度：26,301,000ユーロ）であり、上位3社の取引相手については141,100,000ユーロ（2018年度：46,228,000ユーロ）である。これらの取引相手のエクスポージャーは担保により保全されている。

32.5 流動性リスク

流動性リスクとは、当社が金融負債に関連する支払義務を期日通りに履行できないリスクである。

当社は、短期及び中期の資金調達需要を他の関係会社からの情報を織り込んで定期的に予測しており、また、予測不能な現金需要に対応できる適切な水準の流動資金を確保している。

当社は業務に利用可能な十分な資金を確保するために設けられた長期コミットメント枠及び流動性の高い投資と共に、満期が長期及び短期の債務を意図的に組み合わせ保有している。当社は、流動性リスクを軽減するため、商業銀行シンジケート団との間にコミットメント信用枠を維持している。また、当社は、クレジット・サポート・アグリーメント及びサプリメンタル・クレジット・サポート・アグリーメントを親会社と締結しており、これにより十分な資金が利用可能となるため、当社は資本市場での借入から生じる債務及び保証債務をそれぞれ履行することができる。

クレジット・サポート・アグリーメント及びサプリメンタル・クレジット・サポート・アグリーメントでは、どちらかの当事者が解約する場合には、もう一方の当事者に対する書面による30日間の通知期間が必要であることを定めている。関連する全ての証券に係る返済が終了するか、関連する各格付機関が親会社又は当社に対して関連する全ての証券の債券格付が当該解約による影響を受けないことを確認するまでは、解約は実行されない。

以下の表は非デリバティブ金融負債の予定満期に関する詳細を示している。この分析は契約上の（割引前）キャッシュ・フローの債務総額に基づいている。以下の表に含まれている外貨建キャッシュ・フローは、市場レートを用いて換算されている。将来の利息支払額が確定していない場合には、キャッシュ・フローは決算日現在の金利指標に基づいている。

2018年3月31日現在の 債務に関するキャッシュ・フロー	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
銀行借入金	7,935	224,936	1,216,810	-
コマーシャル・ペーパー	1,739,811	714,956	-	-
EMTN	333,296	1,101,876	3,828,449	-
受入担保保証金	56,600	-	-	-
合計	2,137,642	2,041,768	5,045,259	-

2019年3月31日現在の
債務に関するキャッシュ・フロー

	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
銀行借入金	9,542	425,352	1,364,521	-
コマーシャル・ペーパー	1,284,128	1,178,737	-	-
EMTN	748,711	2,084,405	4,750,272	-
受入担保保証金	268,700	-	-	-
合計	2,311,081	3,688,494	6,114,793	-

以下の表はデリバティブ金融商品の予定満期に関する詳細を示している。この分析は契約上の（割引前）キャッシュ・フロー総額に基づいている。債務又は債権の金額が確定していない場合には、決算日現在の市場指標を参考に算出された金額が開示されている。

2018年3月31日現在の
キャッシュ・フロー純額

	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
決済純額：				
- 金利デリバティブ - 支払 / (受取)	2	2,770	9,176	-
決済総額：				
- 通貨デリバティブ - 受取	(1,208,138)	(1,997,974)	(6,156,124)	-
- 通貨デリバティブ - 支払	1,218,075	1,930,083	6,115,354	-
デリバティブ・キャッシュ・フロー合計	9,939	(65,121)	(31,594)	-
合計	2,147,581	1,976,647	5,013,665	-

2019年3月31日現在の
キャッシュ・フロー純額

	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
決済純額：				
- 金利デリバティブ - 支払 / (受取)	1,883	2,144	1,631	-
決済総額：				
- 通貨デリバティブ - 受取	(1,288,625)	(3,165,847)	(5,442,361)	-
- 通貨デリバティブ - 支払	1,214,585	3,006,685	5,359,213	-
デリバティブ・キャッシュ・フロー合計	(72,157)	(157,018)	(81,517)	-
合計	2,238,924	3,531,476	6,033,276	-

当社は関連当事者に対する貸付枠を有しており、決算日現在で未使用のこれら貸付枠は将来の貸付コミットメントを表している。

決算日現在未使用の貸付枠による潜在的なキャッシュ流出額は、使用の可能性がある最も早い日で以下の表に表示されている。潜在的な将来の関連当事者借入要求によるキャッシュ・フローの影響については、関連当事者が定期的に当社に提示しているキャッシュ・フローの予測を通じて監視している。

2018年3月31日現在の 未使用のコミットメント	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
未使用の貸付コミットメント	3,240,566	-	-	-
合計	3,240,566	-	-	-

2019年3月31日現在の 未使用のコミットメント	3ヶ月以内 (千ユーロ)	4ヶ月以上 12ヶ月以内 (千ユーロ)	1年超 5年以内 (千ユーロ)	5年超 (千ユーロ)
未使用の貸付コミットメント	4,117,883	-	-	-
合計	4,117,883	-	-	-

32.6 価格リスク

当社には株価リスク又は商品価格リスクに対する重要なエクスポージャーはない。

32.7 金融資産と金融負債の相殺

以下の金融商品は法的強制力のあるマスター・ネットティング契約の対象である。

2018年3月31日現在	認識されている 金融資産総額 (千ユーロ)	認識されている 金融負債総額 (千ユーロ)	交換された 担保純額 (千ユーロ)	純資産/ (負債) (千ユーロ)
デリバティブ金融商品 有担保	205,961	(348,340)	180,400	38,021
デリバティブ金融商品 無担保	35	-	-	35
合計	205,996	(348,340)	180,400	38,056

2019年3月31日現在	認識されている 金融資産総額 (千ユーロ)	認識されている 金融負債総額 (千ユーロ)	交換された 担保純額 (千ユーロ)	純資産/ (負債) (千ユーロ)
デリバティブ金融商品 有担保	401,189	(143,058)	(221,600)	36,531
デリバティブ金融商品 無担保	79	-	-	79
合計	401,267	(143,058)	(221,600)	36,610

金融商品は総額ベースで決済されるが、マスター・ネットティング契約の各当事者は、もう一方の当事者のデフォルト時には契約対象となっている全ての金融商品について純額決済を選択することが可能となる。財政状態計算書上の金融商品は全て総額で表示されている。

33 金融商品の公正価値

公正価値は、測定日時点で、市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格又は負債を移転するために支払うであろう価格と定義される。

33.1 財政状態計算書において公正価値で測定する金融資産及び負債

以下の表は、公正価値で計上されている金融商品の評価方法別に分析したものである。それぞれのレベルの定義は以下のとおりである。

レベル1 - 同一の資産及び負債についての活発な市場における相場価格（無調整）。

レベル2 - 当該資産又は負債についての直接的に（すなわち価格そのもの）又は間接的に（すなわち価格から導き出される）観察可能な、レベル1に含まれる相場価格以外のインプット。

レベル3 - 当該資産又は負債についての観察可能な市場データに基づかないインプット（すなわち観察不能なインプット）。

レベル2のトレーディング目的及びヘッジ手段としてのデリバティブ取引は、先渡為替予約及び金利スワップで構成される。これらの先渡為替予約は、活発な市場で取引される先渡為替レートを用いて公正価値で評価される。金利スワップは観察可能なイールド・カーブによるフォワードレートを用いて公正価値で評価される。

経営陣は、各金融商品に関する評価方法のヒエラルキーの理解の正確性を維持しているかについて継続的に評価する予定であり、変更が行われたとみなされる場合には、適用される報告期間の他に、変更日及び状況の変化について開示する。

2018年3月31日現在				
	レベル1 (千ユーロ)	レベル2 (千ユーロ)	レベル3 (千ユーロ)	合計 (千ユーロ)
金融資産				
持分投資 - 関係会社	-	-	1,119	1,119
デリバティブ金融商品	-	205,996	-	205,996
金融負債				
デリバティブ金融商品	-	348,340	-	348,340
2019年3月31日現在				
	レベル1 (千ユーロ)	レベル2 (千ユーロ)	レベル3 (千ユーロ)	合計 (千ユーロ)
金融資産				
持分投資 - 関係会社	-	-	1,223	1,223
デリバティブ金融商品	-	401,267	-	401,267
金融負債				
デリバティブ金融商品	-	143,058	-	143,058

レベル1、レベル2及びレベル3の間の振替はなかった。上記の表で表示されていないその他の金融資産及び負債の全ての帳簿価額は、IFRS第7号において記載されている開示要件に従った公正価値の合理的な近似値である。

33.2 財政状態計算書において公正価値で測定しない金融資産及び負債

以下の表は、財政状態計算書に公正価値で表示されていない金融資産及び負債の帳簿価額と公正価値を比較している。

	2018年3月31日現在 レベル2		2019年3月31日現在 レベル2	
	帳簿価額 (千ユーロ)	公正価値 (千ユーロ)	帳簿価額 (千ユーロ)	公正価値 (千ユーロ)
金融資産				
関連当事者に対する貸付金	8,741,070	8,816,460	11,413,259	11,474,937
未収保証手数料	7,431	7,431	8,612	8,612
金融負債				
銀行借入金	1,367,232	1,389,112	1,742,296	1,761,064
コマーシャル・ペーパー	2,453,947	2,453,947	2,424,878	2,424,975
ユーロ・ミディアム・ターム・ノート	4,935,731	4,951,570	7,328,841	7,395,774
関連当事者に対する保証	7,431	7,431	8,612	8,612

金融資産

関連当事者に対する貸付金の公正価値は、決算日現在の市場金利に基づいた将来の予想金利を反映する見積割引率を用いて、予想将来キャッシュ・フローを割引くことにより算出される。期限前決済、信用損失及び信用スプレッドに関する仮定は定期的に見直されるが、現時点では、このクラスの資産には関係していない。

金融負債

借入金の公正価値は、入手可能な場合には現在の市場価格に基づいている。EMTNの公正価値は、金利イールド・カーブや通貨ごとの適切な割引率などの観察可能なインプット及びキャッシュ・フローの期間を織り込んだ割引キャッシュ・フロー・モデルに基づいている。活発な市場における価格が入手可能でない場合には、固定利付借入金の公正価値は、残存期間が等しい類似の債券又は資産についての現在の金利で割引かれた将来キャッシュ・フローに基づいている。

34 後発事象

2019年6月28日、片山勝伸氏が当社の取締役を退任し、同日に、河合利昌氏が取締役に任命された。それ以外に開示すべき重要な後発事象はない。

取締役会

伊藤 裕康

河合 利昌

(6) その他の情報

剰余金

定款第21条に従って、剰余金の処分は株主総会において決定される。当社の業績が好調な場合、取締役会は中間配当金の支払いを決定することがある。当該配当には株主総会での株主の承認が必要となる。

独立監査人の監査報告書

添付のとおり独立監査人の監査報告書を綴じ込んでいる。

[次へ](#)

Statement of comprehensive income for the year ended 31 March 2019

	Note	2019 €'000	2018 €'000
Interest income	5	127,467	80,332
Dividend income	6	190	49
Guarantee fee income	7	4,231	3,135
Revenue	4	131,888	83,516
Interest expenses	8	(99,672)	(55,113)
Fee expenses	9	(13,431)	(9,898)
Cost of funding		(113,103)	(65,011)
Gross profit		18,785	18,505
Administration expenses	10	(5,322)	(4,611)
Net gains / (losses) on financial instruments	11	39,219	(25,709)
Adjustment credit loss on group loans	14	(293)	-
Profit / (loss) before tax		52,389	(11,615)
Taxation	13	(15,454)	2,352
Profit / (loss) for the year		36,935	(9,463)
Other comprehensive income, net of tax:			
Items that will be reclassified subsequently to Profit or Loss			
Net change in fair value of available for sale financial assets		-	4
Items that will not be reclassified subsequently to Profit or Loss			
Net gain on equity instruments designated at fair value through other comprehensive income	29	104	-
Total comprehensive income for the year (loss), net of tax		37,039	(9,459)
Attributable to:			
Equity holder		37,039	(9,459)

The notes on pages 9 to 40 are an integral part of these Financial Statements

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Statement of financial position as at 31 March 2019

	Note	31 March 2019 €'000	31 March 2018 €'000
Assets			
Current assets			
Loans to related companies	14	4,558,193	3,750,637
Other receivables	20	58,243	246,327
Derivative financial instruments	16	250,718	57,781
Cash and cash equivalents	22	242,263	126,634
Total current assets		5,109,417	4,181,359
Non-current assets			
Loans to related companies	14	6,855,066	4,990,433
Derivative financial instruments	16	150,549	148,235
Equity investment – related company	15	1,223	1,119
Property, plant and equipment	17	12	-
Intangible assets	18	16	-
Deferred tax assets	19	-	1,650
Total non-current assets		7,006,866	5,141,437
Liabilities			
Current liabilities			
Borrowings	23	5,569,338	3,836,448
Derivative financial instruments	16	47,569	91,263
Financial guarantee liability	24	8,612	7,431
Current tax liability	21	584	1,209
Other liabilities and accrued expenses	25	277,624	62,899
Bank overdraft	22	3	1
Total current liabilities		5,903,730	3,999,251
Net current liabilities / assets		(794,313)	182,106
Non-current liabilities			
Borrowings	23	5,926,677	4,920,462
Derivative financial instruments	16	95,489	257,077
Deferred tax liabilities	19	7,880	-
Total non-current liabilities		6,030,046	5,177,539
Net assets		182,507	146,006
Shareholder's equity			
Equity attributable to owners of the parent			
Share capital	27	908	908
Retained earnings	28	181,131	144,734
Equity instruments FVOCI	29	468	364
Total shareholder's equity		182,507	146,006

The notes on pages 9 to 40 are an integral part of these Financial Statements

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Statement of changes in equity for the year ended 31 March 2019

	Note	Share Capital €'000	Retained Earnings €'000	Fair Value Reserves €'000	Total €'000
Balance at 31 March 2017		908	154,197	360	155,465
Equity instruments	29	-	-	4	4
Result for the year		-	(9,463)	-	(9,463)
Total comprehensive income for the year		-	(9,463)	4	(9,459)
Balance at 31 March 2018		908	144,734	364	146,006
Expected credit loss adjustment	14	-	(717)	-	(717)
Deferred tax adjustment	19	-	179	-	179
Balance at 1 April 2018		908	144,196	364	145,468
Equity instruments	29	-	-	104	104
Result for the year		-	36,935	-	36,935
Total comprehensive income for the year		-	36,935	104	37,039
Balance at 31 March 2019		908	181,131	468	182,507

The opening balance of total equity has changed compared to the closing balance of prior year due to the impact of IFRS 9. The total impact of the IFRS 9 implementation on total equity is a decrease of € 538,000 (refer note 28).

The notes on pages 9 to 40 are an integral part of these Financial Statements

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Statement of cash flows for the year ended 31 March 2019

	Note	2019 €'000	2018 €'000
Profit / (Loss) for the year		36,935	(9,463)
Adjustments for:			
Depreciation and amortisation	17 / 18	2	-
Dividend income	6	(190)	(49)
Taxation		15,454	(2,352)
Interest income	5	(127,467)	(80,332)
Interest expense	8	99,672	55,113
Fair value unrealised gains and losses		(402,906)	462,700
Unrealised foreign exchange gains and losses		280,016	(526,997)
Increase in loans to related companies	14	(2,531,116)	(1,458,806)
(Increase) / decrease in other current assets		189,558	(141,463)
Increase / (decrease) in other current liabilities		214,768	(309,693)
		(2,225,274)	(2,013,342)
Interest received		118,750	78,057
Interest paid		(75,126)	(41,683)
Tax paid		(6,372)	(2,711)
Cash flow from operating activities		(2,188,022)	(1,979,679)
Purchase of PPE and intangible assets	17 / 18	(30)	-
Dividend received	6	190	49
Cash flow from investing activities		160	49
Proceeds from borrowings	23	34,218,871	25,616,623
Repayment of borrowings	23	(31,930,248)	(23,512,815)
Cash flow from financing activities		2,288,623	2,103,808
Net increase in cash and cash equivalents		100,761	124,178
Cash and cash equivalents at the beginning of the year		126,633	1,872
Exchange losses on cash and cash equivalents		14,866	583
Cash and cash equivalents at the end of the year	22	242,260	126,633

The notes on pages 8 to 40 are an integral part of these Financial Statements

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Notes to the Financial Statements

1. General information

Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V. ('the Company') is a wholly-owned subsidiary of Toyota Financial Services Corporation. The principal activity of the Company is to act as a group finance subsidiary. The Company raises funds by issuing bonds and notes in the international capital markets and from other sources and on-lends to other Toyota companies. The Company also issues guarantees for debt issuance of other Toyota companies.

The Company is incorporated and domiciled in the Netherlands. The address of its registered office is World Trade Center, Tower H, Level 10, Zuidplein 90, 1077 XV, Amsterdam, the Netherlands.

The ultimate management company and controlling party and the largest undertaking into which the Company's results are consolidated is Toyota Motor Corporation, which is incorporated in Japan.

The smallest undertaking into which the Company's results are consolidated is Toyota Financial Services Corporation, which is incorporated in Japan.

The Financial Statements of Toyota Motor Corporation can be obtained from
<http://www.toyota-global.com>.

These Financial Statements have been approved for issue by the Board of Management on 16 July 2019.

2. Summary of significant accounting policies

The principal accounting policies applied in the preparation of these Financial Statements are set out below. These policies have been consistently applied to all the years presented, unless otherwise stated.

The Company has no subsidiary, joint venture or associated company investments and is therefore not required to prepare consolidated financial statements.

Basis of preparation

- The Financial Statements of the Company have been prepared in accordance with International Financial Reporting Standards (IFRS) and interpretations issued by the International Financial Reporting Interpretations Committee (IFRIC) as adopted by the European Union and also in accordance with the statutory provisions of Part 9, Book 2 of the Dutch Civil Code.
- As a result of the accounting policies adopted, the Financial Statements of the Company are also consistent with all IFRS issued by the International Accounting Standards Board (IASB) and interpretations issued by IFRIC.
- The Financial Statements have been prepared under the historical cost convention, except for derivative financial instruments, financial assets and liabilities held for trading or designated as measured at fair value through profit or loss, financial instruments not held in a hold to collect business model, debt instruments that do not meet the solely payments of principal and interest (SPPI) test, all of which are measured at fair value.
- The preparation of financial statements in conformity with IFRS requires the use of certain critical accounting estimates. It also requires management to exercise its judgement in the process of applying the Company's accounting policies. The areas involving a higher degree of judgement or complexity, or areas where assumptions and estimates are significant to the Financial Statements are disclosed in note 3.
- The Company's Financial Statements are presented in Euro, which is the Company's functional and reporting currency. Except as indicated financial information presented has been presented in Euro and rounded to the nearest thousand.

Going concern

There was an excess of current liabilities over current assets at 31 March 2019. Management of liquidity risk is explained in note 32.5 and, having assessed the available liquidity facilities and credit support facilities in place, the directors have a reasonable expectation that the Company has adequate resource to continue to fund its current obligations for the foreseeable future and therefore the Financial Statements have been prepared on a going concern basis.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Changes in accounting policy and disclosures

New and amended standards effective for the financial year starting 1 April 2018

IFRS 9

IFRS 9, *Financial instruments*, addresses the classification, measurement and recognition of financial assets and financial liabilities.

On 24 July 2014, the IASB issued the final version of IFRS 9 incorporating a new expected loss impairment model and introducing amendments to the classification and measurement requirements for financial assets. This version supersedes all previous versions and is mandatorily effective for periods beginning on or after 1 January 2018. As of 1 April 2018 IFRS 9 has become applicable to the Financial Statements of the Company. The Company has undertaken a detailed assessment of the impact on the financial asset classifications and the requirements for financial liabilities. The new hedge accounting rules do not apply as the Company does not apply hedge accounting. The Company has applied IFRS 9 retrospectively, with the initial application date of 1 April 2018 without adjusting the comparative information for the period beginning 1 April 2017. The new impairment model for financial assets is an expected credit loss model and is expected to result in the earlier recognition of credit losses. The impairment model includes a wide range of related party specific financial – and non-financial data as well as forward looking information as economic inputs such as GDP growth, unemployment rates, external trade and automotive market statistics. The impact of IFRS 9 on the Company's Financial Statements is shown on the Statement of changes in equity on page 7, note 14, Loans to related companies, on page 20, and note 19, Deferred tax assets, on page 23, as well as note 28, Retained earnings, on page 27.

IFRS 9 – Solely Payments of Principal and Interest (SPPI)

The classification decision for non-equity financial assets under IFRS 9 is dependent on two key criteria:

- The business model within which the asset is held (the business model test)
- The contractual cash flows of the asset (the SPPI test)

Consequently, determining whether a financial asset meets the SPPI test is necessary in order to determine the appropriate classification category under IFRS 9.

If a non-equity financial asset fails the SPPI test, it must be classified at Fair Value Through Profit or Loss (FVTPL) in its entirety. Unlike IAS 39, it is no longer possible to separate a financial asset into a 'host' contract (often measured at amortised cost) and an 'embedded derivative' component (measured at FVTPL). If a non-equity financial asset passes the SPPI test, then it will either be classified at amortised cost if the 'hold to collect' business model test is met, or at Fair Value Through Other Comprehensive Income (FVOCI) if the 'hold to collect and sell' business model test is met.

The SPPI test

The SPPI test requires that the contractual terms of the financial asset (as a whole) give rise to cash flows that are solely payments of principal and interest on the principal amounts outstanding i.e. cash flows that are consistent with a basic lending arrangement. Unlike the business model test, this assessment must be carried out on an instrument by instrument basis.

Principal is defined as being the fair value of the financial asset at initial recognition. Interest is defined narrowly as being compensation for the time value of money and credit risk although it can also include compensation for other lending risks such as liquidity, administrative costs and a profit margin. Cash flows that provide compensation for other risks such as equity or commodity risk will fail the SPPI test because they are inconsistent with a basic lending arrangement.

Hold to collect

The objective of the 'hold to collect' business model is to hold financial assets to collect their contractual cash flows, rather than with a view to selling the assets to generate cash flows. However, there is no requirement that financial assets are always held until their maturity, and IFRS 9 identifies some sales that are considered consistent with the 'hold to collect' business model irrespective of their frequency and significance. This is in contrast to the held to maturity category under IAS 39 which penalised entities for sales in all but exceptional circumstances (commonly known as 'tainting rules'). Nevertheless, it is expected that sales would be incidental to this business model and consequently an entity will need to assess the nature, frequency and significance of any sales occurring.

Only financial assets that meet the SPPI test and are held in a 'hold to collect' business model can be classified at amortised cost.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

The business model of the Company is a 'hold to collect' business model. The Company has made an assessment of all outstanding loan assets and determined that the SPPI test is met in all cases.

The adoption of IFRS 9 has changed the Company's accounting for loan loss impairments by replacing IAS 39's incurred loss approach with a forward-looking expected credit loss (ECL) approach. IFRS 9 requires the Company to record an allowance for ECLs for all loans and other debt financial assets not held at FVTPL, together with loan commitments and financial guarantee contracts. The allowance is based on the ECLs associated with the probability of default in the next twelve months unless there has been a significant increase in credit risk since origination. If the financial asset meets the definition of purchased or originated credit impaired (POCI), the allowance is based on the change in the ECLs over the life of the asset.

Three stages of impairment

Impairment of loans is recognised – on an individual or collective basis – in three stages under IFRS 9:

Stage 1 – When a loan is originated or purchased, Expected Credit Losses (ECLs) resulting from default events that are possible within the next 12 months are recognised (12-month ECL) and a loss allowance is established. On subsequent reporting dates, 12-month ECL also applies to existing loans with no significant increase in credit risk since their initial recognition. Interest revenue is calculated on the loan's gross carrying amount (that is, without deduction for ECLs).

Stage 2 – If a loan's credit risk has increased significantly since initial recognition and is not considered low, lifetime ECLs are recognised. An indicator for the Company would be a significant change in the expected performance and behaviour of a borrower (e.g., an increase in the expected number or extent of delayed contractual payments). The calculation of interest revenue is the same as for stage 1.

Stage 3 – If the loan's credit risk increases to the point where it is considered credit-impaired, interest revenue is calculated based on the loan's amortised cost (that is, the gross carrying amount less the loss allowance). The Company will apply for the calculation of the interest the effective interest rate to the net amortised cost of the financial asset. Would the financial assets become no longer credit-impaired, the Company will revert to the calculating interest income on a gross basis. Lifetime ECLs are recognized, as in stage 2.

The Company provides loans to a limited number of other Toyota companies.

The impairment model includes a wide range of related party specific financial – and non-financial data as well as forward looking information as economic inputs such as GDP growth, unemployment rates, external trade and automotive market statistics.

The Company has never experienced any event of default or credit loss on its loan assets.
No significant event has occurred since the origination of any of the outstanding loan assets.
All outstanding loan assets are considered to be in stage 1 by the Company.

A stage 2 event, or default, would occur when contractual payments from the borrower are more than 30 days past due.

A stage 3 event would occur when a borrower becomes 90 days past due on its contractual payments.

IFRS 9 – Issued Financial Guarantees**Identifying Financial Guarantee Contracts**

IFRS 9 retains the same financial guarantee definition as IAS 39, i.e. a contract that requires the issuer to make specified payments to reimburse the holder for a loss it incurs because a specified debtor fails to make payments when due in accordance with the terms of a debt instrument.

IFRS 9 retains the same initial recognition requirements as IAS 39 for issued Financial Guarantee Contracts (FGCs) but introduces different subsequent measurement requirements.

Initial Recognition

An issued FGC is a financial liability and is initially recognised at fair value.

The Company issues guarantees to debt holders of other TMC subsidiaries. The Company receives guarantee fees from TMC subsidiaries in respect of the guaranteed debt in issuance. The guarantees are issued under the credit support the Company has with TFSC and for which the Company pays a credit support fee. The initial fair value is the present value of the future cash flows at the point of issuance of the debt being guaranteed.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Subsequent Measurement

Subsequently, the FGC is measured at the 'higher of':

- i. The IFRS 9 Expected Credit Loss (ECL) allowance, and
- ii. The amount initially recognised (i.e. fair value) less any cumulative amount of income / amortisation recognised.

Equity investments

All equity investments in scope of IFRS 9 are measured at fair value in the statement of financial position. The Company recognises fair value changes for its equity investment in other comprehensive income.

The Company does not assess the equity investment for impairment and cannot reclassify in profit and loss gains or losses previously recognised in OCI on disposal of these Instruments – also referred to as 'recycling'.

The Company has no subsidiary, joint venture or associated company investments and therefore no condensed consolidated financial statements are produced.

Derivatives

All derivatives in scope of IFRS 9, including those linked to unquoted equity investments, are measured at fair value. The Company does not apply hedge accounting. Fair value changes are recognised in profit or loss.

Embedded derivatives. An embedded derivative is a component of a hybrid contract that also includes a non-derivative host, with the effect that some of the cash flows of the combined instrument vary in a way similar to a stand-alone derivative.

The Company has reviewed all contracts for embedded derivatives and found there are none.

IFRS 15

IFRS 15, *Revenue from Contracts with Customers*, is effective for annual reporting periods beginning on or after 1 January 2018. IFRS 15 establishes the principles that an entity applies when reporting information about the nature, amount, timing and uncertainty of revenue and cash flows from a contract with a customer. Applying IFRS 15, an entity recognises revenue to depict the transfer of promised goods or services to the customer in an amount that reflects the consideration to which the entity expects to be entitled in exchange for those goods or services. The Company is not providing goods or services within the scope of IFRS 15 and has no revenue from providing goods or services. IFRS 15 has no impact on the Financial Statements of the Company.

Critical accounting estimates and judgements

The notes to the Financial Statements set out areas where significant judgement, complex calculations or assumptions have been used to arrive at the Financial Statements presented. Areas of significant judgement or complexity will include the fair valuation of financial instruments as well as expected credit losses.

New standards, amendments and interpretations issued but not effective for the financial year beginning 1 April 2018 and not early adopted

IFRS 16, *Leases*, specifies how an IFRS reporter will recognise, measure, present and disclose leases. The standard provides a single lessee accounting model, requiring lessees to recognise assets and liabilities for all leases unless the lease term is 12 months or less or the underlying asset has a low value. The Company has made an assessment of its leases and has determined that the amendment will have no material impact on the Financial Statements of the Company.

There are no other IFRSs or IFRIC interpretations that are not yet effective that would be expected to have a material impact on the Company.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Segmental reporting

The single operating segment is reported in a manner consistent with the internal reporting provided to the chief operating decision-maker. The chief operating decision-maker, who is responsible for allocating resources and assessing performance of the operating segments, has been identified as the Board of Management that makes strategic decisions.

Foreign currency

Transactions and balances

The Financial Statements are presented in Euro, which is the Company's functional currency.

Foreign currency transactions are translated into the functional currency using the exchange rates prevailing at the dates of the transactions. Foreign exchange gains and losses resulting from the settlement of such transactions and from the translation at year-end exchange rates of monetary assets and liabilities denominated in foreign currencies are recognised in the income statement, in 'Net gains / (losses) on financial instruments'.

Financial assets

The classification and measurement of financial assets under IFRS 9 is determined by the business model in which the assets are held and whether the contractual cash flows are solely payments of principal and interest (SPPI). Under IFRS 9, financial assets can be measured at amortised cost, fair value through other comprehensive income (FVOCI) or fair value through profit or loss (FVTPL). These categories replace the IAS 39 classifications of loans and receivables, available for sale (AFS), FVTPL, and held-to-maturity.

The classification depends on the purpose for which the financial assets were acquired. Management determines the classification of the investments at initial recognition. Regular-way trades of derivatives contracts are accounted for on a trade date basis, and regular-way trades of all other financial assets are accounted for on a settlement date basis. A financial asset (or, where applicable, a part of a financial asset or part of a group of similar financial assets) is primarily derecognised when the rights to receive cash flows from the assets has expired.

a) Debt instruments at amortised cost

The Company's loans to Toyota group related entities, cash and cash equivalents, and other receivables are classified as debt instruments at amortised cost. Loans to related entities are initially recognised at fair value including any incremental transaction costs. Subsequent recognition is at amortised cost using the effective interest method. Guarantee fees receivable from fellow subsidiaries in respect of debt guaranteed by the Company are included in 'Other receivables' in the Statement of financial position.

b) Financial assets designated at fair value through OCI (equity instruments)

Upon initial recognition, the Company irrevocably classifies its equity investments at FVOCI. Gains and losses on these equity instruments are never recycled to profit. Dividends are recognised in profit or loss as Dividend income. Equity instruments at FVOCI are not subject to an impairment assessment.

c) Financial assets at fair value through profit or loss

Financial assets at fair value through profit or loss include management's derivative portfolio. The Company enters into derivatives to mitigate the risks associated with other underlying financial assets and financial liabilities.

Derivatives are initially recognised at fair value on the date a derivative contract is entered into and are subsequently adjusted at fair value. Transaction costs are expensed in the Statement of comprehensive income. The method of recognising the resulting gain or loss depends on whether the derivative is designated as a hedging instrument, and if so, the nature of the item being hedged. Consequently, all changes in the fair value of any financial instruments, net of accrued interest on derivatives, are recognised immediately in the Statement of comprehensive income, within 'Net gains / (losses) on financial instruments'. Accrued interest on derivatives is recorded in the income statement within 'Interest expense'.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Property, plant and equipment

Items of property, plant and equipment are carried at cost less any accumulated depreciation and any accumulated impairment losses.

Depreciation is charged to profit or loss on a straight-line basis so as to write off the depreciable amount of property, plant and equipment over the estimated useful life of the assets as follows:

- Fixture & Fittings: 5 years
- Furniture: 5 years
- Computer hardware: 5 years

The assets' residual values and useful lives are reviewed, and adjusted if appropriate, at each reporting date.

Gains and losses on disposal of items of property, plant and equipment are determined by comparing proceeds with the carrying amount. These are included in 'Administration expenses' in the Statement of comprehensive income.

Intangible assets

Intangible assets that are acquired by the Company are stated at cost less accumulated amortisation and any accumulated impairment losses.

Amortisation is charged to profit or loss on a straight-line basis over the asset's estimated useful life and is included in 'Administration expenses' in the Statement of comprehensive income.

The estimated useful economic lives are as follows:

- Computer software: 5 years

The assets' values and useful lives are reviewed, and adjusted if appropriate, at each reporting date.

Gains and losses on disposal of items of intangible assets are determined by comparing proceeds with the carrying amount. These are included in 'Administration expenses' in the Statement of comprehensive income.

Impairment of non-financial assets

An impairment loss is the amount by which the carrying amount of an asset exceeds its recoverable amount.

At each reporting date the Company assesses whether there is any indication that an asset may be impaired. If any such indication exists, the recoverable amount of the asset is estimated.

Property, plant, equipment as well as intangible assets are subject to an impairment review if there are events or changes in circumstance which indicate that the carrying amount may not be recoverable.

Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents are defined as cash and deposits which can be realised within three months. These include overnight money market deposits with banks, current account and deposit account balances with banks and short-term investments.

Cash and cash equivalents are measured at amortised cost.

The cash flow statement has been drawn up in accordance with the indirect method, making a distinction between cash flows from operating, investment and financing activities. Cash flows related to interest payments, receipts and tax payments are classified as cash flows from operating activities.

Borrowings

Borrowings are recognised initially at fair value, net of transaction costs incurred and subsequently at amortised cost. Recognition and de-recognition is on a settlement basis.

Depending on the maturity date of the contract the borrowing is classified as current or non-current.

Taxation

The charge for current tax is based on the results for the period as adjusted for items that are not taxable or disallowed. It is calculated using tax rates that have been enacted or substantively enacted by the reporting date.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Deferred income tax is provided in full, using the balance sheet liability method, on temporary differences arising between the tax bases of assets and liabilities and their carrying amounts in the Financial Statements. However, the deferred income tax is not accounted for if it arises from initial recognition of an asset or liability in a transaction other than a business combination that at the time of the transaction affects neither accounting, nor taxable profit or loss.

Deferred income tax is determined using tax rates (and laws) that have been enacted or substantively enacted by the reporting date and are expected to apply when the related deferred income tax asset is realised or the deferred income tax liability is settled.

Deferred income tax assets are recognised to the extent that it is probable that future taxable profit will be available against which the temporary differences can be utilised.

Deferred income tax assets and liabilities are offset when there is a legally enforceable right to offset current tax assets against current tax liabilities and when the deferred income tax assets and liabilities relate to income taxes levied by the same taxation authority on either the same taxable entity or different taxable entities where there is an intention to settle the balances on a net basis.

Guarantees

The Company issues guarantees to debt holders of other TMC subsidiaries. The Company receives guarantee fees from TMC subsidiaries in respect of the guaranteed debt in issuance. The guarantees are issued under the credit support the Company has with TFSC and for which the Company pays a credit support fee. The initial fair value is the present value of the future cash flows at the point of issuance of the guarantee.

Revenue recognition**Interest income**

Interest income is recorded using the effective interest rate (EIR) method for all financial assets measured at amortised cost. The EIR is the rate that discounts estimated future cash receipts through the expected life of the financial asset or liability or, when appropriate, a shorter period, to the gross carrying amount of the financial asset.

The EIR is calculated by taking into account transaction costs and any discount or premium on the acquisition of the financial asset, as well as fees and costs that are an integral part of the EIR. The Company recognises interest income using a rate of return that represents the best estimate of a constant rate of return over the expected life of the loan. Hence, the EIR calculation also takes into account the effect of potentially different interest rates that may be charged at various stages of the financial asset's expected life, and other characteristics of the product life cycle (including prepayments, penalty interest and charges).

If expectations of fixed rate financial assets' or liabilities' cash flows are revised for reasons other than credit risk, then changes to future contractual cash flows are discounted at the original EIR with a consequential adjustment to the carrying amount. The difference from the previous carrying amount is booked as a positive or negative adjustment to the carrying amount of the financial asset or liability on the balance sheet with a corresponding increase or decrease in interest revenue/expense calculated using the effective interest method.

Guarantee fee income

Guarantee fee income is recognised during the life of the guarantee on an accruals basis in accordance with the substance of the relevant agreements.

Dividend income

Dividend income is recognised when the right to receive payment is established.

3. Critical accounting estimates and judgements

The notes to the Financial Statements set out areas where significant judgement, complex calculations or assumptions have been used to arrive at the Financial Statements presented. Areas of significant judgement or complexity will include the fair valuation of financial instruments as well as expected credit losses.

3.1 Fair value estimation of financial instruments

The fair value of financial instruments that are not traded in an active market is determined by using valuation techniques. The Company uses a variety of methods and market assumptions that are based on market

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

conditions existing at each reporting date. Quoted market prices or dealer quotes for similar instruments are used for long-term debt. Other techniques, such as estimated discounted cash flows, are used to determine the fair value for the remaining financial instruments. The fair value of interest rate swaps, cross currency swaps and forward foreign exchange contracts is calculated as the present value of the estimated future cash flows.

The nominal value less impairment provision of other receivables and payables, normally maturing within 30 days, are assumed to approximate their fair values. The fair value of financial liabilities for disclosure purposes is estimated by discounting the future contractual cash flows at the current market interest rate that is available to the Company for similar financial instruments.

3.2 Initial recognition and valuation of guarantees

The initial fair value recognition of guarantee liabilities, in relation to related party debt issuance, is required by IFRS 9. As the guarantees of related party debt are not actively traded and no initial fee is charged for entering into the guarantee, a valuation technique is required to assess the initial liability to the third-party debt holder.

The Company uses the discounted future income cash flows over the life of the guarantee to assess the initial guarantee liability. The initial recognition of the guarantee liability is calculated using the market interest rates applicable to the specific currency of debt issuance on the date the related party issues the debt. The estimation of the initial fair value of the guarantees is subject to a significant level of management judgement and complexity, as the individual related group companies do not have a separate credit rating from that of the overall Toyota Motor Corporation group. A guarantee asset is recognised of an amount equal to the guarantee liability. Changes in the value of the guarantee liability are matched by equal changes in the value of the guarantee asset; since such changes have no impact on the Statement of comprehensive income, no sensitivity analysis of the guarantee liability is included in the notes to the Financial Statements.

4. Breakdown by geographical market

The Company consists of a single operating reporting segment as defined under IFRS 8. Income generation is principally from lending to related companies, with other income generation from guarantees of related companies and from other investment and deposit income incidental to the primary funding activities.

Income can be categorised geographically as follows:

Income by area	2019 €'000	2018 €'000
UK (group)	33,719	21,245
Thailand (group)	29,911	5,739
Russia (group)	18,888	22,478
South Africa (group)	15,702	7,517
Norway (group)	12,835	9,863
Poland (group)	5,035	3,235
Other countries (group)	10,420	6,762
Interest received from others	5,378	1,667
Total	131,888	83,516

5. Interest income

Interest income	2019 €'000	2018 €'000
Interest income on loans to related companies	122,089	78,665
Interest income on deposits	3,584	389
Interest (premium) income on commercial paper	1,242	870
Interest income on collateral deposits paid	507	371
Interest income on corporate tax	45	37
Total	127,467	80,332

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

6. Dividend income

The Company received a dividend from Toyota Leasing (Thailand) Co. Ltd. of € 190,000 in the year (2018: € 49,000).

7. Guarantee fee income

The Company guarantees the debt of certain other Toyota Motor Corporation subsidiaries for which it receives guarantee fee income. All guarantee fee income is from related parties. Guarantee fee income for the year 2019 was € 4,231,000 (2018: € 3,135,000).

8. Interest expenses

Interest expenses	2019 €'000	2018 €'000
Interest charge on Euro medium term notes	(128,824)	(96,875)
Interest expense on commercial paper	(45,770)	(19,101)
Interest expense from bank borrowing	(40,316)	(21,523)
Interest paid on loan assets	(1,289)	(1,221)
Interest expense on loans from related companies	-	(1,216)
Interest expense on collateral deposits received	(91)	(293)
Interest component of foreign exchange derivative contracts	3,711	3,010
Net interest on swap agreements	112,907	81,906
Total	(99,672)	(55,113)

9. Fee expenses

The Company has the benefit of credit support agreements with Toyota Financial Services Corporation and Toyota Motor Corporation, for which it pays credit support fees based on the Company's debt issuance and guarantees issued to related parties. The credit support fees charged in the year by related parties were € 13,431,000 (2018: € 9,898,000).

10. Administration expenses

Administration expenses	2019 €'000	2018 €'000
Staff costs	(1,336)	(1,241)
Legal fees	(953)	(721)
Related party costs	(919)	(678)
Committed facilities	(667)	(615)
Independent auditor's expenses	(238)	(219)
Other assurance services	(82)	(160)
Communication expenses	(197)	(169)
Office rent	(110)	(109)
Rating annual fees	(128)	(87)
Tax advisor fees	(13)	(21)
Other administration expenses	(677)	(591)
Depreciation of PPE	(1)	-
Amortisation intangible assets	(1)	-
Total	(5,322)	(4,611)

The Company had an average of 10 employees, 2 seconded and 8 local (2018: 10 employees, 2 seconded and 8 local) during the year.

Staff costs consist of the following expenses and include the payroll costs of seconded employees:

Other assurance services consist of fees paid to PricewaterhouseCoopers, EY and Deloitte for Comfort Letters relating to the issuing of Euro medium term notes. Also included under other assurance services are fees paid

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

to PricewaterhouseCoopers Aarata (Japan) for translation services provided in translating the Comfort Letters and accompanying documents.

Staff costs	2019 €'000	2018 €'000
Wages, salaries and bonuses (on accruals basis)	(1,210)	(1,121)
Social security costs	(78)	(74)
Pension premiums (defined pension scheme on accruals basis)	(48)	(46)
Total	(1,336)	(1,241)

Wages, salaries and bonuses (on accruals basis) include remuneration of key management. The table below consist of all payments and benefits to directors of the Company.

Compensation to key management	2019 €'000	2018 €'000
Short-term employee benefits	(265)	(271)
Total	(265)	(271)

11. Net gains / (losses) on financial instruments

Net gains and losses arise from both foreign exchange rate movements and from interest rate movements on the following categories of financial instruments:

Net gains / (losses) on financial instruments	2019 €'000	2018 €'000
Gains / (losses) arising from foreign exchange rate movements		
Financial instruments	363,635	(548,838)
Debt instruments at amortised cost	98,561	(249,582)
Financial liabilities measured at amortised cost	(463,099)	798,152
	97	(268)
Gains / (losses) arising from interest rate movements		
Fair value gains / (losses) on financial instruments	39,122	(25,441)
Total	39,219	(25,709)

The Company issues debt to third parties and loans to related parties in a number of currencies, and then swaps this borrowing and lending back into one of four funding books: US Dollar (USD), Pound Sterling (GBP), Japanese Yen (JPY) and Euro (EUR).

The effect of foreign exchange rate movements on the market value of the financial instruments is offset by equal and opposite exchange losses or gains on the underlying financial assets and liabilities. The net gains and losses arising from foreign exchange rate movements arise from the Company's net foreign exposure to GBP, USD and other currencies.

The Company measures derivatives at fair value whereas the other financial assets and liabilities are measured at amortised cost. The Company does not apply hedge accounting. Therefore, the effect of interest movements on the market value of the financial instruments is not offset by an opposite movement on the underlying financial assets and liabilities leading to volatility in the Statement of comprehensive income.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

The result on financial instruments improved from € 25,709,000 losses for the year ended March 2018 to € 39,219,000 gains for the year ended March 2019, was caused by (i) the decrease in interest rates for the funding currencies (AUD, NZD, USD) more than the decrease in operational currencies being hedged (EUR, GBP), and (ii) the reversal of previous losses for derivatives coming to maturity during the period.

12. Independent auditor's expenses

Administration expenses include the following fees paid to the Company's independent auditors EY for the statutory audit:

Independent auditor's expenses	2019 €'000	2018 €'000
Audit (statutory) – EY	(130)	(145)
Audit – other assurance services – EY	(107)	(74)
	(238)	(219)

13. Taxation

Taxation	2019 €'000	2018 €'000
Current		
Taxation on profit (loss) for the year	(6,656)	(4,557)
Prior period tax adjustment	909	548
	(5,747)	(4,009)
Deferred		
Origination / reversal of timing differences	(9,707)	6,361
	(9,707)	6,361
Total	(15,454)	2,352

The tax on the Company's result before tax differs from the amounts that would arise using the weighted average statutory tax rate applicable to the result of the Company as follows:

Reconciliation of tax charge	2019 €'000	2018 €'000
Result before tax	52,388	(11,815)
Weighted average tax rate for the year	24.93%	24.93%
Tax calculated at weighted average tax rate applicable	(13,060)	2,945
Change in tax rates on deferred tax balances	(27)	19
Irrecoverable withholding tax	(3,322)	(1,170)
Taxable expense	(1)	(1)
Non-taxable income	47	11
Prior period tax adjustment	909	548
Total	(15,454)	2,352

The current tax rate is 25% for calendar year 2019 (2018: 25%) in the Netherlands.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

14. Loans to related companies

The Company lends to other Toyota Motor Corporation subsidiaries on both a fixed rate and a floating rate basis. All fixed rate lending (with tenors longer than six months) is swapped into three month floating basis in line with the Company's risk management policy.

The currency of related party lending is determined by counterparty demand and then either funded directly from one of four main funding books (USD, GBP, JPY and EUR) or swapped back into the appropriate funding currency using a matching currency swap.

Under IFRS 9 the Company has developed an impairment model for financial assets. The model is an expected credit loss model applicable as of 1 April 2018. The expected credit loss is calculated over all outstanding loan assets (current and non-current). The total calculated amount is deducted from outstanding current loan assets.

	Audited 2019 €'000	Adjusted 2018 €'000	Audited 2018 €'000
Current loans to related companies			
Current assets			
Loans to related companies	4,559,203	3,750,637	3,750,637
Expected credit loss	(1,010)	(717)	-
Current loans to related companies	4,558,193	3,749,920	3,750,637

	Audited 2019 €'000	Adjusted 2018 €'000	Audited 2018 €'000
Loans to related companies			
Current loans to related companies	4,558,193	3,749,920	3,750,637
Non-current loans to related companies	6,855,066	4,990,433	4,990,433
Total	11,413,259	8,740,353	8,741,070

Movement in expected credit loss	€'000
At 1 April 2018	(717)
Additional provision	(293)
At 31 March 2019	(1,010)

In accordance with IFRS 9, the entire portfolio of financial assets are classified as stage 1 given the creditworthiness and payment history of the related companies. Further, all current year movement in the ECL relates to additional reserve based upon an updated ECL calculation from the increase in the loan balance.

No related party loans are overdue and there has been no actual impairment of related party loans either in the current or previous financial years. There has been no renegotiation of any loans that would otherwise have been past due or impaired.

Interest rates on group lending can be either fixed or floating. The interest range for group lending on 31 March 2019 was between (0.295)% and 9.36% per annum, depending on the currency of the loan.

Outside the calculated expected credit loss no other impairment provisions or losses have been incurred in the current or previous financial year for any class of financial assets.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

15. Equity investment - related company

The Company owns 0.047% (2018: 0.047%) of the issued share capital of Toyota Leasing (Thailand) Co. Ltd. ("TLT"), a company domiciled in Thailand. TLT has issued share capital of 51.4 million shares (face value 1,000 Thai Baht (THB) per share). Of the registered share capital of THB 51,400,000,000, THB 15,100,000,000 is fully paid up. The original cost of the investment in 1997 was € 750,000.

Management has assessed the fair value of the investment in TLT with reference to discounted cash flow modelling of TLT assets and liabilities, and by applying the current market interest rates and exchange rates prevailing on 31 March 2019. The investment in TLT shares at the reporting date is measured at fair value. The valuation of TLT, although using third-party market data, is subject to management judgement when assessing the probable cash flows from the current asset base. The investment in TLT is classified as a level 3 investment as shown in Note 33.1.

Investment in Toyota Leasing (Thailand) Co. Ltd.	2019 €'000	2018 €'000
Balance at the start of year	1,119	1,115
Fair value adjustment	104	4
Total	1,223	1,119

16. Derivative financial instruments

The derivative financial instruments are categorised as carried at fair value through profit or loss. The fair values of derivative contracts are shown in the table below. Additional disclosures are set out in the accounting policies relating to risk management.

Derivative financial instruments	2019 €'000	2018 €'000
Current assets		
Interest swaps	988	129
Cross-currency swaps	245,519	53,420
Forward foreign currency contracts	4,211	4,212
Total current assets	250,718	57,761
Derivative financial instruments		
Non-current assets		
Interest swaps	17,634	1,755
Cross-currency swaps	132,915	146,480
Total non-current assets	150,549	148,235
Derivative financial instruments		
Total assets	401,267	205,996

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Derivative financial instruments	2019	2018
Current liabilities	€'000	€'000
Interest swaps	1,829	1,691
Cross-currency swaps	44,806	89,177
Forward foreign currency contracts	934	395
Total current liabilities	47,569	91,263
Derivative financial instruments		
Non-current liabilities		
Interest swaps	20,936	3,437
Cross-currency swaps	74,553	253,640
Total non-current liabilities	95,489	257,077
Derivative financial instruments		
Total liabilities	143,058	348,340

Derivative assets and liabilities are recognised at fair value through the income statement.

In accordance with IFRS 9, "Financial instruments: Recognition and measurement", the Company has reviewed all contracts for embedded derivatives and found there are none. Derivative assets and liabilities are recognised at fair value through the income statement. The majority of derivative contracts have collateral agreements attached. Therefore, the debit/credit valuation adjustment is not considered material and is not considered in determining the fair value of derivative assets and liabilities.

17. Property, plant and equipment

Property, plant and equipment	2019	2018
	Computer hardware and office equipment €'000	Computer hardware and office equipment €'000
Cost		
Cost b/fwd at 1 April 2018 / 2017	82	82
Additions	13	-
Disposals	-	-
Total	95	82
Depreciation		
Depreciation b/fwd at 1 April 2018 / 2017	82	82
Depreciation charge for the year	1	-
Disposals	-	-
Total	83	82
Reconciliation at the beginning and end of the year		
Opening net book amount - at 1 April 2018 / 2017	-	-
Closing net book amount - at 31 March 2019 / 2018	12	-

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

18. Intangible assets

Intangible assets	2019	2018
	Computer software €'000	Computer software €'000
Cost		
Cost b/fwd at 1 April 2018 / 2017	9	9
Additions	17	-
Total	26	9
Amortisation		
Amortisation b/fwd at 1 April 2018 / 2017	9	9
Amortisation charge for the year	1	-
Disposals	-	-
Total	10	9
Reconciliation at the beginning and end of the year		
Opening net book amount - at 1 April 2018 / 2017	-	-
Closing net book amount - at 31 March 2019 / 2018	16	-

19. Deferred tax

Deferred tax is provided in full on temporary differences under the balance sheet liability method, using the current tax rate of 25.0%. The tax rates apply to calendar years.

The calculation of the expected credit loss, as stated in note 14, had a reverse impact, against the current tax rate of 25%, on the balance as of 31 March 2018 and 31 March 2019 of deferred tax assets.

The movement on the deferred tax account is shown below:

Deferred tax		Audited 2019 €'000	Adjusted 2018 €'000	Audited 2018 €'000
Deferred tax b/fwd 1 April 2018 / 2017		1,829	(4,711)	(4,711)
Impact from expected credit loss adjustment	Note 28	73	179	
Fair valuation of assets and liabilities through profit or loss		(9,782)	6,381	6,381
Total		(7,880)	1,829	1,650

Deferred tax assets (liabilities) have been recognised for all tax gains (losses) and other temporary differences giving rise to deferred tax assets (liabilities), because it is possible that these assets (liabilities) will crystallise.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

20. Other receivables

Other receivables	2019 €'000	2018 €'000
Deposit for rented property	36	36
Prepaid rent	33	32
Collateral deposits paid	47,100	237,000
Interest receivable (cash collateral posted)	66	9
Other receivable	39	-
Related party receivables	Note 30 2,293	1,787
Non-related party receivables	64	32
Financial guarantee receivable	Note 24 8,612	7,431
Total	58,243	246,327

Collateral deposits paid are cash deposits with derivative counterparties held as collateral in respect of derivative contracts. The fair value of those deposits approximates the carrying amount.

21. Current taxes

Current taxes are charged based on the prevailing tax rates. The tax rates apply to calendar years and profit for the accounting year is therefore pro-rated between the two calendar years on a day-count basis to compute the effective tax rate. The current tax rate is 25.0% for calendar year 2019 (2018: 25.0%) in the Netherlands. Corporation tax liability at 31 March 2019 is € 584,000 (2018: € 1,209,000). The tax payments are made during the year in which the profits are earned on an estimated basis. The extent to which the final taxable charge differs from the original estimated amount results in a current tax asset or liability due to over or under payment of tax respectively.

22. Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents	2019 €'000	2018 €'000
Cash and bank balances	5,812	4,568
Deposits for liquidity purposes	236,451	122,066
Overdraft	(3)	(1)
Total	242,260	126,633

As of 31 March 2019 there are no restrictions on cash and cash equivalents.

23. Borrowings

Borrowings	2019 Current €'000	2019 Non- current €'000	2018 Current €'000	2018 Non- current €'000
Commercial paper	2,424,878	-	2,453,947	-
Medium term notes	2,738,821	4,590,020	1,181,566	3,754,165
Loans payable bank	405,639	1,336,657	200,935	1,166,297
Total	5,569,338	5,926,677	3,836,448	4,920,462

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Borrowings by currency	2019 Current	2019 Non- current	2018 Current	2018 Non- current
	€'000	€'000	€'000	€'000
Pound Sterling	1,451,577	110,352	1,601,670	404,753
United States Dollar	2,931,756	1,914,182	1,499,026	2,345,706
Australian Dollar	495,681	987,855	102,795	1,188,538
New Zealand Dollar	226,835	194,183	236,744	375,699
Euro	463,205	1,986,510	396,157	301,550
Other	284	733,595	56	304,216
Total	5,569,338	5,926,677	3,836,448	4,920,462

Borrowings	01 Apr. 18 - 31 Mar. 19 €'000	01 Apr. 17 - 31 Mar. 18 €'000
Commercial paper		
Start	2,453,947	1,504,171
Accrued interest	2,818	612
Issue	30,430,393	22,450,829
Redemption	(30,524,261)	(21,457,527)
Amortisation	273	833
FX revaluation	61,708	(44,971)
Total	2,424,878	2,453,947
Medium term notes		
Start	4,935,731	4,112,853
Accrued interest	7,088	(7,016)
Issue	3,321,575	2,612,695
Redemption	(1,191,597)	(1,467,358)
Amortisation	10,307	13,669
FX revaluation	245,738	(329,112)
Total	7,328,841	4,935,731
Loans from related companies		
Start	0	382,597
Accrued interest	-	(510)
Issue	-	-
Redemption	-	(380,581)
FX revaluation	-	(1,506)
Total	0	0
Loans bank		
Start	1,367,232	1,211,120
Accrued interest	1,116	658
Issue	466,903	553,099
Redemption	(214,390)	(207,348)
Amortisation	702	413
FX revaluation	120,733	(190,710)
Total	1,742,296	1,367,232

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

The Company's principal borrowings are from short-term commercial paper programmes, a medium term note programme and long-term bank borrowing. Commercial paper is a short-term debt instrument normally issued at a discount and repaid at face value. The Company can issue commercial paper with maturities between 1 day and 364 days. Interest rates bank borrowings are fixed or floating (based on the relevant three months Libor plus spread). The interest rate bank borrowings on 31 March 2019 was between 0.08 % and 3.4257 % per annum. As at the 31 March 2019 there are current borrowings of €5,569,338,000 (2018: € 3,836,448,000) and non-current borrowings of € 5,926,677,000 (2018: € 4,920,462,000).

24. Financial guarantee liability

The current value of guarantees outstanding is: € 8,612,000 (2018: € 7,431,000) and these relate only to guarantees issued in respect of debt issuance for other related group companies (see note 2).

Of the total guaranteed amount, € 712,000 relates to bonds maturing in less than one year and € 7,900,000 relates to bonds maturing in greater than one year.

25. Other liabilities and accrued expenses

Other liabilities and accrued expenses		2019 €'000	2018 €'000
Collateral deposits received		260,700	56,600
Interest payable on collateral deposits		1	44
Related party accounts payable	Note 30	7,935	5,525
Accrued administration expenses		805	590
Other accrued taxes		183	139
Other liabilities		-	1
Total		277,624	62,899

Collateral deposits received are cash deposits from derivative counterparties held as collateral under derivative contracts.

26. Capital management

The Company's internal objectives when managing capital are:

- To safeguard the Company's ability to continue as a going concern, so that it can continue to provide returns for shareholders and benefits for other stakeholders; and
- To provide an adequate return to the Company's primary shareholder, Toyota Financial Services Corporation, by pricing products and services commensurately with the level of risk.

During the financial year 2019 the Company's capital management strategy remained unchanged from the financial year 2018 and was to operate profitably and to add to retained reserves.

The Company has complied with internal capital requirements by maintaining adequate capital during the year.

27. Share capital

Share capital	2019 €'000	2018 €'000
Authorised		
10,000 (2018: 10,000) ordinary shares of € 454 each	4,540	4,540
Issued and fully paid up		
2,000 (2018: 2,000) ordinary shares of € 454 each	908	908

100% of the share capital of the Company is owned by Toyota Financial Services Corporation (see note1).

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Appropriation of Profit

The loss for the financial year 2018 was deducted from the retained earnings as agreed in the Annual General Meeting of Shareholders held in Amsterdam on 24 July 2018.

The Board of Management proposed that the profit for the past financial year 2019 be added to the retained earnings.

28. Retained earnings

The calculation of the expected credit loss and the impact on deferred tax assets had the following result on the opening balance of retained earnings.

	Adjusted	Audited
	31 March 2018 €'000	31 March 2018 €'000
Retained earnings		
Retained earnings	144,734	144,734
Expected credit loss adjustment	(717)	-
Deferred tax adjustment	179	-
Retained earnings	144,196	144,734

29. Equity instruments FVOCI - movement

	€'000
Fair value reserve	
At 1 April 2017	360
Movement	
Unrealised gains on equity instruments FVOCI	4
At 31 March 2018	364
Unrealised gains on equity instruments FVOCI	104
Net fair value reserve at 31 March 2019	468

The fair valuation reserve arises from the fair valuation through equity of equity investments and the related deferred taxation on the fair valuation adjustment.

30. Related-party transactions**Parent and ultimate controlling party**

The Company is a wholly-owned subsidiary of Toyota Financial Services Corporation (TFSC), a company incorporated in Japan. The ultimate management company and controlling party is Toyota Motor Corporation (TMC), a company incorporated in Japan.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Transactions with parent company

During the year TFSC provided credit support to the Company in respect of debt issuance in the capital markets and related party guarantees. The fees charged were € 13,431,000 (2018: € 9,898,000) with € 7,191,000 (2018: € 5,345,000) outstanding at year-end. The outstanding amount bears no interest and the payment term is 30 days.

Fellow subsidiaries

During the year transactions were entered into with the following TMC subsidiaries:

Toyota Financial Services (UK) PLC, as well as its subsidiaries and associated undertakings:

Toyota Financial Services (UK) PLC subsidiaries:

Toyota Finance Finland Oy
Toyota Financial Services Czech s.r.o.
Toyota Financial Services Slovakia s.r.o.
Toyota Financial Services Denmark A/S
Toyota Financial Services Hungary Rt.
Toyota Financial Services (Ireland) DAC
Toyota Financial Services Italy SpA

Toyota Financial Services (UK) PLC associated undertakings:

Toyota Financial Services (South Africa) (Proprietary) Limited

Toyota Kreditbank GmbH, as well as with its branches and subsidiaries:

Toyota Kreditbank GmbH branches:

Toyota France Financement
Toyota Financial Services Norway
Toyota Financial Services Sweden
Toyota Financial Services Spain

Toyota Kreditbank GmbH subsidiaries:

AO Toyota Bank
Toyota Leasing GmbH
Toyota Bank Polska S.A.
Toyota Leasing Polska Sp.z o.o.

Toyota Leasing (Thailand) Co. Ltd

Toyota Financial Services Korea Ltd

Toyota Motor Credit Corporation

Toyota Capital Malaysia Sdn. Bhd.

Transactions with fellow subsidiaries

Guarantees

The Company earned € 4,231,000 (2018: € 3,135,000) from fellow subsidiaries as guarantees fees. The amount relating to the guarantee fees that remained unpaid at year-end was € 2,293,000 (2018: € 1,787,000). The outstanding amount bears no interest and has not been impaired.

Dividends

The Company received € 190,000 (2018: € 49,000) in dividends as disclosed in note 6 on its unlisted investment in Toyota Leasing (Thailand) Co. Ltd.

Borrowings

The movement in the Company's borrowings from fellow subsidiaries during the year are shown below. At 31 March 2019, there was no borrowings from related companies. Reference is made to note 23 for the terms and conditions of the borrowings.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Loans from related companies	2019 €'000	2018 €'000
Balance at the beginning of the year	0	382,597
Loans received during the year	-	-
Loans repaid during the year	-	(380,581)
Interest expense	-	1,216
Interest paid	-	(1,726)
Exchange revaluation of loans from related companies	-	(1,506)
Total	0	0

Lending

The summary of loans to fellow subsidiaries and the income and expenses incurred thereon during the year is set out below:

Loans to related companies	2019 €'000	2018 €'000
Balance at the beginning of the year	8,741,070	7,317,966
Loans advanced during the year	12,658,792	7,907,769
Loans received	(10,129,457)	(6,448,963)
Interest income	122,089	76,665
Interest received	(113,373)	(76,390)
Interest expense	(1,288)	(1,221)
Interest paid	1,359	1,131
Exchange revaluation of loans to related companies	132,077	(37,887)
Total	11,414,268	8,741,070

Other than the calculated expected credit loss no impairment has been recognised on the amounts outstanding at year-end (see note 14). Transactions with related companies are at arm's length prices.

Directors

There were no changes in the Board of Management during the year.

Transactions with directors, management and employees

There were no transactions, other than emoluments, with directors, management or employees during the year.

Summary of related party payables included in other liabilities

Summary of related party payables included in other liabilities	2019 €'000	2018 €'000
Credit support fees payable to parent company	7,191	5,345
Business and administration services payable to related companies	744	180
Total	7,935	5,525

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Summary of guarantees and related party receivables

Summary of guarantees and related party receivables	2019 €'000	2018 €'000
Related party receivables for guarantees	2,293	1,787
Total	2,293	1,787

Amounts receivable from related parties have not been impaired.

31. Contingent liabilities

The Company issues guarantees to debt holders of other Toyota Motor Corporation subsidiaries. The Company receives guarantee fees from Toyota Motor Corporation subsidiaries in respect of the guaranteed debt in issuance.

The Company assesses the need for provisions by reviewing the net assets and profitability of the companies for the year ended 31 March 2019. The accounts of the respective debt issuers indicate that there are adequate assets to cover the borrowings.

No provisions have been required against contingent liabilities in either the current or prior fiscal years.

Set out below is the Euro equivalent of the guarantees issued in relation to debt issuance by other Toyota Motor Corporation subsidiaries.

Contingent liabilities as at 31 March Currency of debt guaranteed	2019 €'000	2018 €'000
Malaysian Ringgit	21,807	24,156
Russian Ruble	108,566	70,951
South African Rand	403,112	424,115
Thai Baht	2,235,698	1,670,907
Total	2,769,183	2,190,129

The nature of the guarantees is that they are unconditional guarantees issued to the debt holders. If for any reason the issuer is unable to pay as and when the debt falls due, the Company may be required to repay the debt on behalf of the issuer. The guarantees are for commercial paper and medium-term notes.

32. Financial risk management

32.1 Financial risk factors

The Company's principal activities are the lending of funds to other subsidiaries of Toyota Financial Services Corporation (the parent company) and acting as a guarantee vehicle for third party debts of other related companies within the Toyota Motor Corporation group.

The Company's role as a financing vehicle for Toyota related companies exposes it to a variety of financial risks that include credit risk, liquidity risk, interest rate risk and foreign currency exchange rate risk. The Company has in place a risk management program that seeks to limit the adverse effects on the financial performance of the Company of those risks by matching foreign currency assets and liabilities and through the use of financial instruments, including interest rate swaps, cross-currency swaps and foreign currency contracts, to manage interest rate and foreign currency risk.

In respect of the credit risk arising from the market values of derivative contracts to manage market risks, agreements are concluded to exchange collateral with counterparties to mitigate those credit risks. The Board of Management utilises a risk management policy and receives regular reports from the business to enable prompt identification of financial risks so that appropriate actions may be taken. The Company employs written policies and procedures that specify guidelines for managing foreign exchange risk, interest rate risk, credit risk and the use of financial instruments to manage these risks.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

32.2 Foreign exchange risk

The Company has transactions with related Toyota group companies in Euro, other continental European currencies, South African Rand, Thai Baht, Pound Sterling and US Dollars. The Company actively borrows in a number of currencies to meet investor demand for its issued debt. The Company makes use of cross-currency swaps and forward foreign exchange contracts to match assets and liabilities into specific currency portfolios. The net exposure results in the Company being exposed to foreign exchange risks primarily with respect to Pound Sterling and US Dollars.

The Company manages its exposure to foreign exchange risk by ensuring that its holdings of financial assets and financial liabilities are matched within each of its four funding currency portfolios, to ensure that any net long or short positions within each currency fall within levels that management considers acceptable. The remaining net exposures at the reporting date were as follows:

Net exposure to foreign exchange risk	2019 €'000	2018 €'000
Pound Sterling	5,697	1,355
US Dollar	(2,463)	(324)
Thai Baht	1,868	1,338
Other	442	460
Total	5,544	2,829

The above exposure represents the present value of future foreign currency cash flows discounted at market interest rates at the reporting date. The exposure derives from the net equity investment in the three main foreign currency funding books that the Company uses to provide funding to related parties.

The following sensitivity analysis shows the impact on equity, through both profit or loss and recognition directly in reserves, of a 5% appreciation and depreciation in the value of the Euro against all other currencies at the reporting date:

	2019			2018		
	Sensitivity of Profit and Loss Gain/(Loss) €'000	Sensitivity of Equity Gain/(Loss) €'000	Total Gain/(Loss) €'000	Sensitivity of Profit and Loss Gain/(Loss) €'000	Sensitivity of Equity Gain/(Loss) €'000	Total Gain/(Loss) €'000
5 % Euro strengthening	(208)	(23)	(231)	(106)	(18)	(124)
5 % Euro weakening	208	23	231	106	18	124

32.3 Interest rate risk

The Company has both interest-bearing assets and interest-bearing liabilities. The Company has a policy of maintaining assets and liabilities at floating interest rates. The Company uses swaps, in respect of financial assets, including inter-company lending to manage risk. In respect of borrowing, swaps are used to retain flexibility in the debt capital markets. The interest rate swaps are settled on a bi-annual or quarterly basis with payment or receipt of the difference between the agreed fixed interest rate and the floating interest rate amounts on the principal.

Interest rate risk in relation to the Company's related party lending activities is managed by ensuring that any fixed rate funding is swapped into floating rate, with reset dates typically of a three month duration. Interest rate risk in relation to the Company's borrowing activities is managed by ensuring that any fixed rate borrowing is swapped into floating rate, with reset dates typically of a three month duration. As such, movement in the prevailing market rates will not have a material impact on income.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

This interest rate profile broadly matches that of the Company's intra-group loan assets, either carrying variable coupons with a three month re-pricing or, where fixed for longer periods, swapped into three month floating rates.

The Company's interest rate risk exposure derives from the following financial contracts:

Interest rate risk exposure at 31 March 2019	Fixed rate €'000	Floating rate €'000	Non- interest bearing €'000	Total €'000
Non-current assets				
Loans to related companies	3,512,280	3,342,788	-	6,855,068
Equity investment- related company	-	-	1,223	1,223
Current assets				
Loans to related companies	1,540,114	3,019,089	-	4,559,203
Receivables from affiliated companies	-	-	2,293	2,293
Other receivables - financial instruments only	-	47,139	199	47,338
Cash and cash equivalents	-	242,263	-	242,263
Current liabilities				
CP	-	(2,424,878)	-	(2,424,878)
EMTN	(1,113,098)	(1,625,723)	-	(2,738,821)
Bank loans	(75)	(405,564)	-	(405,639)
Affiliated company accounts payable	-	-	(7,935)	(7,935)
Other liabilities and accrued expenses - financial instruments only	-	(268,701)	(989)	(269,690)
Bank overdraft	-	(3)	-	(3)
Non-current liabilities				
EMTN	(3,823,732)	(766,288)	-	(4,590,020)
Bank loans	(792,838)	(543,821)	-	(1,336,659)
Pre-derivative position (a)	(677,347)	616,299	(5,208)	(66,255)
Nominal value derivatives (b)	654,927	(396,701)	(17)	258,209
Net interest bearing asset / (liability) position (a)+(b)	(22,420)	219,598	(5,224)	191,954

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Interest rate risk exposure at 31 March 2018	Fixed rate €'000	Floating rate €'000	Non- interest bearing €'000	Total €'000
Non-current assets				
Loans to related companies	2,652,314	2,338,119		4,990,433
Equity investment – related company	-	-	1,119	1,119
Current assets				
Loans to related companies	1,520,220	2,230,417	-	3,750,637
Receivables from affiliated companies	-	-	1,787	1,787
Other receivables – financial instruments only	-	237,000	109	237,109
Cash and cash equivalents	-	126,634	-	126,634
Current liabilities				
CP	-	(2,453,947)	-	(2,453,947)
EMTN	(365,560)	(816,006)	-	(1,181,566)
Bank loans	(56)	(200,879)	-	(200,935)
Loans from related companies	-	-	-	-
Affiliated company accounts payable	-	-	(5,525)	(5,525)
Other liabilities and accrued expenses – financial instruments only	-	(58,644)	(730)	(57,374)
Bank overdraft	-	(1)	-	(1)
Non-current liabilities				
EMTN	(2,470,418)	(1,283,747)	-	(3,754,165)
Bank loans	(304,216)	(862,081)	-	(1,166,297)
Pre-derivative position (a)	1,032,284	(741,135)	(3,240)	287,909
Nominal value derivatives (b)	(971,716)	829,448	(76)	(142,344)
Net interest bearing asset / (liability) position (a)+(b)	60,568	88,313	(3,316)	145,565

Short-term borrowing with an original term of less than 6 months is subject to regular interest rate changes on replacement, therefore, short-term funding of this nature is classified as floating rate funding in the above tables.

32.4 Credit risk

Counter party exposure from investments, deposits and derivative financial investments is limited to financial institutions with investment-grade credit ratings with more stringent rating thresholds for exposures in excess of 5 years. The amount of exposure to any individual counter-party is subject to a limit, which is reassessed annually.

The Company is exposed to credit risk from its activities as a lender and guarantor of Toyota Motor Corporation operating companies' third party debts in various geographical locations. While the Company's primary credit risk exposure is default by the related companies to which it lends or issues guarantees to third parties, this risk is mitigated by credit support agreements with its parent and ultimate parent company, whereby they have undertaken to the debt and guarantee holders to maintain the equity of the Company at a specified level. The Moody's credit rating of the parent as of 31 March 2019 is Aa3.

In addition, the Company's lending and guarantee activity is to significant operating entities as part of the Toyota group, and therefore the Company's continuing trading viability is ultimately dependent upon the trading performance of the Toyota Motor Corporation group as a whole. Lending is on an un-subordinated basis, but there are instances where loans are subordinated to assist in meeting regulatory funding requirements of the borrower.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Derivatives entered into by the Company exclusively to manage its interest rate and currency risk are traded solely with recognised credit institutions with credit ratings as detailed above. Fair value movement in the derivative liability does not materially pertain to credit risk.

The Company's cash and cash equivalents are held with a selection of banks from a list approved by Toyota Financial Services Corporation within specified limits.

The maximum exposure to credit risk from financial instruments at the reporting date is as follows:

Credit risk	2019 €'000	2018 €'000
Current assets		
Loans to related companies	4,559,203	3,750,637
Other receivables		
– Collateral deposits paid and related party receivables	49,631	238,896
Derivative financial instruments	250,718	57,761
Cash and cash equivalents	242,263	126,634
Non-current assets		
Loans to related companies	6,855,066	4,990,433
Derivative financial instruments	150,549	148,235
Contingent liabilities		
Guarantees of related party debt	2,769,163	2,190,129

Agreements to exchange collateral in cash have been concluded with counterparties to mitigate the credit risk arising from the value of derivative financial instruments shown above. At 31 March 2019, the value of cash collateral received, shown as Collateral deposits received in note 25 within Other liabilities and accrued expenses was, € 268,700,000 (2018: €56,600,000).

Details of the Contingent liabilities are shown in note 31.

The maximum single exposure from derivative assets at the reporting date to a single counterparty is € 64,500,000 (2018: € 26,301,000) and the 3 largest counterparty positions represent € 141,100,000 (2018: € 46,228,000). These counterparties exposures are collateralised.

32.5 Liquidity risk

Liquidity risk is the risk that the Company is unable to meet payment obligations associated with its financial liabilities when they fall due.

The Company regularly forecasts short and medium-term funding requirements incorporating information from other related companies and ensures that there is an appropriate level of liquid resources to cover any unforeseen cash requirements.

The Company actively maintains a mixture of long-term and short-term debt maturities, together with long-term committed facilities and liquid investments that are designed to ensure the Company has sufficient available funds for operations. The Company maintains committed credit lines with a syndicate of commercial banks to mitigate the liquidity risk. In addition, the Company has entered into a credit support agreement and a supplemental credit support agreement with its parent company in which it will make sufficient funds available to the Company so that the Company will be able to service the obligations arising out of its capital market borrowing and guarantee obligations respectively.

The credit support agreement and the supplemental credit support agreement provide for termination by either party upon 30 days' written notice to the other party. Such terminations will not take effect until or unless all relevant securities have been repaid or each relevant rating agency has confirmed to the parent company or the Company that the debt ratings of all relevant securities will be unaffected by such termination.

The following table details the expected maturity of non-derivative financial liabilities. The analysis is based on gross contractual (undiscounted) cash flows payable. Foreign currency cash flows included in the table below have been translated using market rates. Where future interest payments are variable, the cash flows are based on the interest rate index at the reporting date.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Debt cash flows at 31 March 2019	Due within 3 months	Due between 4 and 12 months	Due between 1 and 5 years	Due after 5 years
	€'000	€'000	€'000	€'000
Bank borrowings	9,542	425,352	1,364,521	-
Commercial paper	1,284,128	1,178,737	-	-
EMTN	749,711	2,084,405	4,750,272	-
Collateral deposits received	268,700	-	-	-
Total	2,311,081	3,688,494	6,114,793	-

Debt cash flows at 31 March 2018	Due within 3 months	Due between 4 and 12 months	Due between 1 and 5 years	Due after 5 years
	€'000	€'000	€'000	€'000
Bank borrowings	7,935	224,936	1,216,610	-
Commercial paper	1,739,811	714,956	-	-
EMTN	333,296	1,101,876	3,628,449	-
Collateral deposits received	56,600	-	-	-
Total	2,137,642	2,041,768	5,045,259	-

The following table details the expected maturity of derivative financial instruments. The analysis is based on the gross contractual (undiscounted) cash flows. When the amount payable or receivable is not fixed, the amount disclosed has been determined by reference to current market indices at the reporting date.

Net cash flows at 31 March 2019	Due within 3 months	Due between 4 and 12 months	Due between 1 and 5 years	Due after 5 years
	€'000	€'000	€'000	€'000
Net settled:				
- Interest derivatives payable / (receivable)	1,863	2,144	1,631	-
Gross settled:				
- Currency derivatives - receivable	(1,288,625)	(3,185,847)	(5,442,361)	-
- Currency derivatives - payable	1,214,585	3,006,685	5,359,213	-
Total derivative cash flows	(72,157)	(157,018)	(81,517)	-
Total	2,238,924	3,531,476	6,033,276	-

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Net cash flows at 31 March 2018	Due within 3 months €'000	Due between 4 and 12 months €'000	Due between 1 and 5 years €'000	Due after 5 years €'000
Net settled:				
– Interest derivatives payable / (receivable)	2	2,770	9,176	-
Gross settled:				
– Currency derivatives – receivable	(1,208,138)	(1,997,974)	(6,156,124)	-
– Currency derivatives – payable	1,218,075	1,930,083	6,115,354	-
Total derivative cash flows	9,939	(65,121)	(31,594)	-
Total	2,147,581	1,976,647	5,013,665	-

The Company has extended loan facilities to related parties and to the extent that these loan facilities are undrawn at the reporting date this represents a future lending commitment.

Potential cash outflows from undrawn loan facilities at the reporting date are shown in the table below at the earliest possible draw down date. The cash flow effect of probable future related party borrowing requirements is monitored through regular cash flow forecasts provided to the Company by the related parties.

Undrawn commitments at 31 March 2019	Due within 3 months €'000	Due between 4 and 12 months €'000	Due between 1 and 5 years €'000	Due after 5 years €'000
Undrawn loan commitments	4,117,883	-	-	-
Total	4,117,883	-	-	-

Undrawn commitments at 31 March 2018	Due within 3 months €'000	Due between 4 and 12 months €'000	Due between 1 and 5 years €'000	Due after 5 years €'000
Undrawn loan commitments	3,240,566	-	-	-
Total	3,240,566	-	-	-

32.6 Price risk

The Company is not significantly exposed to equity price risk or commodity price risk.

32.7 Offsetting financial assets and financial liabilities

The following financial instruments are subject to enforceable master netting agreements:

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

As at 31 March 2019	Gross amounts of recognised financial assets €'000	Gross amounts of recognised financial liabilities €'000	Net collateral exchanged €'000	Net assets / (liabilities) €'000
Derivative financial instruments <i>Collateralised</i>	401,189	(143,058)	(221,600)	36,531
Derivative financial instruments <i>Non- Collateralised</i>	79	-	-	79
Total	401,267	(143,058)	(221,600)	36,610

As at 31 March 2018	Gross amounts of recognised financial assets €'000	Gross amounts of recognised financial liabilities €'000	Net collateral exchanged €'000	Net assets / (liabilities) €'000
Derivative financial instruments <i>Collateralised</i>	205,961	(348,340)	180,400	38,021
Derivative financial instruments <i>Non- Collateralised</i>	35	-	-	35
Total	205,996	(348,340)	180,400	38,056

Financial instruments are settled on a gross basis, however, each party to a master netting agreement will have the option to settle all such amounts on a net basis in the event of default of the other party. All financial instruments on the Statement of financial position are shown on a gross basis.

33. Fair value of financial instruments

Fair value is defined as the price that would be received when selling an asset or paid when transferring a liability in an orderly transaction between market participants at the measurement date.

33.1 Financial assets and liabilities at fair value in the statement of financial position

The table below analyses financial instruments carried at fair value, by valuation method. The different levels have been defined as follows:

Level 1 - Quoted prices (unadjusted) in active markets for identical assets and liabilities;

Level 2 - Inputs other than quoted prices included within level 1 that are observable for the asset or liability, either directly (that is, as prices) or indirectly (that is derived from prices);

Level 3 - Inputs for the asset or liability that are not based on observable market data (that is, unobservable inputs).

Level 2 trading and hedging derivatives comprise forward exchange contracts and interest rate swaps. These forward foreign exchange contracts have been fair valued using forward exchange rates that are quoted in an active market. Interest rate swaps are fair valued using forward interest rates from observable yield curves.

Management will continually assess whether its understanding of the valuation method hierarchy remains accurate for each financial instrument and if a change is deemed to occur it will disclose the date of the event and the change in circumstances in addition to the reporting period it is applicable to.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

31 March 2019				31 March 2018				
Level 1 €'000	Level 2 €'000	Level 3 €'000	Total €'000	Level 1 €'000	Level 2 €'000	Level 3 €'000	Total €'000	
Financial Assets								
Equity instruments – related company	-	-	1,223	1,223	-	-	1,119	1,119
Derivative financial instruments	-	401,267	-	401,267	-	205,996	-	205,996
Financial Liabilities								
Derivative financial instruments	-	143,058	-	143,058	-	348,340	-	348,340

There were no transfers between level 1, level 2 and level 3. The carrying value for all other financial assets and liabilities not presented in the previous graph is a reasonable approximation of Fair Value in accordance with disclosure requirements as stated within IFRS 7.

33.2 Financial assets and liabilities not measured at fair value in the statement of financial position

The following tables compare the carrying value and fair value of those financial assets and liabilities not presented on the statement of financial position at fair value.

	31 March 2019 Level 2		31 March 2018 Level 2	
	Carrying Value €'000	Fair value €'000	Carrying Value €'000	Fair value €'000
Financial assets				
Loans to related parties	11,413,259	11,474,937	8,741,070	8,816,460
Guarantee fee receivable	8,612	8,612	7,431	7,431
Financial liabilities				
Loans payable bank	1,742,296	1,761,064	1,367,232	1,389,112
Commercial paper	2,424,878	2,424,975	2,453,947	2,453,947
Euro medium term notes	7,328,841	7,395,774	4,935,731	4,951,570
Related party guarantee	8,612	8,612	7,431	7,431

Financial assets

The fair value calculation for loans to related parties is based on discounting expected future cash flows using an estimated discount rate that reflects the expected future interest rates, derived from quoted market rates at the reporting date. Early settlements, credit losses and credit spread assumptions are reviewed periodically, but currently are not relevant to this class of assets.

Financial liabilities

The fair value of borrowings is based on current market prices where available. Fair value of EMTN is based on the discounted cash flow model that incorporates observable inputs including interest rate yield curves and the appropriate discount rate for the currency and tenor of the cash flow. Where active market prices are not available, the fair value of fixed interest borrowings is based on future cash flows discounted at the current rate for similar debts or assets with the same remaining maturities.

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

34. Events occurring after the reporting date

On 28 June 2019, Mr. K. Katayama resigned as director from the Board of Management of the Company, at which date Mr. T. Kawai was appointed as director. There are no further material events that occurred after the reporting date to disclose.

Board of Management

Hiroyasu Ito

Toshiaki Kawai

TOYOTA MOTOR FINANCE (NETHERLANDS) B.V.

Other Information

Retained Earnings

In accordance with Article 21 of the Articles of Association, retained earnings are at the disposal of the shareholder in the general meeting. Subject to the Company being in a profitable position, the Board of Management may decide to pay an interim dividend subject to the approval of the shareholder in the general meeting.

Independent Auditor's Report

The independent auditor's report is set out on page 41.

2 【主な資産・負債及び収支の内容】

上記「第3 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

3 【その他】

(1) 後発事象

該当事項なし

(2) 訴訟

2019年3月31日現在、当社は重要な訴訟に関与していない。

4 【本国と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違】

金融商品：開示

IFRS第13号「公正価値測定」により、評価手法及びインプットに関する情報については、貸借対照表上、公正価値で計上された金融商品の測定に使用され、重要な観測不能なインプット（レベル3）が継続的に使用される公正価値測定の場合、純損益又はその他の包括利益の測定に係る影響については開示が要求されている。

日本においては、公正価値測定及びその開示に関する包括的な会計基準はなく、個別の会計基準において、時価の定義や時価の算定方法が示されている。なお、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」により、原則としてすべての金融商品について、金融商品の状況に関する事項及び金融商品の時価等に関する事項の開示が必要とされている。

金融資産の認識の中止

IFRS第9号「金融商品」では金融資産の認識は、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅するとき、金融商品の所有に対するリスクと経済価値のほぼすべてが移転するとき、又は金融商品の所有に対するリスクと経済価値の一部を留保したまま金融資産を譲渡しているが支配を保持していない場合（すなわち、譲受人が当該資産を売却する能力を有している場合）にのみ中止される。

日本では、「金融商品に関する会計基準」により、金融資産の消滅の認識は金融資産の契約上の権利を行使したとき、権利を喪失したとき又は権利に対する支配が他に移転したときになされる。金融資産の契約上の権利に対する支配が他に移転するのは、（ ）譲渡された金融資産に対する譲渡人の契約上の権利が譲渡人及びその債権者から法的に保全され、（ ）譲受人が譲渡された金融資産の契約上の権利を直接又は間接に通常の方法で享受でき、（ ）譲渡人が譲渡した金融資産を当該金融資産の満期前に買戻す権利及び義務を実質的に有していない場合である。

金融保証

IFRS第9号「金融商品」では、金融保証契約は当初、公正価値で認識される。金融保証契約はその後、IFRS第9号「金融商品」により算定した損失評価引当金の金額と当初認識額からIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の原則に従って認識した収益の累計額（該当があれば）を控除した金額のうち、いずれか高い方の金額で測定される。

日本では、金融保証契約は、金融資産又は金融負債の消滅の認識の結果生じるものを除いて時価では計上されず、財務書類において注記として開示される。

金融資産の分類及び測定

IFRS第9号では、金融資産の分類及び測定は、それらの管理方法（企業の事業モデル）及び契約上のキャッシュ・フローの特性により異なる。これらの要因により、償却原価、その他の包括利益を通じて公正価値（「FVOCI」）又は純損益を通じて公正価値（「FVTPL」）のいずれかにより金融資産が測定されるかが決定される。

日本では、金融資産は、原則として法的形態をベースに、有価証券、債権、金銭の信託、デリバティブなどに分類して規定が定められている。さらに、有価証券については、売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社及び関連会社株式、その他有価証券に分類される。

貸倒引当金（貸付金等の減損引当金）

IFRS第9号では、減損損失の認識に関して、予想信用損失（以下、「ECL」という。）モデルが導入され、当初認識以降の信用の質の変化に基づく3段階の減損モデルが使用されている。資産は信用の質の変化に応じて3つのステージを移動し、そのステージにより、企業がどのように減損損失を測定し、実効金利法を適用するかが決まる。この3段階アプローチにおいては、各報告日において、ある金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大していない場合には、当該金融商品に係る損失評価引当金を12ヶ月のECLに等しい金額で測定しなければならない。各報告日において、ある金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大している場合には、企業は当該金融商品に係る損失評価引当金を、12ヶ月のECLではなく全期間のECLに等しい金額で測定しなければならない。

信用リスク評価とECLの見積りは、偏りがなく確率加重された金額を反映した、また、これらの評価に関連する報告日において過大なコストや労力を掛けずに利用可能な、過去の事象、現在の状況及び将来の経済状況の予測についての合理的で裏付け可能な情報を組み込んだものでなければならない。加えて、ECLの見積りでは貨幣の時間価値も考慮すべきである。

日本では、債権区分に応じて以下の方法により貸倒見積額を算定する。一般債権については、債権の状況に応じて求めた過去の貸倒実績率等合理的な基準により貸倒見積高を算定する。貸倒懸念債権については、債権の状況に応じて、債権の帳簿価額から担保の処分見込額及び保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態及び経営成績を考慮して貸倒見積高を算定するか、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、債権の元本及び利息を当初の約定利子率で割り引いた金額の総額と債権の帳簿価額との差額を貸倒見積高とする。破産更生債権等については、債権の帳簿価額から担保の処分見込額及び保証による回収見込額を減額し、その残額を貸倒見積高とする。

リース（2019年1月1日より発効）

IFRS第16号「リース」は、単一の借手会計モデルを提供しており、リース期間が12ヶ月以下又は原資産が少額の場合を除き、すべてのリースについて借手が資産と負債を認識することを求めている。

日本の会計基準においては、リース取引はオペレーティング・リース及びファイナンス・リースに分類される。ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行う。オペレーティング・リース取引は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行う。ファイナンス・リース取引とは、解約不能かつフルペイアウトの要件を満たすものをいい、ファイナンス・リース取引に該当するかどうかについてはその経済的実質に基づいて判断すべきものであるが、解約不能リース期間が、リース物件の経済的耐用年数の概ね75%以上又は解約不能のリース期間中のリース料総額の現在価値が、リース物件を借手が現金で購入するものと仮定した場合の合理的見積金額の概ね90%以上のいずれかに該当する場合は、ファイナンス・リースと判定され、通常の売買取引に係る方法に準じて、リース物件及びこれに係る債務をリース資産及びリース債務として借手の財務諸表に計上する。

第 7 【外国為替相場の推移】

日本円とユーロとの間の為替相場は、最近 5 年間に於いて、2 以上の日刊新聞紙に掲載されているため、本項の記載を省略する。

第8 【本邦における提出会社の株式事務等の概要】

該当事項なし

第9 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社により発行された有価証券は日本の金融商品取引所に上場していないため、該当事項はない。

2 【その他の参考情報】

当社が最近事業年度の開始日から本書提出日までの間において提出した金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類及びその提出年月日は、以下のとおりである。

書類名	提出年月日
(1) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成30年4月18日関東財務局長に提出
(2) 有価証券報告書及びその添付書類	平成30年7月30日関東財務局長に提出
(3) 訂正発行登録書及びその添付書類 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成30年7月31日関東財務局長に提出
(4) 訂正発行登録書 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成30年8月10日関東財務局長に提出
(5) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成30年8月22日関東財務局長に提出
(6) 訂正発行登録書及びその添付書類 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成30年9月25日関東財務局長に提出
(7) 訂正発行登録書及びその添付書類 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成30年9月25日関東財務局長に提出
(8) 訂正発行登録書及びその添付書類 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成30年9月25日関東財務局長に提出
(9) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成30年10月11日関東財務局長に提出
(10) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成30年10月11日関東財務局長に提出
(11) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成30年10月11日関東財務局長に提出
(12) 半期報告書及びその添付書類	平成30年12月21日関東財務局長に提出
(13) 訂正発行登録書及びその添付書類 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成31年1月30日関東財務局長に提出
(14) 訂正発行登録書 (平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正)	平成31年2月13日関東財務局長に提出
(15) 発行登録追補書類及びその添付書類	平成31年2月19日関東財務局長に提出

- | | |
|---|---------------------|
| (16) 訂正発行登録書及びその添付書類
(平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正) | 平成31年3月1日関東財務局長に提出 |
| (17) 発行登録追補書類及びその添付書類 | 平成31年3月8日関東財務局長に提出 |
| (18) 訂正発行登録書及びその添付書類
(平成29年9月13日提出の発行登録書の訂正) | 平成31年4月26日関東財務局長に提出 |
| (19) 発行登録追補書類及びその添付書類 | 令和元年5月22日関東財務局長に提出 |
| (20) 発行登録書及びその添付書類 | 令和元年8月5日関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

第1 【保証会社情報】

該当事項なし

第２ 【保証会社以外の会社の情報】

１ 【当該会社の情報の開示を必要とする理由】

当社が発行した債券の所持人は、トヨタ自動車とTFSとの間の2000年７月14日付のクレジット・サポート・アグリーメント及び2000年８月７日付のTFSと当社との間のクレジット・サポート・アグリーメント（両契約とも日本法に準拠する。）（以下「クレジット・サポート・アグリーメント」と総称する。）による利益を享受することができる。クレジット・サポート・アグリーメントによる利益を享受する証券の所持人は、当該所持人が、請求書にクレジット・サポート・アグリーメントに基づき付与された権利を行使することを明示した書面を添えて提出することにより、TFS及びトヨタ自動車に対して直接請求する権利を有する。TFS及び／又はトヨタ自動車がそのような請求を当該証券のいずれかの所持人から受領した場合には、TFS及び／又はトヨタ自動車は、当該所持人に対し、TFS及び／又はトヨタ自動車がクレジット・サポート・アグリーメントに基づく自己の債務の履行を怠ったために生じた損失又は損害を（当該所持人がいかなる行為又は手続をとることも要さず）直ちに補償する。請求を行った所持人は、その上で、直接TFS及び／又はトヨタ自動車に対して補償債務の強制執行を行うこともできる。トヨタ自動車のトヨタ自動車クレジット・サポート・アグリーメントに基づく債務は、直接、無条件、非劣後かつ無担保の債務と同順位である。

2 【継続開示会社たる当該会社に関する事項】

トヨタ自動車は、継続開示会社である。

(1) 当該会社が提出した書類

イ．有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（平成31年3月期） 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
令和元年6月21日、関東財務局長に提出。

ロ．四半期報告書又は半期報告書

四半期報告書

令和2年3月期第1四半期 自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日
令和元年8月9日、関東財務局長に提出。

ハ．臨時報告書

該当事項なし

ニ．訂正報告書

該当事項なし

(2) 上記書類を縦覧に供している場所

名 称	所 在 地
トヨタ自動車株式会社 本社	愛知県豊田市トヨタ町1番地
株式会社東京証券取引所	東京都中央区日本橋兜町2番1号
株式会社名古屋証券取引所	名古屋市中区栄三丁目8番20号

[次へ](#)

(3) 事業の概況及び主要な経営指標等の推移

イ．事業の概況

トヨタ自動車およびその関係会社（子会社608社（変動持分事業体を含む）および関連会社201社（2019年3月31日現在）により構成）においては、自動車事業を中心に、金融事業およびその他の事業を行っている。

なお、次の3つに区分された事業はトヨタ自動車が令和元年6月21日に提出した有価証券報告書「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記26」に掲げる事業別セグメント情報の区分と同様である。

自動車 当事業においては、セダン、ミニバン、2BOX、スポーツユーティリティビークル、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を行っている。自動車は、トヨタ自動車、日野自動車(株)およびダイハツ工業(株)が主に製造しているが、一部については、トヨタ車体(株)等に生産委託しており、海外においては、トヨタ モーター マニュファクチャリング ケンタッキー(株)等が製造している。自動車部品は、トヨタ自動車および(株)デンソー等が製造している。これらの製品は、国内では、東京トヨペット(株)等の全国の販売店を通じて顧客に販売するとともに、一部大口顧客に対してはトヨタ自動車が直接販売を行っている。一方、海外においては、米国トヨタ自動車販売(株)等の販売会社を通じて販売している。自動車事業における主な製品は次のとおりである。

主な製品の種類
L S、R X、クラウン、カローラ、R A V 4、ハイラックス、ヴィッツ、カムリ、C - H R、ハイランダー、タコマ、ランドクルーザー、ハイエース、プリウス、アクア、シエンタ、ヴォクシー、ルーミー、タンク、プロフィア、タント ほか

金融 当事業においては、主としてトヨタ自動車およびその関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両のリース事業を行っている。国内では、トヨタファイナンス(株)等が、海外では、トヨタ モーター クレジット(株)等が、これらの販売金融サービスを提供している。

その他 その他の事業では、住宅の設計、製造および販売、情報通信事業等を行っている。住宅は、主にトヨタホーム(株)、ミサワホーム(株)、ならびにその関係会社が製造、販売を行っている。

ロ．主要な経営指標等の推移

(１) 連結経営指標等

決算期	2015年３月期	2016年３月期	2017年３月期	2018年３月期	2019年３月期
売上高 (百万円)	27,234,521	28,403,118	27,597,193	29,379,510	30,225,681
税金等調整前当期純利益 (百万円)	2,892,828	2,983,381	2,193,825	2,620,429	2,285,465
当社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,173,338	2,312,694	1,831,109	2,493,983	1,882,873
包括利益 (百万円)	3,294,275	1,517,486	1,966,650	2,393,256	1,936,602
純資産 (百万円)	17,647,329	18,088,186	18,668,953	19,922,076	20,565,210
総資産 (百万円)	47,729,830	47,427,597	48,750,186	50,308,249	51,936,949
１株当たり株主資本 (円)	5,334.96	5,513.08	5,887.88	6,438.65	6,830.92
基本１株当たり 当社普通株主に 帰属する当期純利益 (円)	688.02	741.36	605.47	842.00	650.55
希薄化後１株当たり 当社普通株主に 帰属する当期純利益 (円)	687.66	735.36	599.22	832.78	645.11
株主資本比率 (%)	35.2	35.3	35.9	37.2	37.3
株主資本当社普通株主に 帰属する当期純利益率 (%)	13.9	13.8	10.6	13.7	9.8
株価収益率 (倍)	12.2	8.0	10.0	8.1	10.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,685,753	4,460,857	3,568,488	4,223,128	3,766,597
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,813,490	3,182,544	2,969,939	3,660,092	2,697,241
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	306,045	423,571	375,165	449,135	540,839
現金及び現金同等物並び に拘束性現金期末残高 (百万円)	2,284,557	2,939,428	3,149,326	3,219,639	3,706,515
従業員数 (人) [外、平均臨時雇用人員]	344,109 [85,848]	348,877 [86,843]	364,445 [86,005]	369,124 [84,731]	370,870 [87,129]

(注) １ トヨタ自動車の連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成している。

２ 売上高は消費税等を含まない。

３ 2019年３月期より、キャッシュ・フロー計算書に関する新たな指針を適用した。この指針の適用により、2017年３月期および2018年３月期の「営業活動によるキャッシュ・フロー」「現金及び現金同等物並びに拘束性現金期末残高」は組替えが行われ再表示されており、拘束性現金（拘束性現金同等物を含む）が含まれている。

(2) トヨタ自動車の経営指標等

回次	第111期	第112期	第113期	第114期	第115期
決算期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高 (百万円)	11,209,414	11,585,822	11,476,343	12,201,443	12,634,439
経常利益 (百万円)	2,125,104	2,284,091	1,801,736	2,238,140	2,323,121
当期純利益 (百万円)	1,690,679	1,810,370	1,529,911	1,859,312	1,896,824
資本金 (百万円)	397,049	635,401	635,401	635,401	635,401
発行済株式総数					
普通株式 (千株)	3,417,997	3,337,997	3,262,997	3,262,997	3,262,997
A A型種類株式 (千株)		47,100	47,100	47,100	47,100
純資産額 (百万円)	10,184,271	10,859,443	11,365,784	12,040,947	12,450,274
総資産額 (百万円)	15,128,623	16,100,209	16,592,167	17,209,436	17,716,993
1株当たり純資産額 (円)	3,235.44	3,417.07	3,659.40	3,972.72	4,225.55
1株当たり配当額					
普通株式 (円)	200	210	210	220	220
(うち1株当たり 中間配当額)	(75)	(100)	(100)	(100)	(100)
第1回A A型種類株式 (円)		52	105	158	211
(うち1株当たり 中間配当額)	()	(26.0)	(52.5)	(79.0)	(105.5)
1株当たり当期純利益 (円)	535.22	581.08	506.96	628.31	657.10
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	534.95	575.64	500.65	620.85	649.89
自己資本比率 (%)	67.3	67.4	68.5	70.0	70.3
自己資本利益率 (%)	17.8	17.2	13.8	15.9	15.5
株価収益率 (倍)	15.7	10.2	11.9	10.9	9.9
配当性向 (%)	37.4	36.1	41.4	35.0	33.5
従業員数 (人)	70,037	72,721	73,875	74,890	74,515
[外、平均臨時雇用人員]	[9,947]	[10,371]	[10,700]	[10,905]	[11,122]
株主総利回り (%)	147.3	109.2	114.3	131.6	129.5
(比較指標： 配当込みTOPIX)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価 (円)	8,741	8,637	7,156	7,782	7,592
最低株価 (円)	5,314	5,710	4,975	5,695	6,079

(注) 1 売上高は消費税等を含まない。

2 『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を第115期から適用しており、第114期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっている。

3 株主総利回りは、次の算式により算出している。

$$\text{株主総利回り}(\%) = \frac{\text{各事業年度末日の株価} + \text{当事業年度の4事業年度前から各事業年度までの1株当たり配当額の累計額}}{\text{当事業年度の5事業年度前の末日の株価}}$$

4 株価は、普通株式の東京証券取引所（市場第1部）の市場相場である。なお、第1回A A型種類株式は非上場株式であるため、該当事項はない。

3 【継続開示会社に該当しない当該会社に関する事項】

TFSは、継続開示会社に該当しない会社である。

会社名・代表者の役職氏名及び本店の所在の場所

会 社 名 トヨタファイナンシャルサービス株式会社

代表者の役職氏名 取締役社長 福留 朗裕

本店の所在の場所 愛知県名古屋市西区牛島町 6 番 1 号

[次へ](#)

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

決算期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高 (百万円)	1,645,393	1,880,183	1,812,554	1,978,884	2,141,906
経常利益 (百万円)	367,586	330,190	215,447	280,769	313,306
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	235,090	232,719	148,687	509,930	222,308
包括利益 (百万円)	383,235	82,594	117,191	439,270	267,214
純資産額 (百万円)	2,091,538	2,173,667	2,291,850	2,733,310	2,893,403
総資産額 (百万円)	22,079,002	21,379,657	22,188,626	22,636,927	23,660,621
1株当たり純資産額 (円)	1,319,596.49	1,372,219.52	1,444,732.41	1,721,667.31	1,816,366.85
1株当たり当期純利益金額 (円)	149,691.36	148,181.83	94,674.94	324,692.91	141,552.90
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	9.4	10.1	10.2	11.9	12.1
自己資本利益率 (%)	12.5	11.0	6.7	20.5	8.0
株価収益率 (倍)					
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)					
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)					
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	9,463 (1,380)	9,670 (1,536)	10,172 (1,548)	10,364 (1,450)	10,634 (1,540)

(注) 1 売上高は消費税等を含まない。

2 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を記載していない。

3 非上場である為、株価収益率を記載していない。

4 連結キャッシュ・フロー計算書については記載を省略している為、「営業活動によるキャッシュ・フロー」、「投資活動によるキャッシュ・フロー」、「財務活動によるキャッシュ・フロー」及び「現金及び現金同等物の期末残高」を記載していない。

5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。

(2) トヨタファイナンシャルサービス株式会社の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

決算期	2015年 3 月期	2016年 3 月期	2017年 3 月期	2018年 3 月期	2019年 3 月期
売上高 (百万円)	114,146	41,846	39,854	58,411	75,532
経常利益 (百万円)	107,950	30,975	28,947	47,297	63,027
当期純利益 (百万円)	101,148	27,192	26,160	42,983	57,665
資本金 (百万円)	78,525	78,525	78,525	78,525	78,525
発行済株式総数 (株)	1,570,500	1,570,500	1,570,500	1,570,500	1,570,500
純資産額 (百万円)	532,181	556,311	581,408	624,560	580,459
総資産額 (百万円)	542,196	562,541	589,136	633,111	586,472
1 株当たり純資産額 (円)	338,861.06	354,225.54	370,206.23	397,682.51	369,601.93
1 株当たり配当額 (うち 1 株当たり 中間配当額) (円)					63,674.00 (63,674.00)
1 株当たり当期純利益 金額 (円)	64,405.56	17,314.84	16,657.31	27,369.48	36,717.92
潜在株式調整後 1 株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	98.2	98.9	98.7	98.6	99.0
自己資本利益率 (%)	21.0	5.0	4.6	7.1	9.6
配当性向 (%)					173.4
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	87 (14)	86 (17)	79 (18)	73 (16)	85 (14)

(注) 1 売上高は消費税等を含まない。

2 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額を記載していない。

3 非上場である為、株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価の記載を省略している。

2 沿革

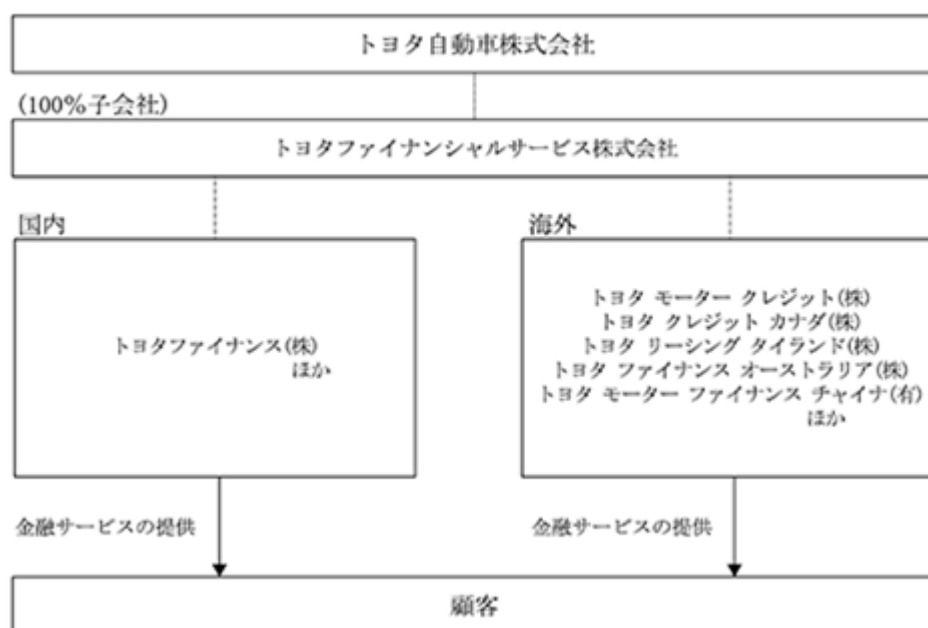
- ・トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下、T F S)は、トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)の100%出資で、トヨタの金融事業の競争力強化と意思決定の迅速化を図ることを目的に国内外の金融子会社を傘下に置く統括会社として2000年7月に設立された。

年	概要
1982年	・トヨタ ファイナンス オーストラリア株式会社〔現 連結子会社〕(オーストラリア)設立 トヨタの販売金融サービスの世界展開開始
1987年	・トヨタ モーター クレジット株式会社〔現 連結子会社〕(米国)設立
1988年	・トヨタ モーター ファイナンス(ネザーランズ)株式会社〔現 連結子会社〕(オランダ)設立 ・トヨタ クレジットバンク有限会社〔現 連結子会社〕(ドイツ)設立 ・トヨタファイナンス株式会社〔現 連結子会社〕(日本)設立 ・トヨタ モーター ファイナンス(UK)株式会社〔現トヨタ ファイナンシャル サービス(UK)株式会社:連結子会社〕(英国)設立
1989年	・トヨタ ファイナンス ニュージーランド株式会社〔現 連結子会社〕(ニュージーランド)設立
1990年	・トヨタ クレジット カナダ株式会社〔現 連結子会社〕(カナダ)設立
1993年	・トヨタ リーシング タイランド株式会社〔現 連結子会社〕(タイ)設立
1996年	・トヨタ クレジット プエルト・リコ株式会社〔現 連結子会社〕(プエルト・リコ)設立
1999年	・バンコ トヨタ ブラジル株式会社〔現 連結子会社〕(ブラジル)設立
2000年	・トヨタ バンク ポーランド株式会社〔現 連結子会社〕(ポーランド)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ株式会社〔現 持分法適用会社〕(南アフリカ)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス チェコ有限会社〔現 連結子会社〕(チェコ)設立 ・主にトヨタ自動車株式会社が保有する販売金融子会社株式の現物出資により、 トヨタファイナンシャルサービス株式会社設立
2001年	・トヨタ ファイナンス フィンランド株式会社〔現 連結子会社〕(フィンランド)の株式取得 ・トヨタ サービス デ ベネズエラ株式会社〔現 連結子会社〕(ベネズエラ)設立 ・トヨタ サービス デ メキシコ株式会社〔現トヨタ ファイナンシャル サービス メキシコ株式会社:連結子会社〕(メキシコ)設立 ・Seabanc GE キャピタル株式会社〔現トヨタ キャピタル マレーシア株式会社:連結子会社〕(マレーシア)の株式取得
2002年	・トヨタ ファイナンシャル サービス デンマーク株式会社〔現 連結子会社〕(デンマーク)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス ハンガリー株式会社〔現 連結子会社〕(ハンガリー)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン株式会社〔現 連結子会社〕(フィリピン)設立 ・和潤企業株式会社〔現 持分法適用会社〕(台湾)の株式取得
2004年	・トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン株式会社〔現 連結子会社〕(アルゼンチン)設立
2005年	・トヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限会社〔現 連結子会社〕(中国)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス スロバキア有限会社〔現 連結子会社〕(スロバキア)設立 ・トヨタ ファイナンシャル サービス コリア株式会社〔現 連結子会社〕(韓国)設立
2006年	・PT KDLC バンクバリ ファイナンス株式会社〔現トヨタ アストラ ファイナンシャル サービス株式会社:持分法適用会社〕(インドネシア)の株式取得
2007年	・トヨタ バンク ロシア株式会社〔現 連結子会社〕(ロシア)設立
2008年	・トヨタ ファイナンシャル サービス ベトナム有限会社〔現 連結子会社〕(ベトナム)設立
2011年	・トヨタ ファイナンシャル サービス インディア株式会社〔現 連結子会社〕(インド)設立
2013年	・トヨタファイナンシャルサービス カザフスタン有限会社〔現 連結子会社〕(カザフスタン)設立
2017年	・トヨタ ファイナンシャル サービス アイルランド株式会社〔現 連結子会社〕(アイルランド)設立
2018年	・トヨタファイナンシャルサービス イタリア株式会社〔現 連結子会社〕(イタリア)設立
2019年	・株式会社K I N T O〔現 連結子会社〕(日本)設立 ・M O B I L O T S株式会社〔現 連結子会社〕(日本)設立

3 事業の内容

- ・ T F S グループは、T F S、国内外の連結子会社55社及び持分法適用会社 7 社で構成され、トヨタの製品に関する販売金融サービスを中心に事業展開している。「第 5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 セグメント情報等 セグメント情報」に記載のとおり、T F S グループの提供する金融サービスは、主に、自動車ローン及びリースの提供、販売店への資金の貸付、保険仲介等の販売金融事業である。
- ・ 日本においては、トヨタファイナンス株式会社が、北米地域においては、トヨタ モーター クレジット株式会社及びトヨタ クレジット カナダ株式会社が、タイにおいては、トヨタ リーシング タイランド株式会社が、その他の地域においては、トヨタ ファイナンス オーストラリア株式会社及びトヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限会社等が展開しており、現在、世界37の国・地域で顧客への販売金融サービスの提供を行っている。
- ・ T F S の主な事業内容は、これら金融事業の企画・戦略の立案、関係各社の収益管理・リスク管理、金融事業の効率化推進等である。

(関係会社系統図)



4 関係会社の状況

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(親会社)					
トヨタ自動車(株)(注)2	愛知県 豊田市	(百万円) 635,401	自動車の 製造・販売	被所有 100	役員の兼任...有 資金の預入 設備等の賃借等
(連結子会社)					
トヨタファイナンス(株) (注)1, 2	愛知県 名古屋市	(百万円) 16,500	トヨタ製品にかか る販売金融	所有 100	役員の兼任...有
トヨタ モーター クレジット(株)(注)1, 2, 4	Plano, Texas, U.S.A.	(千米ドル) 915,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100 (100)	役員の兼任...有
トヨタ モーター インシュランス サービス(株) (注)1	Plano, Texas, U.S.A.	(米ドル) 10,000	トヨタ関連の保険 代理店業務	100 (100)	役員の兼任...有
トヨタ クレジット カナダ(株)(注)1	Markham, Ontario, Canada	(千加ドル) 60,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...有
トヨタ クレジットバンク(有)	Cologne, Germany	(千ユーロ) 30,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...無
トヨタ モーター ファイナンス(ネザーランズ)(株) (注)2	Amsterdam, Netherlands	(千ユーロ) 908	トヨタグループ会 社への資金調達支 援	100	役員の兼任...無
トヨタ ファイナンシャル サービス(UK)(株)(注)1	Epsom, Surrey, United Kingdom	(千英ポンド) 119,800	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...無
トヨタ ファイナンス オーストラリア(株)(注)1, 2	St Leonards, New South Wales, Australia	(千豪ドル) 120,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...有
トヨタ リーシング タイランド(株)(注)1	Bangkok, Thailand	(百万タイ・ パーツ) 15,100	トヨタ製品にかか る販売金融	86.8 (0.1)	役員の兼任...無
トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)(注)1	中国 北京	(千円) 3,100,000	トヨタ製品にかか る販売金融	100	役員の兼任...有
その他 45社					
(持分法適用関連会社)					
トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ(株)	Sandton, Gauteng, South Africa	(南アフリカ・ ランド) 4,695	トヨタ製品にかか る販売金融	33.3 (33.3)	役員の兼任...無
和潤企業(株)	台湾 台北	(千台湾ドル) 3,746,104	トヨタ製品にかか る販売金融	33.3	役員の兼任...無
その他 5社					

- (注) 1 特定子会社に該当する。なお、(連結子会社)その他に含まれる会社のうち特定子会社に該当する会社は、トヨタ
ファイナンシャルサービス インターナショナル(株)、トヨタ バンク ロシア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービ
ス インディア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン(株)及びトヨタファイナンシャルサービス イタ
リア(株)である。
- 2 有価証券報告書を提出している。
- 3 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数。
- 4 トヨタ モーター クレジット(株)については売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合
が10%を超えているが、有価証券報告書を提出しているため、主要な損益情報等の記載を省略している。

5 従業員の状況

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
日本	1,977
北米	3,370
タイ	1,215
その他	3,987
全社(共通)	85
合計	10,634 (1,540)

- (注) 1 従業員数については、就業人員(T F Sグループからグループ外への出向者を除き、グループ外からT F Sグループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載している。
- 2 全社(共通)は、T F Sに所属している従業員である。

(2) トヨタファイナンシャルサービス株式会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
85 (14)	45.1	7.5	10,598

- (注) 1 従業員数については、就業人員(T F Sから社外への出向者を除き、社外からT F Sへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載している。
- 2 平均年間給与額は、基準外賃金及び賞与を含む。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はない。

第2 事業の状況

1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

自動車産業は、電動化・自動運転・MaaSの広がりなど100年に一度の大変革の時代を迎えている。T F Sグループは、お客様に移動の自由による喜びを感じていただくよう、お客様のニーズ・ライフスタイルや地域特性に対応したサービスを提供し、T F Sの使命である「トヨタのお客様を中心に、健全な金融サービスを提供し、豊かな生活に貢献する」ことを目指している。また、新たな価値を創造する「未来への挑戦」と、毎年着実に“真の競争力”を強化する「年輪的成長」を方針に掲げ、以下の課題に取り組むことで持続可能な成長を実現したいと考えている。

- (1) 自動車・販売金融一体となった事業戦略の策定、戦略的連携の強化
- (2) 販売金融事業を取り巻くリスク管理手法・体制の強化
- (3) 資金調達の多様化と緊急時の流動性確保
- (4) 生産性、効率性、収益性の向上
- (5) 車両トータルライフの収益機会の取り込み
- (6) モビリティサービスの事業化
- (7) お客様ニーズに適合したデジタル化推進
- (8) 人材育成の強化

2 事業等のリスク

T F Sグループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性のあるリスクについて、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる事項を以下に記載している。但し、以下はT F Sグループに関する全てのリスクを網羅したのではなく、記載されたリスク以外のリスクも存在する。かかるリスク要因のいずれも、投資家の判断に影響を及ぼす可能性がある。

本項においては、将来に関する事項が含まれているが、当該事項は本書提出日現在において判断したものである。

(1) 財政状態及び経営成績の異常な変動

損益関連

トヨタ・レクサス車の販売減少に伴い、T F Sグループの融資件数や金融債権残高が減少する可能性がある。

ディストリビューターと契約する特別プログラムの内容が変化することにより、収益が減少又は費用が増加する可能性がある。

現地の商業銀行など他金融機関との融資レートの競争により、利鞘が縮小するリスクがある。

格付け機関によるトヨタ及びT F Sグループの格付け変更ならびに将来の格付けに対する見通し変更や、展開国・地域における資金調達環境の変化などにより、調達可能資金量に制約を受け、T F Sグループの融資件数や金融債権残高が減少する可能性がある。

リスクヘッジのためデリバティブを使用しているが、デリバティブは各期末において時価評価され、その結果生じる評価損益が損益計算書に計上されるため、損益計算書に計上される売上原価がデリバティブ評価損益の影響を強く受ける可能性がある。

格付け機関によるトヨタ及びT F Sグループの格付け変更ならびに将来の格付けに対する見通し変更や、展開国・地域における市場金利の上昇などの資金調達環境の変化、資金調達・リスクヘッジのタイミング・規模・市場選択の巧拙などにより、資金調達コストが上昇するリスクがある。

デリバティブ取引においてカウンターパーティが倒産することにより、債権を回収できないリスクがある。

T F Sグループが契約しているクレジットサポートアグリーメントあるいは保証・コンフォートレターの履行リスクがある。

リース終了時の車両価格の下落や返却されるリース車両の増加などの要因により、残価関連費用が増加するリスクがある。また、融資先の信用力の悪化により、貸倒関連費用が増加するリスクがある。

オペレーショナル・リスク

窃盗・詐欺・情報漏洩・事務ミス・適切な内部管理や事務プロセスの不備など、故意または過失による人為的事故により、損失が発生するリスクがある。

為替リスク

ＴＦＳグループは、国内外30以上の国・地域で販売金融事業を展開している。各国・地域における売上、費用、資産など現地通貨建ての項目は、連結財務諸表作成のために円換算されている。換算時の為替レートの変動により、現地通貨における価値が変わらなかったとしても、円換算後の価値が影響を受ける可能性がある。

外部リスク

ＴＦＳグループが展開している国・地域における政治・経済・規制等の変化が各国・地域の経済政策や金融・財政政策に及ぼす影響により、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

ＴＦＳグループが展開している国・地域における戦争・テロ・騒乱、震災・火災・風水害などの災害やパンデミック（感染爆発）といった政治・社会の混乱により、当該国・地域の経済の低迷や、ＴＦＳグループの資産・担保・顧客・従業員などへの被害、トヨタ・レクサス車の生産・販売活動への障害などの事象が発生した場合、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

流動性リスク

大規模な金融システム不安や混乱等により、金融市場における流動性が著しく低下した場合、あるいは、トヨタ及びＴＦＳグループの業績や財務状況の悪化、格付けの低下や風説・風評の流布等が発生した場合には、通常より著しく高い金利による資金調達を余儀なくされる、あるいは、資金繰り運営に支障が生じる可能性がある。その結果、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

システムに関するリスク

自然災害、障害、不正使用、サイバー攻撃などの影響により、ＴＦＳグループ会社が利用するシステムに、誤作動や停止、情報の消失や漏洩等の事象が発生した場合、業務の中断・混乱、損害賠償金の支払い、ＴＦＳグループの社会的信用の失墜等によりＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

コンプライアンスに関するリスク

ＴＦＳグループ会社が法令などに抵触する事態が生じた場合、行政処分や刑事処分（登録や免許の取り消し、課徴金や罰金の命令等）、損害賠償金の支払い、ＴＦＳグループの社会的信用の失墜等によりＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

個人情報管理に関するリスク

ＴＦＳグループは個人情報を取り扱っており、これらの情報について紛失・漏洩等が発生した場合、行政処分、刑事処分、損害賠償金の支払い、ＴＦＳグループの社会的信用の失墜等によりＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

販売金融以外のビジネス

ＴＦＳグループは、法令その他の条件の許す範囲内で、販売金融以外の分野においても事業を行っている。ＴＦＳグループは、販売金融以外の事業範囲に関するリスクについては、相対的に限られた経験しか有していないことがあるため、その運営にあたっては、適切なリスク管理システムを構築し、リスクをモニターすると共に、リスクに見合った自己資本を維持していかなければ、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

(2) 特定の取引先・製品・技術等への依存

ＴＦＳグループの事業はトヨタ・レクサス車の販売に大きく依存している。このため、規制による場合または自主的な場合に関らず、リコール等の改善措置の実施などによりトヨタ・レクサス車の販売や価格に悪影響が生じた場合、ＴＦＳグループの売上や資産が減少しまたは費用が増加する可能性がある。

また、大規模な販売店など特定の法人に対しクレジットエクスポージャーを保有し、その法人の信用力が大幅に低下するかあるいは倒産した場合に、貸倒関連費用が増加する可能性がある。

(3) 特有の法的規制・取引慣行・経営方針

銀行免許を保有しているＴＦＳグループ子会社等に対する自己資本比率などの規制に関する基準や算定方法の変更が行われるリスクがある。

ＴＦＳグループが展開している国・地域における税制の変更や、負債や資本に関する規制などの変更により、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

(4) 重要な訴訟事件等の発生

ＴＦＳグループ会社が当事者となる訴訟事件や法的手続き等で不利な判断がなされた場合、または、それらの訴訟事件や法的手続き等に伴うＴＦＳグループの社会的信用の失墜などが生じた場合、ＴＦＳグループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性がある。

3 経営者による財政状態及び経営成績の状況の分析

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用し、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っている。

(1) 重要な会計方針及び見積り

T F S グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成している。この連結財務諸表の作成に当たっては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債、収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としている。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績や現状を勘案し合理的に判断しているが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合がある。

T F S グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載している。

(2) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度のわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は緩やかに増加し、企業の収益や景況感が良好な水準のもとで、設備投資も増加基調を続けたことから、緩やかに拡大した。海外経済は、米中貿易摩擦や英国のEU離脱交渉の展開などを巡って不確実性が高まったものの、全体では緩やかに成長した。米国経済は拡大、欧州経済は回復傾向が継続、中国経済は一部に弱めの動きがみられたが、総じて安定した成長を継続した。その他の新興国・資源国経済は、輸出の増加や各国での景気刺激策の効果等から、全体としては緩やかに回復した。先行きは、米国通商政策や欧州情勢、中国や新興国の経済等を巡る海外経済の不確実性、これが金融資本市場に及ぼす影響等について留意していく必要がある。

また、自動車市場においては、中国など一部の国で減速感があるものの、先進国が安定的に推移し、新興国では景気回復などを背景に緩やかに拡大した。一方で、環境問題や社会課題への対応、急速な自動化、電動化、コネクティッド、ロボティクスなどの技術革新、さらには、人々のライフスタイルの多様化などにより、100年に一度の大変革の時代を迎えている。

このような環境下、T F S グループは「お客様の利益やニーズを常に第一に考える」企業哲学のもと、金融事業を通じて、お客様の日常生活をサポートし、ひとりでも多くの方々にトヨタファンになっていただくことを目指している。また、トヨタ・レクサス車の販売支援を通じてトヨタグループ全体の企業価値向上に貢献するためには、新たな価値を創造する「未来への挑戦」と、一年一年着実に真の競争力を強化する「年輪的成長」の実現が不可欠と考えている。「未来への挑戦」としては、バリューチェーンの深化、モビリティサービスによる新たなエコシステムの創造・取込みに取り組んでいる。「年輪的成長」としては、お客様のニーズに合わせて、車両販売・カスタマーサービスのデジタル化を推進するとともに、主要事業の自動車ローン・リース、保険などの生産性向上の取り組みを加速させた。

これらの活動の結果、欧州や中国、アジアなど多くの国で業容が拡大した。また、新車融資シェアは約35%、新車融資件数は約282万件と、トヨタ・レクサス車の販売に貢献した。

今後も、トヨタの販売戦略の一翼を持続的に担っていくため、バリューチェーン・モビリティサービスへの取り組み強化を通じた収益力の向上、健全なオペレーション体制および強固な財務体質の構築に取り組んでいく。

以上の結果、当連結会計年度のＴＦＳグループ連結決算は、売上高は２兆１,４１９億円と、前連結会計年度に比べて１,６３０億円の増収となり、残価関連費用の減少などにより、営業利益は２,８１８億円と３２１億円の増益、経常利益は３,１３３億円と３２５億円の増益となったが、親会社株主に帰属する当期純利益は２,２２３億円と２,８７６億円の減益となった。

ＴＦＳ単独決算については、売上高は７５５億円と、前事業年度に比べて１７１億円の増収となり、受取配当金の増加などにより、営業利益は６１５億円と１６８億円の増益、経常利益は６３０億円と１５７億円の増益、当期純利益は５７６億円と１４６億円の増益となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更し、前連結会計年度との比較・分析は変更後の区分により作成した情報に基づいて記載している。

(日本)

売上高は１,７７６億円と、前連結会計年度に比べて１３３億円の増収となったが、ポイント引当金繰入額の増加などにより、営業利益は２４８億円と４０億円の減益となった。

(北米)

売上高は１兆４,９０７億円と、前連結会計年度に比べて１,１７８億円の増収となり、残価関連費用の減少などにより、営業利益は１,３２８億円と２２１億円の増益となった。

(タイ)

売上高は７４３億円と、前連結会計年度に比べて６７億円の増収となり、融資残高の増加などにより、営業利益は２１９億円と９億円の増益となった。

(その他)

売上高は３,９９１億円と、前連結会計年度に比べて２５０億円の増収となり、融資残高の増加などにより、営業利益は１,０４９億円と１２６億円の増益となった。

また、当連結会計年度末におけるＴＦＳグループの財政状態は次のとおりである。

当連結会計年度末の総資産は２３兆６,６０６億円と、前連結会計年度末に比べて１兆２３６億円の増加となった。流動資産は９,５４３億円増加して１８兆４,６４６億円、固定資産は６９３億円増加して５兆１,９５９億円となった。流動資産の増加は営業債権の増加などによるものであり、固定資産の増加は賃貸資産の増加などによるものである。

当連結会計年度末の負債合計は２０兆７,６７２億円と、前連結会計年度末に比べて８,６３６億円の増加となった。流動負債は４,２０５億円増加して１０兆２,８６８億円、固定負債は４,４３０億円増加して１０兆４,８０３億円となった。流動負債の増加は短期借入金、１年以内返済予定の長期借入金の増加などによるものであり、固定負債の増加は社債の増加などによるものである。

当連結会計年度末の純資産合計は２兆８,９３４億円と、前連結会計年度末に比べて１,６００億円の増加となった。この増加は利益剰余金の増加、為替換算調整勘定の変動などによるものである。

営業実績

当連結会計年度の営業実績をセグメントごとに示すと、以下のとおりである。

イ 取扱残高

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	1,627,806	5.5
北米	13,470,340	5.0
タイ	1,275,603	20.2
その他	5,346,897	7.5
合計	21,720,648	6.4

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記取扱高は営業債権、リース債権及びリース投資資産、賃貸資産の期末残高を記載している。
3 上記の金額には消費税等は含まない。

ロ 売上高実績

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	177,645	8.1
北米	1,490,781	8.6
タイ	74,354	10.0
その他	399,125	6.7
合計	2,141,906	8.2

- (注) 1 セグメント間取引については相殺消去している。
2 上記の金額には消費税等は含まない。

4 経営上の重要な契約等

該当事項はない。

5 研究開発活動

該当事項はない。

第3 設備の状況

1 設備投資等の概要

T F S グループでは、顧客とのリース取引に応じるため取得する賃貸資産（車両運搬具、工具器具備品及び機械装置等）が主な対象である。当連結会計年度の賃貸資産の設備投資額は2,147,433百万円であり、主に北米セグメントに係るものである。また、賃貸資産以外の設備投資額は17,589百万円であり、主にソフトウェアに係るものである。

なお、リース終了に伴い通常行われる資産の除却または売却を除き、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はない。

2 主要な設備の状況

T F S グループにおける主たる設備の状況は、次のとおりである。

(1) 賃貸資産の状況

2019年3月31日現在

区分	帳簿価額(百万円)	構成比(%)
オペレーティング・リース資産	4,494,000	100.0
合計	4,494,000	100.0

(注) 1 上記の金額には消費税等を含まない。

2 上記のオペレーティング・リース資産は、主に北米セグメントのリース用の車両である。

(2) 社用設備及び賃貸目的以外の事業用設備の状況

1) トヨタファイナンシャルサービス株式会社の状況

重要なものはない。

2) 国内子会社の状況

2019年3月31日現在

子会社 (主な所在地)	セグメント の名称	主な設備 の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物	ソフト ウェア	その他	合計	
トヨタファイナンス㈱ (愛知県名古屋市)	日本	業務施設	959	11,442	388	12,789	1,948 (291)

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具器具備品を含んでいる。

2 上記の子会社には、上表のほか、リース契約に基づく賃借資産があるが、重要性がないため記載を省略している。

3 上記の金額には消費税等を含まない。

4 従業員数の()は臨時雇用者数を外数で記載している。

3) 在外子会社の状況

2019年3月31日現在

子会社 (主な所在地)	セグメント の名称	主な設備 の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物	ソフト ウェア	その他	合計	
トヨタ モーター クレジット㈱ (Piano, Texas, U.S.A.)	北米	業務施設	1,328	18,484	2,061	21,874	3,212 (696)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具器具備品を含んでいる。
2 上記の子会社には、上表のほか、オペレーティング・リース取引に係る賃借資産があり、年間賃借料は 2,678 百万円である。
3 上記の金額には消費税等を含まない。
4 従業員数の()は臨時雇用者数を外数で記載している。

3 設備の新設、除却等の計画

(1) 新設等

T F S グループにおける次連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)の賃貸資産の設備投資計画額は、1,884,129百万円であり、主に北米セグメントに係るものである。

また、賃貸資産以外の設備投資計画額は18,942百万円であり、主にソフトウェアに係るものである。

(2) 除却及び売却

リース終了に伴い通常行われる資産の除却または売却を除き、次連結会計年度において重要な設備の除却、売却等の計画はない。

第4 トヨタファイナンシャルサービス株式会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等

株式の総数

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,680,000
計	4,680,000

発行済株式

種類	発行数(株)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,570,500	非上場	(注)1, 2
計	1,570,500		

(注)1 単元株制度は採用していない。

2 株式の譲渡制限に関する規定は次の通りである。

T F Sの発行する全部の株式について、譲渡による当該株式の取得には、取締役会の承認を要する。

(2) 新株予約権等の状況

ストックオプション制度の内容

該当事項はない。

ライツプランの内容

該当事項はない。

その他の新株予約権等の状況

該当事項はない。

(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等

該当事項はない。

(4) 発行済株式総数、資本金等の推移

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2004年7月15日 (注)1	70,000	1,570,500	3,500	78,525	3,500	78,525

(注)1 株主割当 1,500,500 : 70,000 70,000株

発行価格 100,000円

資本組入額 50,000円

(5) 所有者別状況

(2019年3月31日現在)

区分	株式の状況							単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計
					個人以外	個人		
株主数(人)				1				1
所有株式数(株)				1,570,500				1,570,500
所有株式数の割合(%)				100.00				100.00

(6) 大株主の状況

(2019年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	1,570,500	100.00
計		1,570,500	100.00

(7) 議決権の状況

発行済株式

(2019年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式1,570,500	1,570,500	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,570,500		
総株主の議決権		1,570,500	

自己株式等

該当事項はない。

2 自己株式の取得等の状況

[株式の種類等]

該当事項はない。

(1) 株主総会決議による取得の状況

該当事項はない。

(2) 取締役会決議による取得の状況

該当事項はない。

(3) 株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容

該当事項はない。

(4) 取得自己株式の処理状況及び保有状況

該当事項はない。

3 配当政策

T F S は、配当については、財務体質の強化、金融事業の新規展開に必要な内部留保を確保しつつ、業績に裏付けされた利益の配分を年 1 回行うことを基本方針としている。これらの利益の配分の決定機関は、株主総会である。また、T F S は取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨を定款に定めている。

第19期（2019年3月期）は、上記方針に基づき、普通株式の中間配当として1株当たり63,674円を配当した。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりである。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年3月18日 取締役会決議	100,000	63,674

4 コーポレート・ガバナンスの状況等

(1) コーポレート・ガバナンスの概要

会社機関の内容

T F S は、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関及び監督機関として取締役会、業務執行機関として代表取締役、監査機関として監査役、という会社法上規定されている株式会社の機関制度を基本としている。

本書提出日現在、取締役会は取締役 8 名で構成され、T F S の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督している。

また、監査役制度（監査役 3 名）を採用している。監査役間での緊密な連携や分担を目的に監査役協議会を設置し、当該会議での意見交換を通じて策定された監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要会議への出席や、業務執行状況の調査等を通じて、取締役の職務遂行について厳正な監査を行っている。

内部統制システムの状況

T F S は金融事業に内在するリスクの顕在化を予防するため、T F S グループ各社に対して、社内組織・諸規則の整備・運用、役職員の教育、各種報告・チェック体制の強化を求めるとともに、効率的・効果的な内部監査を推進するグローバル監査体制を構築している。具体的には監査体制をT F S、地域統括本部、各子会社等の三層に区分し、各層の内部監査人が各担当領域の内部監査を実施している。各層間で責任を分担するとともに、状況に応じて各層間で協力して監査やトレーニングを実施することにより、T F S グループ全体としての監査の効率化を図っている。

また、米国企業改革法第404条に基づく内部統制の評価については、主要子会社に対し、財務報告に影響を与える可能性のある業務処理体制・基準・手順について、その整備・文書化・評価等の実施を徹底している。

リスク管理体制の状況

T F S、地域統括本部、子会社等の各レベルで各種リスクを管理している。また、全社レベルでビジネスリスク全般を監視する「エンタープライズ・リスク・コミッティ」に加え、専門分野毎に「ファンクショナル・コミッティ」などを設置して、様々なリスクを管理するとともに、管理手法の高度化やグローバル展開に取り組んでいる。

役員報酬の内容

T F S の取締役に対する報酬の内容は、年間報酬総額93百万円（うち、社外取締役 百万円）である。また、監査役に対する報酬の内容は、年間報酬総額45百万円（うち、社外監査役 百万円）である。

取締役の定数

T F S の取締役は13名以内とする旨定款に定めている。

取締役の選任の決議要件

T F S の取締役の選任は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めている。

また、取締役の選任は累積投票によらないものとする旨を定款で定めている。

株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項

イ 株主に株式の割当を引き受ける権利を与える場合の決定機関

ＴＦＳは、会社法第199条第１項の募集において、株主に株式の割当を引き受ける権利を与える場合には、募集事項及び同法第202条第１項各号に掲げる事項を取締役会の決議により定められる旨を定款で定めている。

ロ 中間配当の決定機関

ＴＦＳは、会社法第454条第５項に定める剰余金の配当について、取締役会の決議により行うことができる旨を定款に定めている。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものである。

(2) 役員の状況

役員一覧

男性11名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 取締役社長	福 留 朗 裕	1963年1月1日生	1985年4月 株式会社三井銀行 (現 株式会社三井住友銀行) 入社 2015年4月 株式会社三井住友銀行 常務執行役員 就任 2018年1月 トヨタ自動車株式会社 常務役員 “ 2018年1月 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役社長(現任) “ 2018年1月 トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) “ 2018年1月 トヨタファイナンスサービス イン ターナショナル株式会社 取締役会長(現任) “	(注) 1	なし
取締役上級副社長	小 寺 信 也	1962年3月1日生	1984年4月 トヨタ自動車株式会社 入社 2013年4月 同社 常務役員 就任 2018年1月 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役上級副社長(現任) “ 2018年6月 トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) “ 2019年2月 株式会社K I N T O 取締役社長(現任) “	(注) 1	なし
取締役	マーク テンプリン	1961年1月2日生	1990年1月 米国トヨタ自動車販売株式会社 入社 2013年4月 トヨタ自動車株式会社 常務役員 就任 2016年4月 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “ 2016年4月 トヨタ ファイナンス サービス アメリカ株式会社(現 トヨタファイ ナンスサービス インターナシ ョナル株式会社) 取締役社長(現任) “ 2016年5月 トヨタ モーター クレジット 株式会社 取締役会長 “ 2018年9月 同社 取締役社長(現任) “ 2018年9月 トヨタ モーター インシュランス サービス株式会社 取締役社長(現任) “ 2018年9月 トヨタ クレジット カナダ株式会社 取締役会長(現任) “	(注) 1	なし
取締役	西 利 之	1961年4月23日生	1985年4月 トヨタ自動車株式会社 入社 2017年4月 同社 常務役員 就任 2018年1月 トヨタ東京カローラ株式会社(現 ト ヨタモビリティ東京株式会社) 取締役社長 “ 2019年4月 トヨタモビリティ東京株式会社 取締役 “ 2019年6月 トヨタファイナンス株式会社 取締役社長(現任) “ 2019年6月 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “	(注) 1	なし

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	小 林 耕 士	1948年10月23日生	1972年 4 月 2001年 6 月 2004年 6 月 2007年 6 月 2010年 6 月 2015年 6 月 2018年 1 月 2018年 1 月 2018年 1 月 2018年 6 月 2018年 6 月	トヨタ自動車工業株式会社 (現 トヨタ自動車株式会社) 入社 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役 就任 株式会社デンソー 常務役員 “ 同社 専務取締役 “ 同社 取締役副社長 “ 同社 取締役副会長 “ トヨタ自動車株式会社 副社長 “ トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “ 株式会社デンソー 取締役 “ トヨタ自動車株式会社 取締役(現任) “ トヨタファイナンス株式会社 取締役(現任) “	(注) 1	なし
取締役	ディディエ ルロワ	1957年12月26日生	1982年 9 月 1998年 9 月 2007年 6 月 2012年 4 月 2015年 6 月 2017年 4 月 2018年 6 月	ルノー株式会社 入社 トヨタ モーター マニュファクチャリ ング フランス株式会社 “ トヨタ自動車株式会社 常務役員 就任 同社 専務役員 “ 同社 取締役副社長 “ 同社 取締役(現任) “ トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “	(注) 1	なし
取締役	宮 崎 洋 一	1963年10月19日生	1986年 4 月 2015年 4 月 2016年 6 月 2019年 1 月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 常務役員 就任 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “ トヨタ自動車株式会社 執行役員(現任) “	(注) 1	なし
取締役	山 本 正 裕	1974年12月 4 日生	1997年 4 月 2017年11月 2019年 6 月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 秘書部主査(現任) 就任 トヨタファイナンスサービス 株式会社 取締役(現任) “	(注) 1	なし

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役	矢 島 一 朗	1957年 6 月24日生	1980年 4 月 2012年 1 月 2014年 1 月 2018年 6 月	トヨタ自動車販売株式会社 (現 トヨタ自動車株式会社) 入社 トヨタファイナンスサービス 株式会社 監査役 就任 トヨタ モーター ファイナンス チャイナ有限公司 取締役社長 トヨタファイナンスサービス 株式会社 監査役(現任)	(注) 2	なし
監査役	小 倉 克 幸	1963年 1 月25日生	1985年 4 月 2018年 1 月 2018年 1 月 2019年 6 月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 監査役室室長 就任 トヨタファイナンスサービス 株式会社 監査役(現任) トヨタ自動車株式会社 常勤監査役(現任)	(注) 2	なし
監査役	近 健 太	1968年 8 月 2 日生	1991年 4 月 2017年 1 月 2018年 6 月 2019年 6 月	トヨタ自動車株式会社 入社 同社 経理部部長(現任) 就任 同社 常務役員 トヨタファイナンスサービス 株式会社 監査役(現任)	(注) 2	なし
計						

(注) 1 取締役の任期は、2020年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までである。

2 監査役の任期は、2020年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までである。

(3) 監査の状況

監査役監査の状況

監査役制度（監査役3名）を採用している。監査役間での緊密な連携や分担を目的に監査役協議会を設置し、当該会議での意見交換を通じて策定された監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要会議への出席や、業務執行状況の調査等を通じて、取締役の職務遂行について厳正な監査を行っている。

内部監査の状況

T F S グループの内部監査は、T F S（8名の内部監査人、以下同）によるグローバル監査、地域統括本部（8名）による地域監査、各子会社（76名）による個社内部監査の、三層構造で実施されている。各層間の責務、連携は、「T F S グループ内部監査権限規程」において調整され、各層の取締役会、監査役会にて承認を受けた年度監査計画に基づいて、網羅的な業務監査を行っている。ガバナンス、リスクマネジメント、コントロールの有効性評価を行い、その結果を要改善事項の提案とともに、各層の経営責任者、監査役に報告している。

監査役監査、会計監査との連携を図る為、三様監査会議を実施している。リスクマネジメント、コンプライアンス管轄部署とも、常時情報共有と相互連携を図っている。

会計監査の状況

イ 監査法人の名称

P w C あらた有限責任監査法人

ロ 業務を執行した公認会計士

男澤 顕

山口 健志

ハ 監査業務に係る補助者の構成

監査法人の選定基準に基づき決定されている。具体的には、公認会計士を主たる構成員とし、その補助者も加えて構成されている。

ニ 監査法人の選定方針と理由

T F S はトヨタ自動車株式会社の連結子会社であり、トヨタ自動車株式会社は会計監査人としてP w C あらた有限責任監査法人を選任していることから、会計監査人を統一することでグループにおける連結決算監査及びガバナンスの有効性、効率性等の向上が図れると判断したためである。

ホ 監査役による監査法人の評価

T F S の監査役は、監査法人に対し評価を行っている。P w C あらた有限責任監査法人の監査計画・監査方法・結果について相当であり、また会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制整備及び外部機関による検査も適切に実施されていると評価している。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日 内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56) d (f) から の規定に経過措置を適用している。

イ 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
トヨタファイナンシャルサービス株式会社	71		72	
連結子会社	83	37	94	33
計	154	37	166	33

ロ 監査報酬の決定方針

監査日数等を勘案した上で決定している。

(4) 役員の報酬等

該当事項はない。

(5) 株式の保有状況

該当事項はない。

第5 経理の状況

連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) T F S の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。）に基づき作成している。

なお、当連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。）による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づき作成している。

- (2) T F S の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づき作成している。

- (3) T F S は、継続開示会社に該当しないため、「企業内容等の開示に関する内閣府令」（昭和48年大蔵省令第5号）に基づき、連結キャッシュ・フロー計算書の記載を省略している。

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		389,639		571,170
営業債権	5, 6	14,721,212	5, 6	15,729,259
リース債権及びリース投資資産		1,342,045		1,497,388
有価証券		570,787		276,631
その他		650,891		566,467
貸倒引当金		164,242		176,266
流動資産合計		17,510,333		18,464,651
固定資産				
有形固定資産				
賃貸資産(純額)	5, 6	4,350,779	5, 6	4,494,000
その他		9,262		9,474
有形固定資産合計	1	4,360,042	1	4,503,474
無形固定資産		38,017		36,884
投資その他の資産				
投資有価証券	2	468,002	2	365,419
その他	2	260,530	2	290,192
投資その他の資産合計		728,533		655,611
固定資産合計		5,126,593		5,195,969
資産合計		22,636,927		23,660,621

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年 3 月31日)		当連結会計年度 (2019年 3 月31日)	
負債の部				
流動負債				
短期借入金	5	919,723	5	1,130,702
1年以内返済予定の長期借入金	5 , 6	1,629,396	5 , 6	1,739,114
1年以内償還予定の社債	5	2,321,393	5	2,289,804
コマーシャルペーパー		3,891,614		3,871,603
その他の引当金		30,161		32,471
その他		1,074,034		1,223,156
流動負債合計		9,866,324		10,286,853
固定負債				
社債	5	6,253,109	5	6,655,252
長期借入金	5 , 6	3,046,051	5 , 6	3,052,704
繰延税金負債		637,113		686,236
その他の引当金		10,983		17,398
退職給付に係る負債		14,873		15,877
その他		75,160		52,893
固定負債合計		10,037,291		10,480,363
負債合計		19,903,616		20,767,217
純資産の部				
株主資本				
資本金		78,525		78,525
資本剰余金		159,900		159,900
利益剰余金		2,545,223		2,653,758
株主資本合計		2,783,648		2,892,183
その他の包括利益累計額				
その他有価証券評価差額金		560		1,184
繰延ヘッジ損益		2,667		3,217
為替換算調整勘定		81,877		43,981
その他の包括利益累計額合計		79,770		39,579
非支配株主持分		29,432		40,799
純資産合計		2,733,310		2,893,403
負債純資産合計		22,636,927		23,660,621

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	1,978,884	2,141,906
売上原価	2 1,325,249	2 1,435,668
売上総利益	653,635	706,237
販売費及び一般管理費	1 403,990	1 424,429
営業利益	249,645	281,807
営業外収益		
為替差益	1,042	
持分法による投資利益	3,658	3,651
償却債権取立益	24,939	25,606
その他	2,433	3,092
営業外収益合計	32,073	32,350
営業外費用		
固定資産処分損	732	298
為替差損		234
その他	216	318
営業外費用合計	949	851
経常利益	280,769	313,306
特別利益		
関係会社清算益	3 361	
特別利益合計	361	
特別損失		
競争法関連損失引当金繰入額		5,535
特別損失合計		5,535
税金等調整前当期純利益	281,130	307,771
法人税、住民税及び事業税	66,089	53,897
法人税等調整額	298,860	27,196
法人税等合計	232,770	81,093
当期純利益	513,901	226,678
非支配株主に帰属する当期純利益	3,971	4,369
親会社株主に帰属する当期純利益	509,930	222,308

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
当期純利益	513,901		226,678	
その他の包括利益				
その他有価証券評価差額金	5,637		1,745	
繰延ヘッジ損益	799		207	
為替換算調整勘定	68,653		41,592	
持分法適用会社に対する持分相当額	460		2,594	
その他の包括利益合計	1	74,630	1	40,535
包括利益	439,270		267,214	
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益	434,805		262,499	
非支配株主に係る包括利益	4,465		4,714	

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	78,525	159,900	2,035,293	2,273,718
当期変動額				
親会社株主に帰属する 当期純利益			509,930	509,930
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）				
当期変動額合計			509,930	509,930
当期末残高	78,525	159,900	2,545,223	2,783,648

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	5,077	4,065	13,908	4,766	22,898	2,291,850
当期変動額						
親会社株主に帰属する 当期純利益						509,930
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	5,637	1,397	67,968	75,003	6,534	68,469
当期変動額合計	5,637	1,397	67,968	75,003	6,534	441,460
当期末残高	560	2,667	81,877	79,770	29,432	2,733,310

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	78,525	159,900	2,545,223	2,783,648
会計方針の変更による累積的影響額			13,773	13,773
会計方針の変更を反映した当期首残高	78,525	159,900	2,531,449	2,769,875
当期変動額				
剰余金の配当			100,000	100,000
親会社株主に帰属する当期純利益			222,308	222,308
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計			122,308	122,308
当期末残高	78,525	159,900	2,653,758	2,892,183

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	560	2,667	81,877	79,770	29,432	2,733,310
会計方針の変更による累積的影響額					661	14,435
会計方針の変更を反映した当期首残高	560	2,667	81,877	79,770	28,771	2,718,875
当期変動額						
剰余金の配当						100,000
親会社株主に帰属する当期純利益						222,308
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,745	550	37,895	40,190	12,028	52,219
当期変動額合計	1,745	550	37,895	40,190	12,028	174,528
当期末残高	1,184	3,217	43,981	39,579	40,799	2,893,403

注記事項

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 55社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略した。

なお、当連結会計年度より、トヨタファイナンスサービス イタリア(株)、トヨタフリースモビリティ(有)、トヨタブローカー セグロ アルゼンチン(株)、(株)KINTO、MOBILOTS(株)、トヨタリーシング ロシア(株)及びトヨタ リボルビング ノート デポジター(有)を新規設立により連結の範囲に含めることとした。

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の関連会社数 7社

主要な会社名

- ・トヨタ ファイナンス サービス サウス アフリカ(株)
- ・和潤企業(株)

(ロ)持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用している。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日(3月31日)と異なる主な会社は次のとおりである。

決算日	会社名
12月31日	トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)

連結財務諸表作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用している。

4 在外子会社及び在外関連会社の会計方針に関する事項

在外子会社及び在外関連会社の連結にあたっては、原則として米国会計基準もしくは国際財務報告基準に準拠して作成された財務諸表を採用している。

5 会計方針に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

...決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として個別法により算定している。ただし、米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社が保有する持分投資の評価差額は純損益に計上している。)

時価のないもの

...主として総平均法による原価法

デリバティブ

...時価法

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

賃貸資産

主としてリース期間満了時の処分見積価額を残存価額とする定額法によっている。なお、賃貸資産の処分損失に備えるため、減価償却費を追加計上している。

(ハ)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸し倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により計上している。

この他に保証業務から生ずる債権の貸し倒れによる損失に備えるため、保証履行に伴う求償債権等未収債権に対する回収不能見込額を過去の貸倒実績率等により見積り、計上している。

(二)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、発生年度に一括費用処理している。

複数事業主制度については、確定拠出制度と同様に処理している。

(ホ)重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース

国内子会社

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっている。

在外子会社

売上高を計上せずに利息相当額を各期へ配分する方法によっている。

オペレーティング・リース

リース料総額をリース期間に按分し毎月均等額を収益に計上している。

融資

主として利息法(元本残高に対して一定の料率で計算した利息の額を収益計上する方法)によっている。

(ヘ)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上している。

(ト)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

国内子会社は原則として繰延ヘッジ処理によっている。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっている。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用した主なヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりである。

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金、社債

ヘッジ方針

資金調達に係る金利リスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っている。

ヘッジ有効性評価の方法

・事前テスト

比率分析もしくは回帰分析等の統計的手法

・事後テスト

比率分析

(チ)組替再表示

過年度の金額は、当連結会計年度の表示に合わせて組み替えて再表示されている。

(会計方針の変更)

(米国会計基準ASC 606「顧客との契約から生じる収益」)

米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において、ASC 606「顧客との契約から生じる収益」を当連結会計年度より適用している。

これにより、約束した財又はサービスの顧客への移転の対価として権利を得ると見込んでいる金額で収益を認識している。

当該会計基準の適用については、経過的な取り扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用し、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減している。

この結果、当連結会計年度の利益剰余金の期首残高は12,137百万円減少している。また、当連結会計年度の連結損益計算書に与える影響は軽微である。

(米国会計基準ASU 2016-01「金融資産及び金融負債の認識及び測定」)

米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において、ASU 2016-01「金融資産及び金融負債の認識及び測定」を当連結会計年度より適用している。

これにより、連結子会社及び持分法適用会社への投資を除く持分投資は原則として公正価値で評価し、その変動を純損益に認識している。

当該会計基準の適用については、経過的な取り扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用し、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減している。

この結果、当連結会計年度の利益剰余金の期首残高は1,380百万円減少している。また、当連結会計年度の連結損益計算書に与える影響は軽微である。

(国際財務報告基準(IFRS)第9号「金融商品」)

国際財務報告基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において、IFRS第9号「金融商品」を当連結会計年度より適用している。

これにより、金融商品の分類及び測定方法を見直し、金融資産について予想信用損失モデルによる減損を認識している。

当該会計基準の適用については、経過的な取り扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用し、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減している。

この結果、当連結会計年度の利益剰余金の期首残高は256百万円減少している。また、当連結会計年度の連結損益計算書に与える影響は軽微である。

(未適用の会計基準等)

(米国会計基準ASU 2016-13「金融商品に係る信用損失の測定」)

当該基準は、金融商品の信用損失の測定に関するものであり、特定の種類の金融商品において、信用損失を見積もるための予想損失に基づくアプローチを導入するものである。当該基準は、米国会計基準に準拠して財務諸表を作成している在外子会社及び在外関連会社において2019年12月15日以後開始の事業年度及びその期中会計期間から適用される。2021年3月期の期首より適用予定であり、適用による連結財務諸表への影響は現在評価中である。

(表示方法の変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更した。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に含まれていた繰延税金資産73,237百万円は「投資その他の資産」の「その他」260,530百万円に含めて表示しており、「流動負債」の「その他」に含まれていた繰延税金負債23,789百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」637,113百万円に含めて表示している。

なお、同一の納税主体で繰延税金資産と繰延税金負債を相殺したことにより、資産合計、負債合計及び負債純資産合計がそれぞれ32,772百万円減少している。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加している。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載していない。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	1,201,420百万円	1,268,721百万円

2 関連会社に対するものは、次のとおりである。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	38,348百万円	38,297百万円
(うち、共同支配企業に対する投資の金額)	20,086	19,580
投資その他の資産その他(出資金)	641	428
(うち、共同支配企業に対する投資の金額)	641	428

3 偶発債務

トヨタ販売店及びレンタリース店等が一般顧客に割賦販売等を行うに当たり、連結子会社がトヨタ販売店及びレンタリース店等に対して保証業務として債務保証を行っている。

また、連結子会社以外のトヨタグループ会社が行った資金調達に対し、債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
連結子会社の営業上の債務保証	3,117,270百万円	3,429,411百万円
トヨタ ファイナンシャル サービス サウス アフリカ(株)	55,355	50,211
その他	11,954	12,527
合計	3,184,580	3,492,150

4 当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る貸出未実行残高

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
貸出未実行残高	3,316,588百万円	3,826,278百万円

なお、上記当座貸越契約及び貸出コミットメントにおいては、信用状態等に関する審査を貸出実行の条件としているものが含まれているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではない。

5 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
営業債権	2,016,371百万円	1,912,312百万円
賃貸資産(純額)	618,786	609,694

担保付債務

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
短期借入金	6,526百万円	59,166百万円
1年以内返済予定の長期借入金	1,033,111	933,641
長期借入金	899,192	884,746
1年以内償還予定の社債	16,494	23,331
社債	43,018	29,787

6 ノンリコース債務

借入金に含まれるノンリコース債務

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
長期借入金(1年以内返済予定の 長期借入金を含む)のうち、ノン リコース債務	1,906,199百万円	1,793,475百万円

ノンリコース債務に対応する資産

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
営業債権	1,830,019百万円	1,745,592百万円
賃貸資産(純額)	618,786	609,694

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
従業員給与・手当	88,143百万円	88,982百万円
貸倒引当金繰入額	99,850	97,736

- 2 売上原価には、デリバティブ関連損益が含まれている。

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
デリバティブ関連損益	(益)2,860百万円	(損)23,414百万円

- 3 関係会社清算益は、アルゼンチンの連結子会社を清算に伴い連結の範囲から除外したことによるものである。

(連結包括利益計算書関係)

- 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	3,380百万円	588百万円
組替調整額	4,567	1,248
税効果調整前	7,947	1,836
税効果額	2,309	91
その他有価証券評価差額金	5,637	1,745
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	293	1,021
組替調整額	1,493	1,318
税効果調整前	1,199	297
税効果額	400	89
繰延ヘッジ損益	799	207
為替換算調整勘定		
当期発生額	68,653	41,592
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	460	2,594
その他の包括利益合計	74,630	40,535

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,570,500			1,570,500

2 自己株式に関する事項

該当事項はない。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はない。

4 配当に関する事項

該当事項はない。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,570,500			1,570,500

2 自己株式に関する事項

該当事項はない。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はない。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年3月18日 取締役会	普通株式	100,000	63,674	2019年2月28日	2019年3月19日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はない。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(貸手側)

(1) リース投資資産の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
リース料債権部分	580,852百万円	648,817百万円
見積残存価額部分	421,497	478,293
受取利息相当額	79,856	99,535
合計	922,493	1,027,576

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

リース債権

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年以内	151,267百万円	169,741百万円
1年超2年以内	131,782	150,937
2年超3年以内	108,781	121,974
3年超4年以内	48,564	49,295
4年超5年以内	14,990	16,266
5年超	1,706	1,573

リース投資資産

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年以内	218,521百万円	248,718百万円
1年超2年以内	166,135	179,676
2年超3年以内	115,233	125,662
3年超4年以内	55,494	64,209
4年超5年以内	22,061	26,021
5年超	3,405	4,528

2 オペレーティング・リース取引

(貸手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年以内	700,877百万円	734,100百万円
1年超	664,387	737,077
合計	1,365,264	1,471,177

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

T F S グループは、主として、トヨタ車、レクサス車を購入する顧客、及び販売店に対する融資プログラム及びリースプログラムの提供などの金融サービス事業を行っている。これらの事業を行うため、市場の状況を勘案し、長短のバランスを調整して、銀行借入による間接金融の他、社債やコマーシャルペーパーの発行、債権流動化による直接金融によって資金調達を行っている。このように、主として金利変動の影響を受ける金融資産及び金融負債を有しているため、資産及び負債の総合的管理(ALM)を行っており、またその一環として、デリバティブ取引も利用している。なお、T F S グループが行っているデリバティブ取引はリスクヘッジを目的としたものであり、投機もしくはトレーディング目的での取引は行っていない。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

T F S グループが保有する金融資産は、主として、顧客及び販売店に対する営業債権、リース債権及びリース投資資産であり、顧客や販売店の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されている。また、金融資産は主としてトヨタ車及びレクサス車の販売に関連しており、自動車市場や経済環境等の状況の変化により、契約条件に従った債務履行がなされない可能性がある。

また、有価証券及び投資有価証券は、主に債券、投資信託であり、主に純投資目的で保有している。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されている。

借入金、社債及びコマーシャルペーパーは、一定の環境下でT F S グループが市場を利用できなくなる場合など、支払期日にその支払を実行できなくなる流動性リスクに晒されている。また、金利の変動リスクについては、一部は金利スワップ取引等を利用することにより当該リスクを回避している。外貨建負債については、為替の変動リスクに晒されており、社債の発行時に通貨スワップ取引等を利用することなどにより当該リスクを回避している。

デリバティブ取引にはALMの一環で行っている為替予約取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引等がある。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5 会計方針に関する事項」の「重要なヘッジ会計の方法」に記載している。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

T F S グループは、営業債権、リース債権及びリース投資資産等について、個別案件毎の与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運用している。

有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブや預金取引のカウンターパーティーリスクに関しては、信用情報やエクスポージャーの把握を定期的に行うことにより管理している。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

外貨建負債について、為替の変動リスクをヘッジし、あらかじめ決められた条件で決済するため、為替予約取引及び通貨スワップ取引を利用している。また、金融資産(オペレーティング・リース資産のキャッシュフローを含む)及び金融負債に係る金利の変動リスクを抑制するため、主に金利スワップ取引を利用している。

有価証券及び投資有価証券については、信用情報や時価の把握を定期的に行うことにより管理している。

デリバティブ取引の実行及び管理については、取引権限及び取引限度等について定めたルールに基づき、資金担当部門が承認権限者の承認を得て行っている。

T F Sグループでは、金融商品の金利リスクに対して定期的にVaRによるモニタリングを実施している。VaRの算定にあたっては、分散共分散法(保有期間：20営業日、信頼区間：片側95%、観測期間：250営業日)を採用している。T F Sグループの金融商品の金利リスク量(損失額の推計値)は、以下のとおりである。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2018年3月31日	当連結会計年度 2019年3月31日
金利リスク量	17,749	17,715

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での金利リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合がある。

なお、T F Sグループに重要な為替リスクはない。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

T F Sグループは、ALMを通して資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、複数の金融機関からのコミットメントラインの取得、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理している。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもある。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではない。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていない((注2)参照)。

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	389,639	389,639	
(2) 営業債権	14,721,212		
貸倒引当金(1)	133,470		
	14,587,741	14,634,539	46,797
(3) リース債権及び リース投資資産(2)	920,548		
貸倒引当金(1)	28,153		
	892,395	959,946	67,550
(4) 有価証券及び投資有価証券	986,736	986,736	
資産計	16,856,513	16,970,861	114,348
(1) 短期借入金	919,723	919,723	
(2) コマーシャルペーパー	3,891,614	3,891,614	
(3) 社債(3)	8,574,502	8,624,779	50,276
(4) 長期借入金(4)	4,675,447	4,685,542	10,094
負債計	18,061,288	18,121,659	60,371
デリバティブ取引(5)			
ヘッジ会計が 適用されていないもの	8,999	40,607	49,607
ヘッジ会計が 適用されているもの	227	917	690
デリバティブ取引計	8,772	41,525	50,297

(1) 営業債権、リース債権及びリース投資資産に対応する貸倒引当金を控除している。

(2) リース債権及びリース投資資産は、見積残存価額を控除している。

(3) 社債には、1年以内償還予定の社債及び社債を含んでいる。

(4) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金及び長期借入金を含んでいる。

(5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務()は、純額で表示している。

また、連結貸借対照表計上額については、在外子会社の取引の一部につき関連する担保金額を控除している。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	571,170	571,170	
(2) 営業債権	15,729,259		
貸倒引当金(1)	146,536		
	15,582,723	15,746,872	164,149
(3) リース債権及び リース投資資産(2)	1,019,094		
貸倒引当金(1)	26,041		
	993,053	1,068,214	75,160
(4) 有価証券及び投資有価証券	588,943	588,943	
資産計	17,735,890	17,975,200	239,310
(1) 短期借入金	1,130,702	1,130,702	
(2) コマーシャルペーパー	3,871,603	3,871,603	
(3) 社債(3)	8,945,057	9,069,745	124,687
(4) 長期借入金(4)	4,791,819	4,812,415	20,596
負債計	18,739,183	18,884,467	145,283
デリバティブ取引(5)			
ヘッジ会計が 適用されていないもの	49,100	50,490	99,590
ヘッジ会計が 適用されているもの	927	2,362	1,434
デリバティブ取引計	50,027	48,128	98,156

(1) 営業債権、リース債権及びリース投資資産に対応する貸倒引当金を控除している。

(2) リース債権及びリース投資資産は、見積残存価額を控除している。

(3) 社債には、1年以内償還予定の社債及び社債を含んでいる。

(4) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金及び長期借入金を含んでいる。

(5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務()は、純額で表示している。

また、連結貸借対照表計上額については、在外子会社の取引の一部につき関連する担保金額を控除している。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらの時価は、帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっている。

(2) 営業債権、(3) リース債権及びリース投資資産

これらの時価は、主に債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっている。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価は、主に取引所の価格又は見積り将来キャッシュ・フローを市場利子率で割引く方法により算定している。

保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記参照。

負 債

(1) 短期借入金、(2) コマーシャルペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 社債

社債については、主に入手可能であれば市場価格、不可能である場合は元利金の合計額を同様の社債を新規に発行した場合に想定される利率で割り引いて時価を算定している。

(4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、T F Sグループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっている。固定金利によるものは、主に元利金の合計額を同様の新規借入において想定される利率で割り引いて時価を算定している。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 2018年3月31日	当連結会計年度 2019年3月31日
非上場株式	52,054	53,107

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
現金及び預金	389,639		
営業債権	6,109,695	7,775,730	654,504
リース債権及びリース投資資産	322,978	582,663	4,494
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券のうち満期があるもの			
債券			
国債・地方債等	174,561	138,254	12,978
社債その他	4,200	4,894	22,703
その他	288,468		361
その他有価証券のうち満期があるもの 計	467,230	143,148	36,044
合計	7,289,544	8,501,542	695,043

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
現金及び預金	571,170		
営業債権	6,403,950	8,411,615	729,508
リース債権及びリース投資資産	363,834	638,032	5,298
有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券のうち満期があるもの			
債券			
国債・地方債等	19,319	11,116	16,277
社債その他	554	6,335	22,190
その他	158,187		386
その他有価証券のうち満期があるもの 計	178,062	17,452	38,853
合計	7,517,017	9,067,100	773,660

(注4)社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
短期借入金	919,723		
コマーシャルペーパー	3,891,614		
社債	2,322,871	5,714,413	560,609
長期借入金	1,629,396	2,858,146	187,904
合計	8,763,606	8,572,560	748,513

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,130,702		
コマーシャルペーパー	3,871,603		
社債	2,291,171	5,948,505	730,755
長期借入金	1,739,114	2,857,271	195,432
合計	9,032,592	8,805,777	926,188

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	5,350	2,118	3,232
債券			
国債・地方債等	1,803	1,669	134
社債その他	10,331	10,316	14
その他	9,434	9,179	255
小計	26,920	23,283	3,637
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	52	52	
債券			
国債・地方債等	322,258	324,746	2,487
社債その他	21,237	21,435	197
その他	616,267	617,597	1,329
小計	959,815	963,830	4,014
合計	986,736	987,113	377

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていない。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	2,919	2,118	800
債券			
国債・地方債等	5,613	5,457	156
社債その他	28,463	28,181	282
その他	225,714	224,452	1,261
小計	262,711	260,209	2,501
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	70	70	
債券			
国債・地方債等	41,431	41,504	73
社債その他	785	790	5
その他	283,945	284,723	778
小計	326,232	327,089	857
合計	588,943	587,299	1,644

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていない。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2018年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	16,931		124	124
	買建	410,392		5,609	5,609
	通貨スワップ取引				
	支払米ドル受取ユーロ	848,012	747,395	20,982	20,982
	支払米ドル受取豪ドル	389,860	373,569	2,245	2,245
	支払タイバーツ受取米ドル	418,852	250,504	20,073	20,073
	支払ユーロ受取米ドル	336,736	236,954	18,258	18,258
	その他	1,666,396	1,080,667	24,326	24,326
合計		4,087,182	2,689,091	10,465	10,465

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	4,897,532	3,911,401	57,155	57,155
	受取変動・支払固定	10,805,452	6,777,954	87,293	87,293
	受取変動・支払変動	134,442	89,150	56	56
	オプション取引				
	買建フロア	97,890		60	60
合計		15,935,317	10,778,507	30,141	30,141

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
公正価値 ヘッジ	通貨スワップ取引 支払米ドル受取日本円	社債	12,623	2,719	822
合計			12,623	2,719	822

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	社債 借入金	34,000	34,000	219
	受取変動・支払固定		5,000	5,000	3
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	借入金	104,500	104,500	120
合計			143,500	143,500	95

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

当連結会計年度(2019年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	12,634		56	56
	買建	348,912		3,080	3,080
	通貨スワップ取引				
	支払米ドル受取ユーロ	780,811	776,014	56,912	56,912
	支払米ドル受取豪ドル	461,126	403,909	23,862	23,862
	支払タイバーツ受取米ドル	464,129	333,936	13,745	13,745
	支払ユーロ受取米ドル	284,452	147,208	13,476	13,476
	その他	1,911,461	1,170,506	51,211	51,211
合計		4,263,529	2,831,575	26,807	26,807

(注) 時価の算定方法

主として将来キャッシュ・フローを見積もり、それを適切な市場利子率で割引く方法等により算定している。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	4,911,719	4,024,301	4,914	4,914
	受取変動・支払固定	10,894,711	6,811,381	29,115	29,115
	受取変動・支払変動	482,556	271,521	518	518
合計		16,288,987	11,107,203	23,682	23,682

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	金利スワップ取引				
	受取固定・支払変動	社債 借入金	44,000	44,000	929
	受取変動・支払固定		5,000		2
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引	借入金			
	受取固定・支払変動		155,500	155,500	1,434
合計			204,500	199,500	2,362

(注) 時価の算定方法

主として期末日現在の金利等を基に将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割引く方法等により算定している。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

国内子会社は、退職金制度の一部について確定拠出制度を採用し、残額については退職一時金を充当している。また、一部の在外子会社は、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用している。

なお、一部の在外子会社は複数事業主制度を設けている。

2 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度への要拠出額は、前連結会計年度1,941百万円、当連結会計年度3,706百万円であった。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
年金資産の額	411,080百万円	458,931百万円
年金財政計算上の数理債務の額	403,946	444,701
差引額	7,134	14,230

(2) 制度全体に占めるトヨタファイナンスサービス株式会社グループの給与総額割合

前連結会計年度 27.7%(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当連結会計年度 27.9%(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の前連結会計年度及び当連結会計年度における差引額の主な要因は、年金資産の実際運用収益等によるものである。

3 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	28,771百万円	31,408百万円
勤務費用	1,730	1,784
利息費用	608	615
退職給付の支払額	1,038	816
その他	1,337	864
退職給付債務の期末残高	31,408	33,856

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

重要性がないため記載を省略している。

- (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	22,088百万円	23,703百万円
年金資産	16,534	17,978
	5,553	5,725
非積立型制度の退職給付債務	9,320	10,152
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	14,873	15,877
退職給付に係る負債	14,873	15,877
退職給付に係る資産		
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	14,873	15,877

- (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	1,730百万円	1,784百万円
その他	951	417
確定給付制度に係る退職給付費用	2,681	2,201

- (5) 年金資産に関する事項

重要性がないため記載を省略している。

- (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.1%～3.5%	0.1%～3.2%

4 確定拠出制度

重要性がないため記載を省略している。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年 3月31日)	当連結会計年度 (2019年 3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	35,563百万円	40,768百万円
税務上の繰越欠損金 (注) 1	104,177	250,518
その他	67,887	114,467
繰延税金資産小計	207,628	405,755
税務上の繰越欠損金に係る 評価性引当額 (注) 1		2,164
将来減算一時差異等の合計に 係る評価性引当額		4,671
評価性引当額小計	6,474	6,836
繰延税金資産合計	201,153	398,918
繰延税金負債		
償却資産	748,731	977,125
その他	32,172	50,188
繰延税金負債合計	780,903	1,027,314
繰延税金資産(負債)の純額	579,750	628,395
(注)繰延税金負債の純額は、連結貸 借対照表の以下の科目に含まれてい る。		(注)繰延税金負債の純額は、連結貸 借対照表の以下の科目に含まれてい る。
	(百万円)	(百万円)
固定資産 投資その他の 資産その他	57,363	57,841
固定負債 繰延税金負債	637,113	686,236

(注) 1 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

税務上の繰越欠損金はそのほとんどが無期限である。税務上の繰越欠損金250,518百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産248,353百万円を計上している。当該繰延税金資産248,353百万円は、主に米国の連結子会社における税務上の繰越欠損金について認識したものであり、米国では連邦税や一部の州税において繰越欠損金の繰越期限がないこと等に鑑み、回収可能と判断している。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年 3月31日)	当連結会計年度 (2019年 3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
米国税制改正関連	113.3	
在外子会社税率差異	2.4	6.2
その他	2.2	2.1
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	82.8	26.3

(セグメント情報等)

セグメント情報

1 報告セグメントの概要

T F Sグループの報告セグメントは、構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、マネジメントが、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

T F Sグループは、主に、割賦金融、リース取引、卸売金融、保険仲介等の販売金融事業を営んでおり、国内及び海外の連結子会社が独立した経営単位として、各国の市場環境に応じた事業活動を展開している。

従って、T F Sグループは国別のセグメントから構成されているが、米国及びカナダについては、経済的特徴等が概ね類似していることから「北米」として集約している。

また、当連結会計年度より、従来「その他」に含めていた「タイ」について重要性が増したため報告セグメントとして記載し、報告セグメントとしていた「オーストラリア」について重要性が低下したため「その他」に含めて記載する方法に変更し、「日本」、「北米」、「タイ」を報告セグメントとしている。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分方法により作成しており、「3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の前連結会計年度に記載している。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。

セグメント間の内部収益及び振替高は、市場の実勢を勘案した価格に基づいている。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額
	日本	北米	タイ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	164,289	1,372,895	67,578	1,604,763	374,121	1,978,884		1,978,884
セグメント間の内部 売上高又は振替高	300	4,563	386	5,250	16,749	21,999	21,999	
計	164,590	1,377,458	67,964	1,610,013	390,870	2,000,884	21,999	1,978,884
セグメント利益	28,876	110,669	20,952	160,498	92,303	252,801	3,156	249,645
セグメント資産	1,543,219	12,834,923	1,061,499	15,439,642	4,974,395	20,414,037		20,414,037
その他の項目								
支払利息	679	220,107	26,262	247,049	135,003	382,052	11,509	370,543
減価償却費	5,197	672,731	1,016	678,945	52,676	731,621	21	731,643
貸倒引当金繰入額	6,550	57,600	12,038	76,189	23,660	99,850		99,850

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア及び中国等の連結子会社の事業活動を含んでいる。

2 調整額は、以下のとおりである。

(1) セグメント利益の調整額 3,156百万円は、主にセグメント間取引消去である。

(2) 支払利息の調整額 11,509百万円は、主にセグメント間取引消去である。

3 「売上高」には、受取利息がそれぞれ、「日本」9,100百万円、「北米」355,877百万円、「タイ」71,958百万円、「その他」345,669百万円含まれている。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額
	日本	北米	タイ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	177,645	1,490,781	74,354	1,742,781	399,125	2,141,906		2,141,906
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	5,670	235	5,917	20,377	26,295	26,295	
計	177,658	1,496,451	74,589	1,748,699	419,502	2,168,201	26,295	2,141,906
セグメント利益	24,864	132,822	21,940	179,627	104,955	284,583	2,775	281,807
セグメント資産	1,627,806	13,470,340	1,275,603	16,373,750	5,346,897	21,720,648		21,720,648
その他の項目								
支払利息	507	292,913	27,231	320,652	152,156	472,809	16,405	456,403
減価償却費	4,955	704,003	998	709,957	57,406	767,363	21	767,385
貸倒引当金繰入額	8,554	52,443	15,060	76,057	21,678	97,736		97,736

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア及び中国等の連結子会社の事業活動を含んでいる。

2 調整額は、以下のとおりである。

(1) セグメント利益の調整額 2,775百万円は、主にセグメント間取引消去である。

(2) 支払利息の調整額 16,405百万円は、主にセグメント間取引消去である。

3 「売上高」には、受取利息がそれぞれ、「日本」9,284百万円、「北米」406,525百万円、「タイ」78,162百万円、「その他」373,913百万円含まれている。

関連情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
164,289	1,316,050	498,544	1,978,884

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
3,076	4,114,807	242,158	4,360,042

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はない。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
177,645	1,425,705	538,555	2,141,906

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	その他	合計
3,278	4,212,914	287,281	4,503,474

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はない。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はない。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はない。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はない。

関連当事者情報

1 関連当事者との取引

トヨタファイナンシャルサービス株式会社と関連当事者との取引

トヨタファイナンシャルサービス株式会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	トヨタ 自動車(株)	愛知県 豊田市	635,401	自動車の製造・販売	被所有 直接 100	資金の預入 役員の兼任 設備等の賃借 等	資金の預入	32,780	流動資産 - その他	150,970
									固定資産 - 投資その他の 資産その他	138,990

- (注) 1 取引金額及び期末残高には消費税等を含まない。
2 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場金利等を勘案して決定している。
3 取引の実態を明瞭に開示するため、取引金額は純額表示としている。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	トヨタ 自動車(株)	愛知県 豊田市	635,401	自動車の製造・販売	被所有 直接 100	資金の預入 役員の兼任 設備等の賃借 等	資金の預入	61,480	流動資産 - その他	77,400
									固定資産 - 投資その他の 資産その他	151,080

- (注) 1 取引金額及び期末残高には消費税等を含まない。
2 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場金利等を勘案して決定している。
3 取引の実態を明瞭に開示するため、取引金額は純額表示としている。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

トヨタ自動車(株)(東京、名古屋、ニューヨーク、ロンドンの各証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,721,667円31銭	1,816,366円85銭
1株当たり当期純利益金額	324,692円91銭	141,552円90銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	509,930	222,308
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	509,930	222,308
普通株式の期中平均株式数(株)	1,570,500	1,570,500

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	2,733,310	2,893,403
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) 非支配株主持分	29,432	40,799
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	2,703,878	2,852,604
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株 式の数(株)	1,570,500	1,570,500

(重要な後発事象)

該当事項はない。

連結附属明細表

社債明細表

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
トヨタファイ ナンス(株)	普通社債 (注) 1	2005年 ～ 2019年	479,998	520,999 (125,000)	0.00 ～ 1.91	なし	2018年 ～ 2028年
在外子会社	普通社債 (注) 1 (注) 2 (注) 3	2013年 ～ 2019年	1,102,520 [2,450百万 米ドル 59,300百万 タイ・パーツ 1,348百万 ポリバル・フエルテ 5,500百万 フィリピン・ペソ 6,000百万 加ドル 1,504百万 アルゼンチン・ペソ 2,000百万 中国元 36,104百万 インド・ルピー 5,000百万 ロシア・ルーブル 800百万 ブラジル・レアル]	1,054,922 (377,395) [1,225百万 米ドル 79,200百万 タイ・パーツ 5,000百万 フィリピン・ペソ 5,800百万 加ドル 1,593百万 アルゼンチン・ペソ 33,044百万 インド・ルピー 8,000百万 ロシア・ルーブル 1,400百万 ブラジル・レアル]	1.75 ～ 60.43	(注) 4	2018年 ～ 2025年
	ミディアムターム ノート (注) 1 (注) 2 (注) 5	2007年 ～ 2019年	6,991,983 [43,394百万 米ドル 11,319百万 豪ドル 3,101百万 ニュージーランド・ ドル 1,830百万 英ポンド 1,327百万 香港ドル 6,750百万 ユーロ 9,814百万 メキシコ・ペソ 115百万 マレーシア・ リングgit 98百万 アルゼンチン・ペソ]	7,369,135 (1,787,409) [43,824百万 米ドル 12,408百万 豪ドル 2,375百万 ニュージーランド・ ドル 1,750百万 英ポンド 2,167百万 香港ドル 8,340百万 ユーロ 9,314百万 メキシコ・ペソ 100百万 マレーシア・ リングgit 78百万 アルゼンチン・ペソ]	0.00 ～ 29.48	なし	2018年 ～ 2048年
合計			8,574,502	8,945,057 (2,289,804)			

- (注) 1 当期末残高のうち1年以内償還予定の社債の金額を()内に付記している。
- 2 外国において発行された社債及びミディアムタームノートについて外貨建てによる発行総額を[]内に付記している。
- 3 在外子会社トヨタ クレジット カナダ(株)、トヨタ リーシング タイランド(株)、トヨタ サービス デ ベネズエラ(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス フィリピン(株)、トヨタ モーター ファイナンス チャイナ(有)、トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス インディア(株)、トヨタ バンク ロシア(株)、パンコ トヨタ ブラジル(株)の発行しているものを集約している。
- 4 在外子会社が発行した有担保の普通社債20銘柄が含まれている。当該銘柄以外は無担保である。
- 5 在外子会社トヨタ モーター クレジット(株)、トヨタ モーター ファイナンス(ネザーランズ)(株)、トヨタ ファイナンス オーストラリア(株)、トヨタ ファイナンス ニュージーランド(株)、トヨタ キャピタル マレーシア(株)、トヨタ ファイナンシャル サービス メキシコ(株)、トヨタ コンパニーア フィナンシェラ デ アルゼンチン(株)の発行しているものを集約している。
- 6 連結決算日後5年内における償還予定額は、次のとおりである。

(単位：百万円)

1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
2,291,171	1,841,115	1,945,459	1,429,631	732,299

借入金等明細表

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	919,723	1,130,702	2.49	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,629,396	1,739,114	2.63	
うち、1年以内に返済予定のノンリコース長期借入金	1,033,111	933,641	2.61	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,046,051	3,052,704	2.53	2020年～2038年
うち、ノンリコース長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	873,088	859,834	2.42	2020年～2022年
その他有利子負債 コマーシャルペーパー(1年以内返済予定)	3,891,614	3,871,603	2.28	

(注) 1 平均利率は、当連結会計年度末における利率及び残高より加重平均した利率である。

2 長期借入金及びノンリコース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は、次の通りである。

(単位：百万円)

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金	1,474,813	871,038	324,172	187,248
うち、ノンリコース 長期借入金	560,060	262,726	37,047	

資産除去債務明細表

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略している。

(2) その他

該当事項はない。

2 財務諸表等

(1) 財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,755	7,215
売掛金	7,112	7,632
関係会社預け金	150,970	77,400
その他	562	2,250
流動資産合計	162,400	94,497
固定資産		
有形固定資産	70	82
無形固定資産	2	18
投資その他の資産		
投資有価証券	19,072	16,985
関係会社株式	207,193	210,239
関係会社出資金	105,218	113,291
関係会社長期預け金	138,990	151,080
その他	162	276
投資その他の資産合計	470,637	491,873
固定資産合計	470,710	491,974
資産合計	633,111	586,472

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,246	4,417
その他	2,782	867
流動負債合計	7,028	5,284
固定負債	1,522	728
負債合計	8,550	6,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	78,525	78,525
資本剰余金		
資本準備金	78,525	78,525
資本剰余金合計	78,525	78,525
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	465,188	422,854
利益剰余金合計	465,188	422,854
株主資本合計	622,238	579,904
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,321	555
評価・換算差額等合計	2,321	555
純資産合計	624,560	580,459
負債純資産合計	633,111	586,472

損益計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高		
関係会社受取配当金	43,661	59,975
関係会社受取手数料	14,749	15,556
売上高合計	58,411	75,532
売上原価		
関係会社支払手数料	8,388	8,846
売上原価合計	8,388	8,846
売上総利益	50,022	66,685
販売費及び一般管理費	2 5,262	2 5,102
営業利益	44,760	61,583
営業外収益		
受取利息	662	498
受取配当金	412	401
ソフトウェア売却益		1,092
為替差益	295	
その他	1,259	125
営業外収益合計	1 2,629	1 2,117
営業外費用		
為替差損		673
その他	92	0
営業外費用合計	92	673
経常利益	47,297	63,027
税引前当期純利益	47,297	63,027
法人税、住民税及び事業税	4,335	5,107
法人税等調整額	21	254
法人税等合計	4,313	5,361
当期純利益	42,983	57,665

株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	78,525	78,525	422,204	579,254	2,154	581,408
当期変動額						
当期純利益			42,983	42,983		42,983
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					167	167
当期変動額合計			42,983	42,983	167	43,151
当期末残高	78,525	78,525	465,188	622,238	2,321	624,560

当事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	78,525	78,525	465,188	622,238	2,321	624,560
当期変動額						
剰余金の配当			100,000	100,000		100,000
当期純利益			57,665	57,665		57,665
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					1,766	1,766
当期変動額合計			42,334	42,334	1,766	44,100
当期末残高	78,525	78,525	422,854	579,904	555	580,459

注記事項

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

3 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

(2) 連結納税制度の適用

トヨタ自動車株式会社を連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用している。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「投資有価証券売却益」(前事業年度1,246百万円)は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示している。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っている。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
ソフトウェア売却益	百万円	1,092百万円
受取利息	644	485

2 販売費及び一般管理費のうち、主要なものは次の通りである。なお、全額が一般管理費に属するものである。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
業務委託費用	1,835百万円	1,799百万円
従業員給与手当	1,072	1,159
租税公課	748	476
賞与引当金繰入額	138	198
退職給付費用	121	139

(有価証券関係)

前事業年度(2018年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式200,381百万円、関連会社株式6,812百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価を記載していない。

当事業年度(2019年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式203,244百万円、関連会社株式6,995百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価を記載していない。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	192百万円	207百万円
関係会社出資金評価損	164	164
賞与引当金	42	60
未払費用	184	47
未払事業税	205	45
その他	38	47
繰延税金資産小計	827	573
評価性引当金	170	170
繰延税金資産合計	657	402
繰延税金負債		
連結法人間取引の譲渡益繰延	45	45
その他有価証券評価差額金	1,023	245
繰延税金負債合計	1,069	290
繰延税金資産(負債)の純額	412	111

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
受取配当等永久に益金に算入されない項目	27.0	27.8
外国子会社等受取配当源泉税	5.5	5.7
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.1	8.5

(重要な後発事象)

該当事項はない。

附属明細表
有価証券明細表

株式

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)ジェーシービー	231,900	8,116
		東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	7,280,000	2,919
		その他（ 2 銘柄 ）	1,034,190	5,949
計			8,546,090	16,985

有形固定資産等明細表

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産				262	179	19	82
無形固定資産				203	184	2	18

(注) 有形固定資産、無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略している。

引当金明細表

重要性がないため記載を省略している。

(2) 主な資産及び負債の内容

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略している。

(3) その他

該当事項はない。

第3 【指数等の情報】

該当事項なし

(訳文)

独立監査人の監査報告書

トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビーブイ 株主及び取締役会御中

年次報告書及び財務書類に含まれる、2019年3月31日に終了した事業年度の財務書類監査に関する報告

監査意見

私どもは、アムステルダムを本社とする、トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビーブイの2019年3月31日に終了した事業年度の財務書類を監査した。

私どもは、添付の財務書類が、欧州連合により採用されている国際財務報告基準（以下「EU-IFRS」という。）及びオランダ民法典第2編第9章に準拠して、2019年3月31日現在のトヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビーブイの財政状態並びに2019年3月31日に終了した事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を真実かつ公正に表示しているものと認める。

財務書類は、以下のものから構成される。

- ・ 2019年3月31日現在の財政状態計算書
- ・ 2019年3月31日に終了した事業年度の次の計算書：包括利益計算書、持分変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書
- ・ 重要な会計方針の要約及びその他の情報により構成される注記

監査意見の基礎

私どもは、オランダの監査基準を含むオランダの法令に準拠して監査を行った。本基準のもとでの私どもの責任は、本報告書の「財務書類監査に対する私どもの責任」の項に詳述されている。

私どもは、社会的影響度の高い事業体の法定監査に関する特定の規定に係るEU規則、「監査法人監督法 (Wet toezicht accountantsorganisaties)」(Wta)、独立性に関する規則である「職業的専門家としての会計士に関する倫理規則 (Verordening inzake de onafhankelijkheid van accountants bij assurance-opdrachten)」(ViO) 及びオランダにおいて関連するその他の独立性規則に基づき、トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビーブイ (以下「会社」という。) に対する独立性を保持している。さらに、私どもは「オランダにおける倫理規則 (Verordening gedrags- en beroepsregels accountants)」(VGBA) を遵守している。

私どもは、私どもの意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

重要性

重要性	61百万ユーロ（2018年3月31日現在：46百万ユーロ）
適用したベンチマーク	2019年3月31日現在の総資産（流動資産及び非流動資産の合計）の0.5%
説明	私どもは、このベンチマークが会社の経営成績の最適な指標であると考えているため、総資産をベンチマークとして使用した。会社発行の債券及び債務の保有者並びに会社の借入金の貸し手にとって最も関心がある事項は関係会社に対する貸付金の額であり、これが総資産のほとんどを占める。

私どもはまた、定性的理由から財務書類の利用者にとって重要であると私どもが判断した虚偽表示及び/又は虚偽表示の可能性についても考慮した。

私どもは取締役会と、監査において識別される3百万ユーロを超える虚偽表示及び当該金額より少額でも定性的理由から報告しなければならないと私どもが判断した虚偽表示について取締役会に報告することを合意した。

監査上の主要な事項

監査上の主要な事項とは、財務書類監査において、私ども職業的専門家としての判断により特に重要であると決定された事項をいう。前年と比較して、監査上の主要な事項に関するその他の変更はなかった。監査上の主要な事項は、すべての討議内容を総合的に反映したものではない。私どもは取締役会に監査上の主要な事項を報告した。

これらの事項は、財務書類監査の過程及び監査意見の形成において全般的に対応した事項であり、私どもは、当該事項に対して個別の意見を表明しない。

関係会社に対する貸付金の実在性及び評価	
リスク	<p>トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービーの主な活動は、トヨタ グループの金融会社としての業務であり、社債の発行、借入及びその他のファシリティを通じて、第三者である貸し手から資金調達を行っている。会社は、トヨタのグループ会社が債務不履行に陥るリスクに晒されている。</p> <p>関係会社に対する貸付金は、会社の流動資産及び非流動資産の最も重要な部分を占めているため、減損が生じた場合は、財務書類に重要な影響を及ぼす可能性がある。したがって、私どもは、関係会社に対する貸付金の実在性及び評価を、2018年4月1日付の会社によるIFRS第9号適用とともに、監査上の主要な事項として識別した。</p> <p>関係会社に対する貸付金の評価に関する方針及び手続をIFRS第9号の適用とともに経営陣が開示している財務書類注記2の「会計方針及び開示の変更」を参照のこと。</p>
私どもの監査アプローチ	<p>私どもの監査において、関係会社に対する貸付金残高については主に実証的監査手続を実施した。実証的監査手続には、貸付契約についての詳細な評価及び詳細な分析的レビューが含まれていた。貸付金の実在性を確認するために、貸付金について確認状を入手した。私どもは、減損プロセス及びモデルについて理解することにより、関係会社に対する貸付金の評価を検証した。また、予想信用損失を計算するために経営陣が行った主要な判断及び見積りをレビューした。また、内部専門家の支援を受けて予想信用損失の計算を評価し、関連する開示の適切性を評価した。</p>
主な所見	<p>実施した手続の結果、私どもは、関係会社に対する貸付金残高の評価及び実在性について重要な虚偽表示の証拠を識別することはなかった。</p> <p>関係会社に対する貸付金の開示はEU-IFRSの規定を満たしている。</p>

年次報告書及び財務書類に含まれる、その他の記載内容に関する報告

年次報告書及び財務書類には、財務書類及び当該財務書類に関する私ども独立監査人の監査報告書に加え、以下のその他の記載内容が含まれている。

- ・取締役会報告書
- ・オランダ民法典第2編第9章に規定されるその他の記載内容

後述の手続の実施により、私どもはその他の記載内容について以下のとおり結論付ける。

- ・財務書類と整合しており、重要な虚偽表示は含まれない。
- ・オランダ民法典第2編第9章により求められる記載内容が含まれている。

私どもはその他の記載内容を通読した。私どもは、財務書類監査又はその他の方法により得た知識及び理解に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽表示が含まれているか否かを検討した。これらの手続の実施により、私どもはオランダ民法典第2編第9章の規定及びオランダの基準第720号の規定を遵守している。実施した手続の範囲は、私どもの財務書類監査において実施した手続の範囲よりも大幅に少ない。

取締役会は、オランダ民法典第2編第9章に基づく取締役会報告書、及びオランダ民法典第2編第9章により求められるその他の記載内容を含む、その他の記載内容について作成責任を負う。

その他の法的要求事項に関する報告

任命

私どもは、2019年3月31日に終了した事業年度の監査に関して、2018年7月31日に取締役会により会社の監査人として任命された。

禁止される非監査業務の不提供

私どもは、社会的影響度の高い事業体の法定監査に関する特定の規定に係るEU規則第5条(1)に記載されている禁止される非監査業務を提供していない。

その他の非禁止業務の提供

私どもは、財務書類の法定監査に加えて、()ミディアム・ターム・ノート・プログラムのインフォメーション・メモランダム、及び()トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービーの売出しに関連してコンフォート・レターを提供した。

財務書類に関する責任の説明

財務書類に対する取締役会の責任

取締役会は、EU-IFRS及びオランダ民法典第2編第9章に準拠して財務書類を作成し適正に表示する責任を有している。さらに、取締役会は、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するために取締役会が必要と判断した内部統制について責任を有している。

財務書類を作成するに当たり、取締役会は、会社が継続企業として存続する能力があるかどうかを評価する責任を有している。上述の財務報告の枠組みに基づいて、取締役会が会社の清算若しくは事業停止の意図があるか、又はそうする以外に現実的な代替案がない場合を除き、取締役会は継続企業の前提に基づいて財務書類を作成しなければならない。取締役会は、会社の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況について財務書類で開示しなければならない。

財務書類監査に対する私どもの責任

私どもの目的は、私どもの意見表明のために十分かつ適切な監査証拠を入手できるように監査業務を計画し、実施することである。

私どもの監査は、絶対的水準ではないが、高い水準の保証を得て実施されている。これは、私どもが監査中にすべての重大な誤謬及び不正を検出することはできない可能性があることを意味している。

虚偽表示は、不正又は誤謬から発生する可能性があり、個別に又は集計して、当該財務書類の利用者の経済的な意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。重要性は、監査手続、その時期及び範囲、並びに識別された虚偽表示が私どもの監査意見に及ぼす影響を評価する際に影響を与える。

私どもは、オランダの監査基準、職業倫理に関する規定及び独立性に関する規定に準拠して、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行使し、職業的懐疑心を保持した。私どもの監査においては特に、以下の手続が行われた。

- ・不正又は誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、私どもの監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な記録の省略、虚偽の陳述、及び内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、会社の内部統制の有効性に対する意見を表明することを目的とするものではない。
- ・取締役会が採用した会計方針の適切性、並びに取締役会によって行われた会計上の見積り及び関連する開示の合理性を評価する。

- ・取締役会が継続企業を前提として財務書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、会社の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。私どもが重要な不確実性が認められると結論付ける場合は、私ども監査人の監査報告書において財務書類の関連する開示に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関するそれらの開示が適切でない場合は、私どもの監査意見において除外事項付意見を表明することが求められている。私どもの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。しかし、将来の事象や状況により、会社は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・関連する開示を含む財務書類の全体的な表示、構成及び内容について評価する。
- ・財務書類が基礎となる取引や事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

私どもは特に、計画した監査の範囲とその実施時期、及び監査において識別した内部統制の重要な発見事項を含む監査上の重要な発見事項について、取締役会に報告を行っている。この点に関して、私どもはまた、トヨタ モーター ファイナンス (ネザーランズ) ビービーの取締役会に対して、社会的影響度の高い事業体の法定監査に関する特定の規定に係るEU規則第11条に準拠した追加報告書を提出している。当該追加報告書に含まれる情報は、本監査報告書の私どもの監査意見と整合している。

私どもは取締役会に対して、独立性について対象となる職業倫理に関する規定を遵守している旨の文書を提供し、また、独立性に影響を与えると合理的に考えられるすべての関係及びその他の事項、並びに該当する場合は、関連する措置(セーフガード)について報告を行う。

私どもは、取締役会に報告した事項から、監査上の主要な事項を決定する。監査上の主要な事項は、財務書類監査において特に重要であった事項である。私どもは、これらの事項を私どもの監査報告書において記載するが、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて稀な場合ではあるが、報告しないことが公共の利益となる場合は、当該事項を記載しない。

アムステルダム、2019年7月12日

アーンスト・アンド・ヤング・アカウンタンツ・エルエルピー

R.A.J.M エメリンクによる署名

[次へ](#)

Independent auditor's report

To: the shareholder and board of management of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V.

Report on the audit of the financial statements for the financial year ended 31 March 2019 included in the annual report & financial statements

Our opinion

We have audited the financial statements for the financial year ended 31 March 2019 of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V., based in Amsterdam.

In our opinion the accompanying financial statements give a true and fair view of the financial position of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V. as at 31 March 2019, and of its result and its cash flows for the year ended 31 March 2019 in accordance with International Financial Reporting Standards as adopted by the European Union (EU-IFRS) and with Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code.

The financial statements comprise:

- The statement of financial position as at 31 March 2019
- The following statements for the year ended 31 March 2019: the statements of comprehensive income, changes in equity and cash flows
- The notes, comprising a summary of the significant accounting policies and other explanatory information

Basis for our opinion

We conducted our audit in accordance with Dutch law, including the Dutch Standards on Auditing. Our responsibilities under those standards are further described in the "Our responsibilities for the audit of the financial statements" section of our report.

We are independent of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V. (the Company) in accordance with the EU Regulation on specific requirements regarding statutory audit of public-interest entities, the Wet toezicht accountantsorganisaties (Wta, Audit firms supervision act), the Verordening inzake de onafhankelijkheid van accountants bij assurance-opdrachten (ViO, Code of Ethics for Professional Accountants, a regulation with respect to independence), and other relevant independence regulations in the Netherlands. Furthermore, we have complied with the Verordening gedrags- en beroepsregels accountants (VGBA, Dutch Code of Ethics).

We believe the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Materiality

Materiality	EUR 61 million (31 March 2018: EUR 46 million)
Benchmark applied	0.5% of total assets (total current assets and non-current assets) as at 31 March 2019
Explanation	We have used total assets as a benchmark as we believe that this benchmark is the most appropriate metric for the performance of the Company. The holders of the notes, debt and loans issued by the Company are most interested in the proceeds of the loans to related companies, which is best represented by total assets.

We have also taken into account misstatements and/or possible misstatements that in our opinion are material for the users of the financial statements for qualitative reasons.

We agreed with the board of management that misstatements in excess of EUR 3 million, which are identified during the audit, would be reported to them, as well as smaller misstatements that in our view must be reported on qualitative grounds.

Our key audit matters

Key audit matters are those matters that, in our professional judgment, were of most significance in our audit of the financial statements. There are no other changes to the key audit matters compared to last year. The key audit matters are not a comprehensive reflection of all matters discussed. We have communicated the key audit matters to the Board of Management.

These matters were addressed in the context of our audit of the financial statements as a whole and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

Existence and valuation of loans issued to related companies	
Risk	<p>The main activity of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V. is to operate as a financing company of the Toyota Group, raising funds from third party lenders through bond issuance, loans and other facilities. The Company is exposed to the risk that a Toyota Group company defaults on meeting its obligations.</p> <p>As loans to related companies represent the most significant proportion of the Company's current and non-current assets, any impairment may have a material impact on the financial statements. As such we identified existence and valuation of loans issued to related companies including the company's adoption of IFRS 9 as of 1 April 2018 as key audit matter.</p> <p>We refer to "Note 2: Changes in accounting policy and disclosures" of the financial statements where management has disclosed the policies and procedures in respect of valuation of loans issued to related companies including the adoption of IFRS 9.</p>
Our audit approach	<p>In our audit, we have applied mainly substantive audit procedures on the balances of loans issued to related companies. The substantive audit procedures included detailed assessment of loan contracts and detailed analytical reviews. We obtained loan confirmations to determine the existence of the loans. We have verified the valuation of loans issued to related companies by obtaining an understanding of the impairment process and model. We have reviewed key judgments and estimates made by management to calculate the expected credit loss. We assessed the calculation of the expected credit loss with the support of our internal specialists and assessed the appropriateness of the relevant disclosures made.</p>
Key observations	<p>Based on our procedures performed, we did not identify evidence of material misstatement in the valuation and existence of loans issued to related companies.</p> <p>The disclosures on loans issued to related companies meet the requirements of EU-IFRS</p>

Report on other information included in the annual report & financial statements

In addition to the financial statements and our independent auditor's report thereon, the annual report & financial statements contains other information, that consists of:

- the Report of the board of management
- Other Information as required by Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code

Based on the following procedures performed, we conclude that the other information:

- is consistent with the financial statements and does not contain material misstatements
- contains the information as required by Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code

We have read the other information. Based on our knowledge and understanding, obtained through our audit of the financial statements or otherwise, we have considered whether the other information contains material misstatements. By performing these procedures, we comply with the requirements of Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code and Dutch Standard 720. The scope of the procedures performed is substantially less than the scope of those performed in our audit of the financial statements.

The board of management is responsible for the preparation of the other information, including the Report of the board of management in accordance with Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code and other information as required by Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code.

Report on other legal and regulatory requirements

Engagement

We were engaged by the board of management as auditor of the Company on 31 July 2018, as of the audit for the financial year ended 31 March 2019.

No prohibited non-audit services

We have not provided prohibited non-audit services as referred to in Article 5(1) of the EU Regulation on specific requirements regarding statutory audit of public-interest entities.

Other non-prohibited services provided

In addition to the statutory audit of the financial statements, we provided Comfort letters in connection with (i) the Information Memorandum for the Medium Term Note Programme and (ii) the secondary distribution (Uridashi) by Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V.

Description of responsibilities regarding the financial statements

Responsibilities of the board of management for the financial statements

The board of management is responsible for the preparation and fair presentation of the financial statements in accordance with EU-IFRS and Part 9 of Book 2 of the Dutch Civil Code. Furthermore, the board of management is responsible for such internal control as the board of management determines is necessary to enable the preparation of the financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

As part of the preparation of the financial statements, the board of management is responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern. Based on the financial reporting frameworks mentioned, the Board of Management should prepare the financial statements using the going concern basis of accounting, unless the board of management either intends to liquidate the Company or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so. The board of management should disclose events and circumstances that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern in the financial statements.

Our responsibilities for the audit of the financial statements

Our objective is to plan and perform the audit engagement in a manner that allows us to obtain sufficient and appropriate audit evidence for our opinion.

Our audit has been performed with a high, but not absolute, level of assurance, which means we may not detect all material errors and fraud during our audit.

Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements. The materiality affects the nature, timing and extent of our audit procedures and the evaluation of the effect of identified misstatements on our opinion.

We have exercised professional judgment and have maintained professional skepticism throughout the audit, in accordance with Dutch Standards on Auditing, ethical requirements and independence requirements. Our audit included among others:

- Identifying and assessing the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, designing and performing audit procedures responsive to those risks, and obtaining audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control
- Obtaining an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control
- Evaluating the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the board of management
- Concluding on the appropriateness of the board of management's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause a company to cease to continue as a going concern.

- Evaluating the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures.
- Evaluating whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with the board of management regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant findings in internal control that we identify during our audit. In this respect we also submit an additional report to the board of management of Toyota Motor Finance (Netherlands) B.V., in accordance with Article 11 of the EU Regulation on specific requirements regarding statutory audit of public-interest entities. The information included in this additional report is consistent with our audit opinion in this auditor's report.

We provide the board of management with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence, and to communicate with them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence, and where applicable, related safeguards.

From the matters communicated with the Board of Management, we determine the key audit matters: those matters that were of most significance in the audit of the financial statements. We describe these matters in our auditor's report, unless law or regulation precludes public disclosure about the matter or when, in extremely rare circumstances, not communicating the matter is in the public interest.

Amsterdam, 12 July 2019

Ernst & Young Accountants LLP

signed by R.A.J.M. Emmerink

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出会社が別途保管しております。